昭和二年三月一日印刷(納)

建築と社會

第拾輯　第參號

日本建築協會

昭和二年　三月一日

Tookyoo Mitsui 3 gookwan
Sekkei: Yokogawa Koomusyo.
Sekoo: Simizu Gum'.



Tatemasi no mado 300 kasyo subete N. K. B. Sotohimobiki no *Shutter* wo torituketatokoro, Aketate no tegaruikoto, sukosimo itamanaikoto nado, hokano *Shutter* ni kurabete amarini sugurete irunode odorokarete orimasu.



Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

Dairiten {Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.
Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.



Subeteno Mado no *Shutter* wo N. K. B. Sotohimobiki ni torikae te Asayuu no Aketate ni Hitode ga hotondo kakaranakunari, sonoue Kosyoo ga mattaku okoranakunatta Yokohama Syokin Ginkoo Kobe Siten.

Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

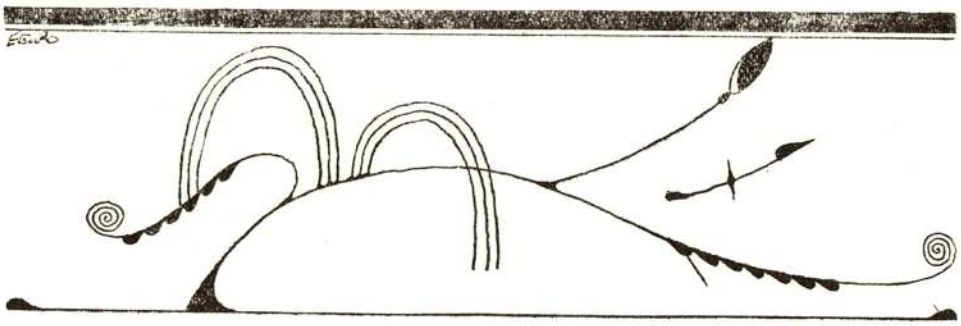
Dairiten : {**Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.**
Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.

口繪

■大阪放送局外觀　■機械室　■動力室
■調整室　■第一、第二、放送室
■平面圖　■鐵塔

◇◇◇

●大大阪を一瞥して……會員松室重光……二
●昭和時代の建築觀……會員八木幸次郎……一〇
●長屋建築に就いて……會員竹田延朗……一五
●空中威力の國防幷に通商に及ぼす影響と其可能性（下）陸軍航空兵中佐伊藤赳……一九
●統計の上から見たる若き婦人達と其住宅觀……會員松本儀八……二五



●J·O·B·Kの建物に就いて……會　員大倉三郎…一
●混凝土施行上の注意(上)……會　員下浦光衛…七
●石山城に就いて……大阪市立市民博物館長堀居左五郎…一四
●「十三」……會　員K・T…四二
●南紀の古建築長保寺と淨妙寺……會　員池田谷久吉…四三
●大阪城虎の傳說の內(一)……齋藤悳太郎…五六
●吾家を建てるには(三)……二
●會報……

特許第七九三五號(延長許可)

大野式防火捲上ケ戸

(特許大野式シヤッター)

這般の大震火災に於て兼て御定評を蒙り居り候日常開閉の至便、防火耐熱力優秀にして内外國同種類品中最も御安心相願はれ得可きものなることは左記事實に依り能く之を證明致候

一捲上ケ戸の閉鎖が咄嗟の間に完全に行はれたること

一戸鈑の連鎹堅牢にして烈火に面したる場所に於ても戸鈑各個の脫落、鎹鎹の破壞を來したるものなかりしこと

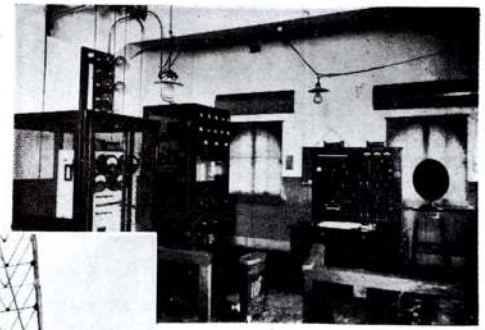
一戸鈑と戸鈑との間、戸鈑と溝金との間、上方捲込口煙返し等の密着充分にして間隙を生じたるものなく能く火炎熱風の浸入を阻止し防火の効を奏したること

以上數多の實蹟に徵し更に一段の注意を拂ひ御期待に副ひ可申確信の下に努力罷在候處幸ひ御承認を辱ふし他製品取換の御注文を始め有數建築物の復興工事新建築物防火設備等着々御採用を蒙り居候、何卒多少に拘らず御用命被仰付度奉希候

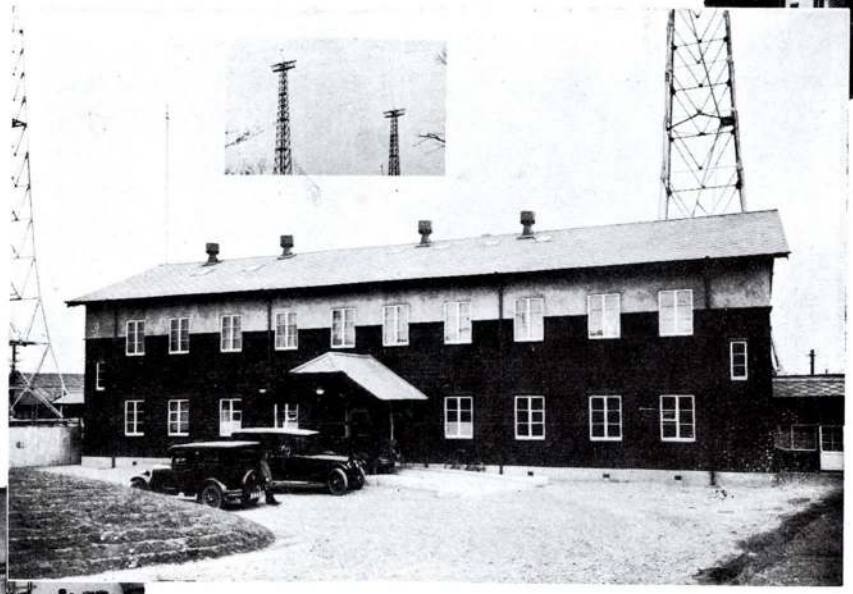
大野正營業所

東京市本鄉區弓町二丁目廿一(電話特長小石川六二九番)

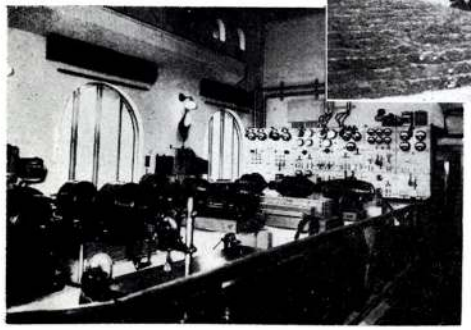
大野式特許製作品所・東京三田四國町・電話高輪三三二二番



機械室



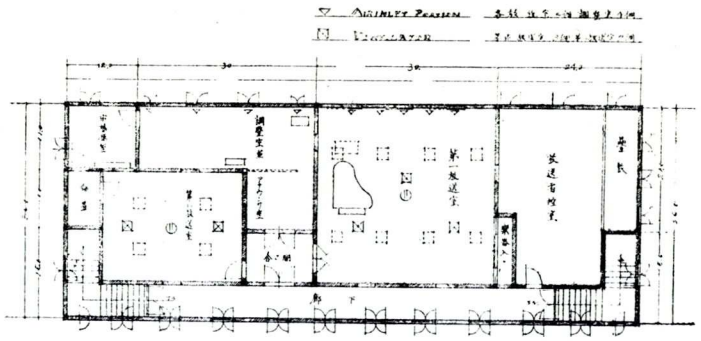
大阪放送局外観



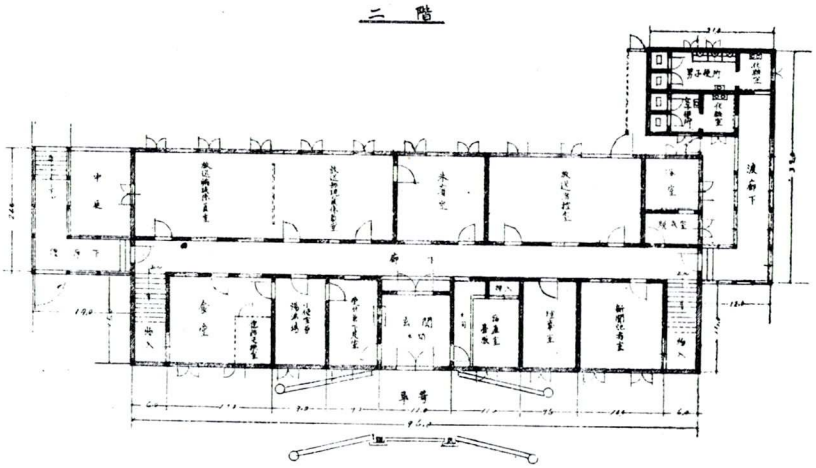
動力室



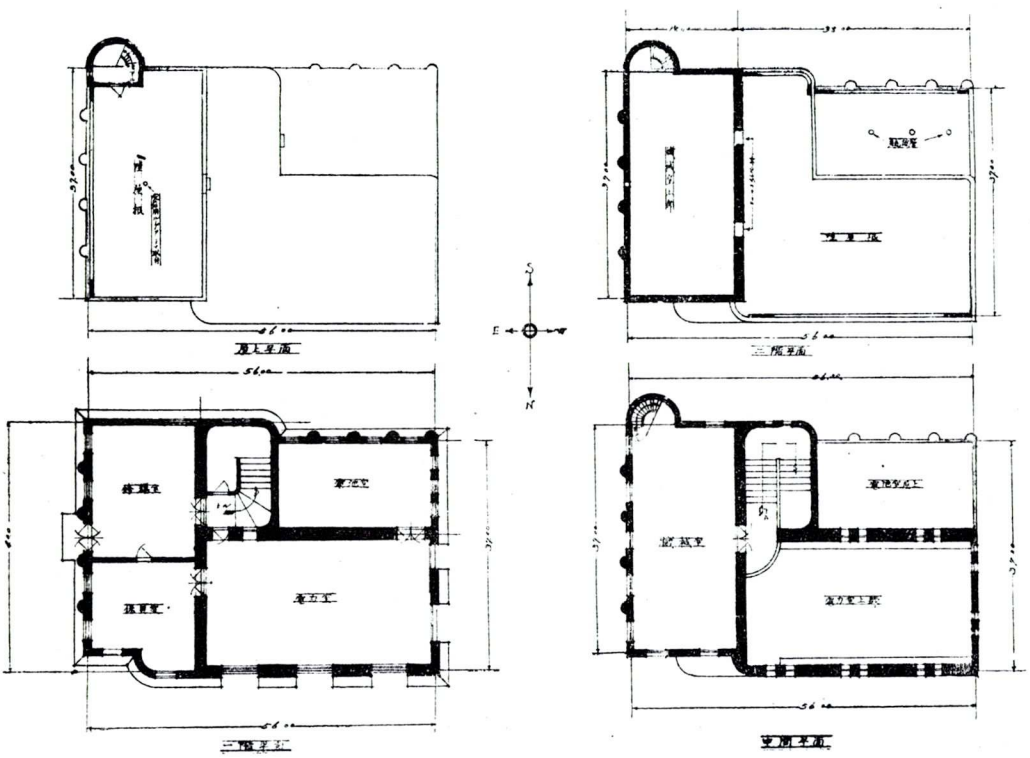
大阪放送局調整室（中央）　第一放送室（向つて右）　第二放送室（向つて左）



二階

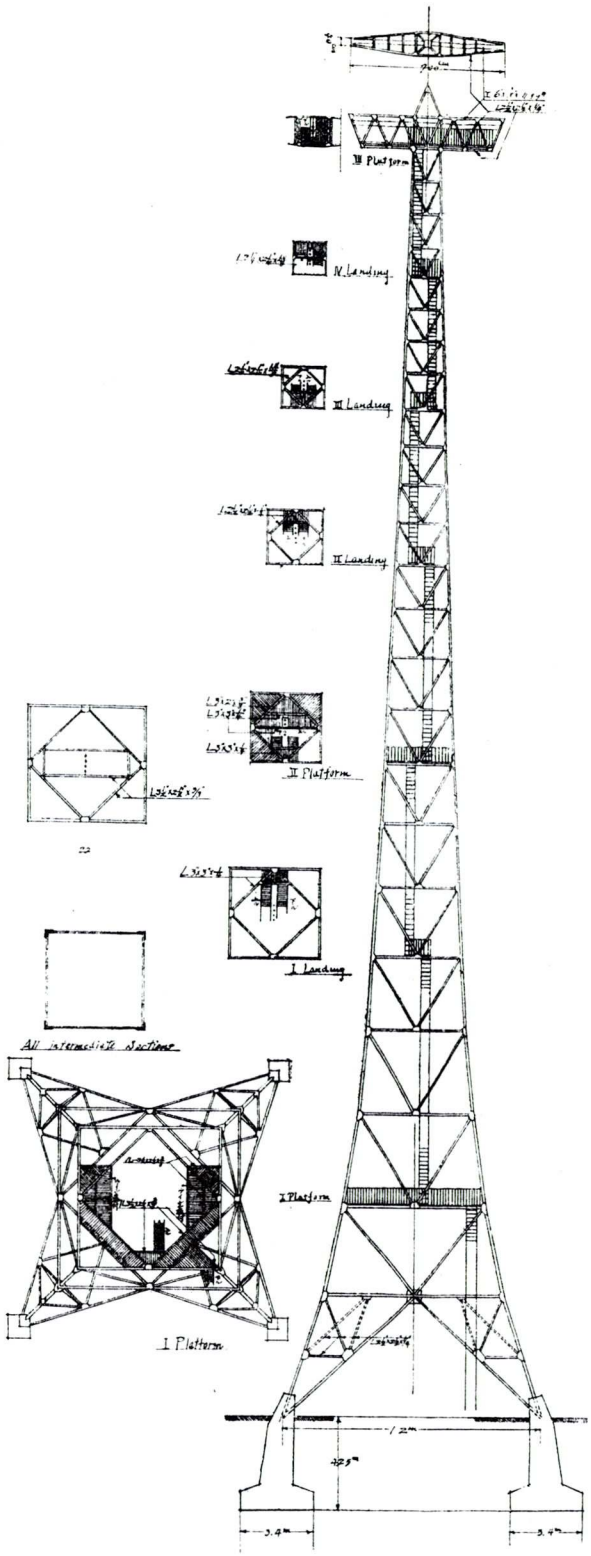


一階

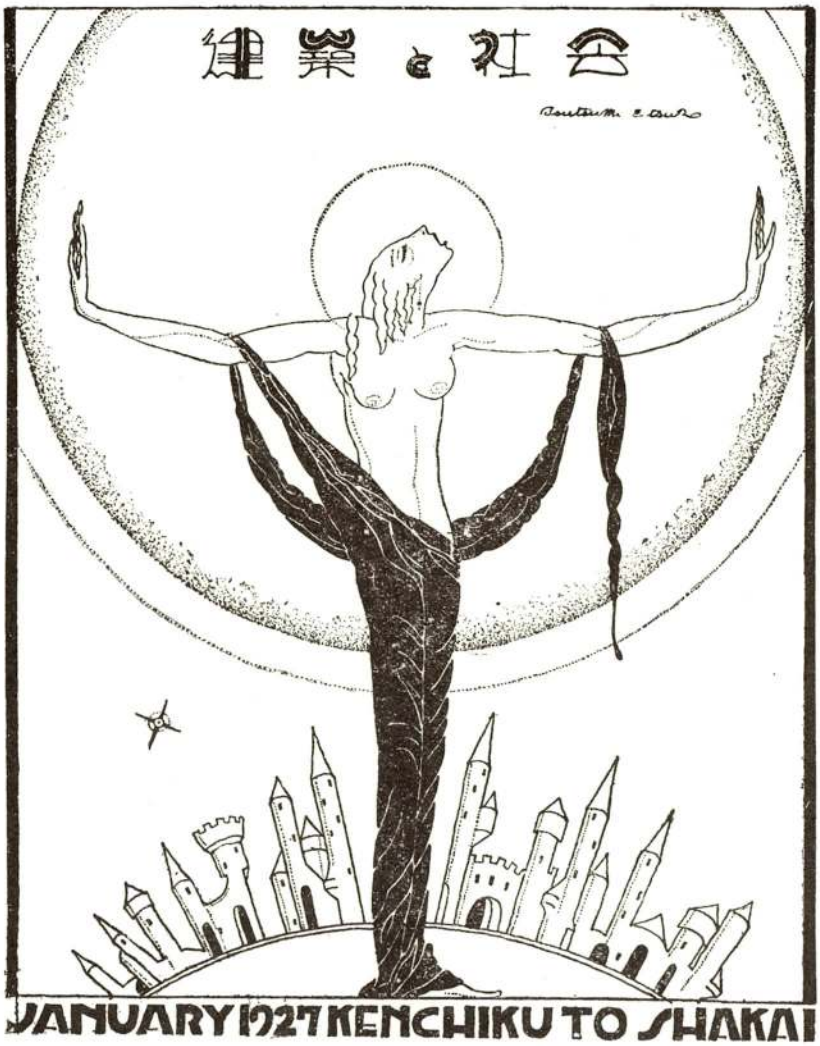


屋上平面　三階平面　二階平面　中間平面

大阪放送局

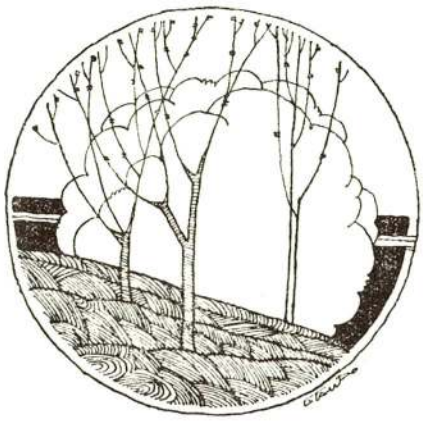

III Platform
IV Landing
III Landing
II Landing
II Platform
All intermediate Sections
I Landing
I Platform
I Platform
49.5m
3.4m
3.4m

大阪放送局鐵塔



創造

創造は、無から急激に事物の形と堅さを賦與できる全能の命令ではない。――若もそうだとすれば、それは吾々の經驗できぬ吾々に不可解な過程である。又他方で吾々はそれを物質的原子の偶然的聚合とは認められぬ。それは隨時に吾等自身の心と身體に於て認められる過程であり、不斷に感情と欲望から形相を造化しつゝあるものだ。そして、漸次に鮮明さを收得して、透明不可見のものより具象的にして觸るべきものに進轉する。この過程を吾等は吾等自身の内に於て觀察できると予は斷言する、即ち情緒から思想への轉移、それら思想より再び動作及び外部世界への轉移に於て。そは人間の凡ゆる「藝術」の根基である。（カーペンタア氏「創造の藝術」から――江村）



大大阪を一瞥して（上）

工學士　松室重光

本編は曾て本誌第九輯第十二號に「建築の事大相」として掲げたる論文の續稿として見て頂き度い。（編輯者）

大大阪を一巡して見やう。我輩は先づ梅田驛頭の親不知の險に驚ろく。

都會に於ても曾如斯險難なる場所があるか、大大阪の玄關としての梅田停車場は將に改築せられると云ふことであるから其堂々たる壯觀美觀に接するは遠くはあるまゐ。それにしても其完成を待つ間の幾年かを現在の樣な險惡なる道路亂雜なる交通其儘に放置しつづけられてゆくものとすれば茲處を往來する人々は親不知の險難を跋渉する樣なもので決死的に行動せねばならぬ。生命保險を附してない人々の通るべき處ではなゐ。

將來の大玄關として、其立派さを見る迄にも何とか假の施設がありさうなものと思ふ。それに何等の手もつけられぬのは全く當事者の不親切と見るべきである。若し之を客商賣渡世としたならば、こんな宿屋や店舗はとてもはやらぬ、大阪にも不似合千萬と謂ふべきである。

さて此梅田驛頭よりの貳拾四間の大道路は今正に其工事最中であつて、各所の道路の交叉點は第二第三の要塞を築いている。一人たりとも滿足には通さぬと云ふ樣に其險難さを自慢して居るかの如くにも見ね、其仕事に從事して居る者達は斯樣の障碍を展開して置ゐて其交通の安全を妨害して居る事を當然の權利かの如くに考へているとも見ゆる。

願はくは一日も早く其工事を進捗竣成せしめて貰つて安全に大阪に入れる樣にしてほしゐのである。

茲處で大阪の活動的都市と京都の遊覽的都市とを比較して見ると頗る面白いものがある。道ゆく人、通ふ車馬、其悉くが大阪氣分をはつきり表現してゐるから面白ゐ。無暗に圓「タクシー」が驅けてゆく、前の車を拔いて走る。自轉車が通る、それが又銘々に其前車を追拔いてゆく、そこに大阪人の敏捷さが窺はれるが、其各々違つた速度で統制なく疾驅してゆく有樣は路ゆく人達には甚だ以て危險である。

それ程に忙がしくもないのに態と忙はし氣に見せる所に大阪一流の商賣氣が見え、隙さへあれば騙ぬけんとする油斷のない根性が明瞭に反映せしめられてゐる。

事實現時の様な交通狀態から見る時は大阪の道路は廣きが上に廣くして置かねば其用をなさぬであらう。自轉車の爲にも或程度迄道敷を計算にいれて置かねばならぬであらう。其上に交通整理を徹底的に勵行すると共に其將來の施設に關して根本的の改良案を樹立しをくべきである。

大阪のみに限つた事ではないが、都市生活の意義はなかなか實現せしめ難ゐものゝ様である、共同節制の動作をなすと云ふことは都會人には容易に出來難いことらしゐ。

大阪の様な都會は全くの活動生活體であつて、茲處には其商工業的生活に於て何等の休息を認めない處の様であるから之に從事する人達即ち其活動戰闘の部隊員と其給養の關係人との外には子供も老人も其必要のないこと、倫敦シチーや紐育のそれの如くあるべきかと思ふと此最大繁忙なる商工中心地帶内に於て老幼男女がうよ〳〵と生息して居るのみならず日となく夜となく、其仕事の爲ではなくして其遊ばんが爲に出あるいているらしくも見ゆる。

從つて電車自動車等の都市生活の多忙の人達にのみ可成多く利用せらるべき筈と思ふ交通機關は用もない閑人の爲に使用せられて其運行の敏活を缺いていることは大阪とは思はれぬ位である。

前には大阪にも急行電車と云ふものがあつて其全く距離の近ゐ停留所の間を拔いて走つたから、彼の紐育の地下電の急行車の通り幾分でも要急の人達に使用せられるかと思つたらそれが廢止せられて全く程近ゐ停留所の一つ一つで悠々と停車して居るのは妙なものである。

大阪市には其商工市としての位置の明確さが未だにはつきりしていない様である。活動すべき中心に休息安棲して居る多數の人々の住宅を見るのも面白い。

土一升金一升の土地である。此上にこれを利用しなゐ人がすんでいる。其從屬が多數であつて大阪の活動體に附隨して遊んでいる、それが爲に活動中心の集結が弛んでゐる其活動の半徑が膨脹して宛かも胃擴張患者の様である。

大大阪の建設が何等の必要もなゐ此種の家族生活體によりて、必要以上の大さを要するとせばそはまことに不經濟のことであり不都合の至りである。

新鮮なる空氣透明なる日光、靜けさ、宏さ、山野の風致等家庭的安息生活に何の適合したものもなゐ大阪市中目貫の場所に、よしや以前から住慣れて來たとは云ひながら今も猶其不便を忍びて生活してゆかうとする人々の因習執着の深さよ

純然たる活動系に屬しなゐ幾十百萬の人々の爲に求めなば幾らでも安住の住宅地が得られる近郊を有しながら、其近郊に純住宅市を形成せんとはせず、依然として舊市舊都域を以て其本據と心得て居る人達の多きこと多きこと。

現在に於ては大阪は此等の人達の鬧集によりて其大を加へているのである、而して益々大ならんとしているのである、それで其市政は莫大なる費用を要し都市生活體としての幾多の施設が容易に行はれ得ない苦境に陷入つているのである。

次に道路の整理擴張に關係して到る處の河川では其橋梁の架設替が行はれている。此橋梁が如何なる形式のものとして

來るべき大大阪の景觀に相應すべく表現せしめられるかは我輩の知らぬ所であるが、若しそれ等が美術的な取扱を得て生れて來るものとすれば我輩は之を無用と思ふ。

多忙なる生活體としての今日大阪に於て、其將來も又同樣に多忙なる市街であるとした時、其狹き運河に架けるものとしては其一切の美的形式の表現は畢竟無意義のものとなるであらう。

狹くとも若し幸に其兩岸に人家の櫛比するものなく、其處に並樹敷あり往來の交通路が添ふて居る時、それ等の橋の橫面は道ゆく人々に展開せられるのであるから其美的表現にも意義と効果の之に伴ふものがあるが、今の樣に河岸が家屋を以て建詰められてゆくものとすれば橋梁の裝飾は全く無用にして大大阪の景觀には何の寄與する所もなからう。

茲處で一寸思ひ出すのは東京市の其復興市街の橋梁の裝飾施設である、なか〳〵面白いと見るべき案もあるが、其どれを見ても之が小公園か邸宅の庭に置かれたならば妙であらうと思はれる位の淸麗輕快の味はあるが、少しも莊重らしき感じを與へぬのである。

由來數多く莊重なる建築的表現の缺如せる東京に於て、一種の輕淡な色調を加へることは東京の偉大さには何の關係もなくして寧ろ現代東京式、敗頽式江戶兒の急造復興氣分の表現と見るべきではないか。これは技術家の深く省察すべき事柄と思ふ。

大阪と東京とは無論其趣を異にして居る。彼が帝都であり政治の中心であるのに對して、此は唯商都であり工業の都である。從つて其人の氣分に於ても其間非常なる相違がある。都市と人物と、其性格の相異が大阪と東京との都に體現せらるゝものとすれば、其河川と橋梁と、其道路と橋梁とそれ等の表現が又それ〳〵に異なつたものでなければならぬ。

それとすると今の大阪は百鬼晝行の都である。

大小雜多の建築が何等の統制もなく建て並べられている。色々の形式の橋が架けられてある。中の島に於ても天王寺に於ても、其何れの部分に於ても、あらゆるものが各々個々の氣分を表はして、それ〳〵分離獨立して勝手に振舞つていると云ふ體である。

過渡期の大阪としては斯る狀態に置かるゝも又不得止ことであるかも知れぬが、あらゆる時代と、あらゆる事相がごち〳〵やに並べられて無遠慮に其醜骸妍態を露呈しているのである。之を建築について見れば　在來の日本式以外に西洋式建築の歷史的展開があつて、一つの都の其一つの地區の中で古典派から分離派迄の各事代相を表現して居る。之は建築の學徒に取りては比較研究のよき資料を提供せられたものとも見られぬでもないが、都市としては整頓を缺いていて美とは謂はれなゐ、唯是一種不具相の鬼人である。

日本銀行と市廳と、圖書館と公會堂と之を見較べると其處に種々なる對照の妙味をあぢはふことが出來やう。

しかし此等の建築は大大阪の產聲の揚らぬ前の所生である其大大阪と云ふことになつた後の建築として幾多の宏壯なる『ビルデング』を見る時、或は際立つて新らしく、或は古く、銘々に思ひ〳〵の有樣で出來ていることは矢張り其處に大阪式な處があつて、財力第一金權全能我唯り尊ふしとして誇つて居るかの樣な觀がある。

大阪は其難波の都としてより以來のことを云へば遙かに京都よりも古都である。其四天王寺の古墳は聖徳太子の造營時に於てすら既に難波の荒陵として其下に寢たる故き主を知ることが出來なかつたのである。

高津の宮の大阪、佛像を難波の堀江に投じてよりの大阪、それよりずつと下つて石山本願寺の大阪、更に稍下つて豊太閤の大阪城から、其今日に至つた間に、不幸にして大阪は其歴史的の顯著なる表現としては幾ばくの遺蹟をも殘していぬのである。

で、大阪は其天王寺やお城や高津の宮などよりして得る印象以外宗教的にも藝術的にも何等人の中心深く喰ひ入る印象が得られぬ。其間に於て近松門左衛門や契沖亞閼梨の生れたのは極めて面白ね。そして大鹽平八郎の生れたのは益々意外である、蓋し之は大阪としては大なる番狂はせであつたであらう。

都市としての大阪には斯様なる番外の發生は餘り香ばしくもなね。朝日會館はたゞあれ一つだけで澤山である。他の建築は決して彼に模してはならぬ。之は何處迄も大阪朝日を飾る異彩として見てゆくがよね。斯る試みに誘導せられて同じ様な試をしたり、新機軸を出さんとつとむる様では大阪商人の追隨模倣性、粗製濫造の弊は矯め難い。

都市が有機生活體として其本來の面目に生きんとする以上は、各其組織にそれ〳〵或程度の大小比例があつて其平衡が保たれていねばならぬ。之を人體に喩へて言へば其四肢五體皆それ〳〵に或大さの比例がありて無暗に勝手な長さや大さを有することが出來ぬ。過ぎた大さの持主が不具者であるが如くに、餘りに超群なる建築若くは他の施設は其結果に於てそれ自身先づ孤立して其物自體の威嚴や美觀を發揮する前に其孤獨の寂しさを忍ばねばならぬことゝなり、他を制壓するに先ちて自ら倒るゝに至るのである。

此意味に於て我輩は都市經營に關係せらるゝ建築土木の技術者を始めとし、其他の人々に於て餘り自らのみ高ふする様な案を立てられぬことが望ましね。それは決して平凡の線より出るなと云ふのではなね。少くとも他とも協調して或程度迄同じ樂聲を放ちたい爲である、同じ道程に向ひたね爲である。即ち建築其物の高さ、階數、外貌形式等に於て、少なくとも同じ區劃内同じ街路に面して立つ時など、餘りに個々に懸け離れたる體貌を呈せしめない様にしてほしね。異様に過ぎてうつりの惡いのは共同生活體としての都市の面目でない。

川の都大阪

大阪は川の都である。安治川木津川道頓堀土佐堀等々、それ等の交通航運機能の充分なる發揮によりて一種偉大なる生命を有する處である。此點は東京や京都とは餘程其趣を異にしている。京都の河は其山紫水明の詩的意義表現以外に必要のないものである、史的價値以外何等他に利用の出來ぬものである。第一に水がなね、其間に於て唯一の運輸機關として一世の巨人角倉了意の開鑿した高瀬川は明治の大土木學者によりて其用をなさぬやうになつた、但し之は利用出來ぬのではない、利用しないのである。否利用するだけの要がないのである。それで其流れが清く淺ければ瀨尾の小川の其傳說に

相應して一種のゆかし味を持つのであつて殊更に之を利用せんとする程の必要はないらしね。

左りながら大阪の川は其利用によりて生命があり意義がある。左ればこそ其河と堀とにそれ〳〵其立派なる橋が架設せられて水の都大阪を飾らんとしているのであらう。然るに近時の施設を見ると此河川の大部分を漸々縮少して其航運の機能率を殺き、之を淺めて其利用を阻み、段々に京都のそれの様に一種の景觀中のものたらしめやうとするかの如くに思はれる。我輩は之を遺憾として市の理事者の深き反省考察を得たねと思ふ。

海と川との利用を最大に擴張して都市として最大の發展を遂てげ居るものは倫敦である。『漢堡』『ロッテルダム』『アントワープ』等はそれに次いでいる。勿論地理的狀態にもよるが歐米の諸都市は河海の連絡を完全にし、更に陸地深く運河を開鑿して都市の交通運輸機關を極度に擴張し且つ利用している。

我國の様に其國土の狹長にして急峻なる傾斜地のみ多く殆んど平地らしき平地を持たぬ處は固より同日に論ずることは出來ぬが、それでも猶河川の大に利用すもべきのがある。大阪が漢堡や倫敦のそれの様に海より深く陸地に入つた都でなく直ちに海面に臨んで建てられている爲左程迄に川を尊重する必要を認めないのかも知れんが、或は川の利用を忘れているのではないか。

我輩の大阪市に河川と運河の出來得る限りの利用を希望する理由は、それを以て單に航運の機關とする爲ではなね、之を以て道路の一部と見るからである　而して狹き大阪の街衢の間に幾分にても其交通路の面積を增加せしめんが爲である、其景觀的な利益は全くのお添物である。

非常時に於ける避難路としての川。水の供給の爲の川、それの絶對に必要なる場合の發生せぬ事を保證出來ぬ限りは川と堀とはよく調査研究して其滿足なる施設をなし以て事ある場合に備ふべきである。

京阪運河開鑿の問題

京都は此點に於て缺如している。そこで現代土木工學の大家は京都の遊覽都市歷史都市學問都市たるの現狀に滿足せず如斯狀態を以て京都の將來の爲に甚だ不可なりとして、之を工業都たらしむる方法として京都大阪の間に大運河の開掘を目論見、且つ其實現に努力せられている。

勿論此運河の主體は淀川であることは云ふ迄もなね、而して八幡、淀、伏見より今の京都迄を水運の利便によりて連絡したる大工業地帶たらしめやうとする案であるらしね。

河川航運の利便を得ることは頗る好ましい次第であるから若し此事が實現せらるゝならば結構此上もないことであるがそれに非常なる巨資を投じて迄實現を期する程の必要があるや否や、而して京都の南方平野が果して工業地帶化せらるゝ日が來るかどうか我輩は之を疑ふ。

我輩の所見では大大阪と雖も餘り遠からぬうちに其發展の限度に達するものとするのである。何時迄も現時の様な比例で遞進して都市が膨脹發展して際限のないものとは見ないのである。

即ち京都と大阪の間に於て若し利用せらるべき河川航運の

完全なる通路が出現した場合に於て其第一に利用せらるゝ土地は京都迄の中間地區であらねばならぬ。此中間地區は可なりに廣く且つ長ゐ、而して之を工業地帶として施設するに何の障害物をも見ないのである。

從つて京都平野の南部の利用を見る前に於て京阪中間地帶の利用を見ることゝなるであらう。今日の樣に各地の都市が格別其特異の色調を持つことなく、いづれも共通的な意味に發達しつゝあるの時、京都のみが運河によりて開發せられて大阪との其中間地帶が其儘で田畑となつて存在してゆくとは思はれぬのである。

都市の發達に限度があるものとすれば、此中間地帶にしてそれが工業地帶に變化するの曉、京都迄更に延長を見ねばならぬ程の必要にして繁昌の日が來るであらうか。京都は實に其工業的に大に發展膨脹すべき資源を缺いている。其比較的小規模で一寸他の追隨を許さぬ樣な藝術的工業や機織業すら次第に他の市邑によりて模倣追隨せられて其本城に迫られている時、何として左樣に大に發達するの力があるであらうか。

淀川や宇治川や又鴨川桂川の下流地域が充分利用せらるべく施設せらるるのは賢明なやり方ではあるが巨費を投じて京阪間の連絡運河を形成する程の必要時が來ないと云ふのが我輩の意見である。運河に費やすだけの經費あらば更にそれ以上の事業が起し得らるゝと思ふのである。

都市の共通的發達と其產業競爭

都市の發達は極めて望ましきことであるが、何れの都市をも共通的に取扱つて、淺薄なる行政智識の持主である理事者達が格別深き根底的な省察考慮をなすことなくして單に其表面的に膨脹發展を企圖し、自然以上に之を助長せしめつゝある事情は我輩の賛成し難い所である。

お互に無暗な施設競爭をなして一般の文化的にも又生產的にも理由のなき競爭に勞する結果として共倒れの憂目を見ることのない樣にして貰ひたきと思ふ。

都市はそれ〳〵其起原から發達の經路を史的に且つ科學的に考察したならば都市は必ずしも同樣なる基礎の上に立つていないことを知り得るであらう、而して都市はそれ〳〵其特異なる色調を爲して其特異なる方面に發達することに意義のある事か知られやう。

地理人文種々なる點に於て色々なる異彩を有してゐる都市が一樣に共通的に取扱はるゝことは決して自然ではなき。

必ず其異つた性格に對してそれ相應の待遇を與へねばならぬ、大阪が工業都市として侵々と膨脹すると雖も京都は同じ調子に發達するものではなき。我國の機織業が近畿地方より次第に北陸各地の都市に共通的競爭的に起されて其何れもが生產の過剩に苦しみ、不振をかこちて行詰つている現狀を何と見る。若し地方地方に於て夫々獨特なる生產業に勵んだならば、或は此弊を受けずしてすんだであらう、而して國內の產業を其地方的分業によりて有無相通ずることゝなし、其共喰によりて少なくとも國內的だけでも現狀の樣な甚だしき不振を招來せずにすんだであらう。

京都は其普通品の機織業に於ては疾に關東地方に壓倒せられて居る。而して其西陣は唯特殊贅澤品の製產によりて其命脈を繋いでいる。製陶工業の如きも其原料に遠き點よりして

矢張り同様な立場に於かれ瀬戸や九谷にごし〳〵壓迫せられている。瀬戸や九谷や其他の地方が段々其製品の改良進歩に努力して居るのに反し、京都の製陶業は其織物と同じく特殊品の製作によりて漸く餘喘を保っているに過ぎなのである之はたゞ都市の資質を平凡統一的なものとした結果其無用の競爭による病症である。縮緬や羽二重などの織物が丹後福井金澤と云ふ様に轉々して其生産に競ふた爲に今や其混戰狀態に疲勞し困惑しつゝある。

これは獨り都市についてのみ限られたる現象ではなお。農業中の或物は同様の事情の下にある。國家としての教育關係の如きも又然りであつて、無用なる機械的人間の製産過剰で行詰つている。

如斯事態の窮極を見たのは蓋し明治以來の餘り劃一的な法律的な偏倚政治の行はれて來た爲であらう。短かきは半年一年長きも猶三五年を出ずして其地方官を更任し、甲より乙に乙より丙にと轉々其任地を變替する結果として地方官等は其崩ゆる功名心の滿足の爲には先づ其土地の事情を知悉する前に、其自我的架空的施治劃策をなし、之を實行して其結果の良否を認識するに至らずして其位置を更へ、斯くして甲の地に於て行はんとした事を乙地に試み、乙地に於てのみ有効に實現せらるべき事を丙の地に行ひて、同種同様なる産業奬勵に徒らに力を盡くした爲であつて、其何れもが滿足なる發育完成せらるゝに至らずして未成不熟の儘に殘つて居るのである。

都市と云はず府縣と云はず、如斯の弊に墮しているのは蓋し國家の大不幸である。都市村落無論其々に其共通的なものもあらう。しかしながら又都市それ〳〵の獨特なる色彩はあるべき筈で、『ピッツバーグ』『デトロイト』『シカゴ』『ナイヤガラ』等の米國都市が皆夫々に其特異の工業で榮えているが如く、英國にありても、獨乙にありても又それ〳〵に其定められたる運命の展開に勤しんでいる。獨り我日本のみが其多くの歷史ある都市を其あらゆる點に於て共通的な取扱をなし、其歷史地理人文一切の關係因緣を無視し、之を組織する細胞の其粒の大小精粗、數の多寡を論ずることなく等しき施設に生き、等しき待遇に甘んじさしているのは果して何の考へであるか洵に心得難き次第である。

京都經營の一端

京都は其山水と其一千二百年の歷史で永久に生くべき都である。京都の生命は製産業にも又之に隨ふ商業にもよるのではなお。其四圍の山川の景致、此間に點綴せらるゝ堂塔社殿それが包有する寶物什器それ等の傳へ語る長き史實が眞に京都の生命となつている。故に京都の榮えんが爲の都計は大阪や東京のそれとは餘程異なつたものがある。無暗に廣い道路は不必要である。先づ此等の景勝地に最も安全便利に到達し得る相當な道路を通じ其舊來の物の不備を補ふことが其一つである。それ等の神社佛閣の美觀を損し、其安全を傷つける様な一切の建築土木的、又廣き營利的な計畫を禁止するのが第二である。其堂舍の建物の保存維持の方法を講ずるのが第三である。而して此等の物の觀賞研究の爲に出入する人々の爲の博物館、學校、圖書館、旅館等の完全充實を期するのが第四である。

此等の計畫は其第三第四の物を除いては餘り多くの費用を要しない。

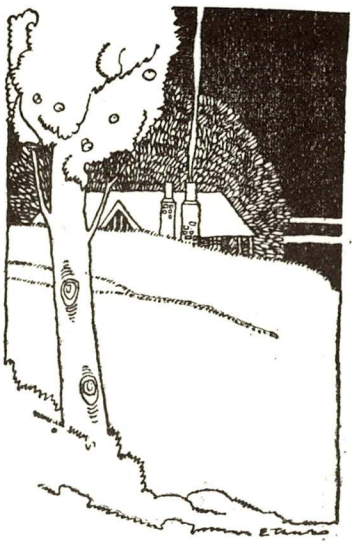
之を措いて問はず其市街の道路や建築に東京大阪を模せんとするのは大間違ひである。

しかし乍ら遊觀の爲にするものとしても比叡山の『ケーブル』は其山上の施設によりて此山の神聖や美觀や歷史を全然臺なしとしている。而してそれにもこりずして更に東山に『ケーブル』を架設しやうと試みている。不心得と其愚昧さ加減は實に言語同斷である。

社寺が競ふて其寶物殿を建造し且つ建造せんとしつゝあるのは一面我輩の贊成する所であるが、其度を過ぐしたるは甚だ感心しなゐ、多數の什寶を有する社寺に於てこそ自ら其容器陳列保存の建物を營む理由もあるが、それ程の寶什をも有せぬ社寺が其資力の裕なるがまゝに其信徒の好むが儘に殊更に建物の經營をなすのは寧ろ愚である。神官僧侶と檀信徒が其社寺の力を誇らんとする虛榮の表象たる以外眞の効果はない。若し如斯ものを個々に建築するの資力あらば之を集積して一大美術館でも建造し、世界的藝術觀賞の機關となすべきである。

學府としての京都は又叙上の如き意味に於て多少ともに其建築を考慮して貰ひたゐ。勿論今日の國家府縣の財政よりしては其建築等の藝術的表現に餘り多くを望み得られぬのは云ふ迄もなゐことであるが、他に可なり多くの政費を濫費する當路は深く思ひを此邊に致して、國家の永遠に生くべき機關としての學校建築には今一段力を致すべきである。

之と共に京都に大學のあるが故に其富其大さに於て其上にある大阪にも綜合大學を建設しやうと云ふ樣な考へは何としたものか。大阪は學府に適した土地ではない。深き哲學的思索を練るべき處ではなゐ。唯今日の大阪は餘りに實利をのみ主眼として其商工業の道德的生命を省察して居ないから、若し修身道德の大學でも作れば決して無用ではなからう。單に東京、大阪、京都と都市の順位や力の點から學府建創の案を立つるとすれば大なる間違である。既に說くが如く東京と大阪と京都とは其都市としての細胞組織に於て異なつている、從つて生活機體としての三者には各々異なつた表現形式があらう。それ〳〵に變化あるを當然とする。之を均一取扱をなさんとするのは愚の骨頂である。結果は角を矯めて牛を殺すと同樣であらう。



昭和時代の建築觀

會員　八木幸次郎

私は可成り長い間建築といふものに職業的に親しみを持つてゐるもの〻一人である。悲しいかな親んだ範圍が餘り廣くないから建築觀といふ程の權威ある達觀をするだけの餘裕が未だ出來ないので、到底表題に相應しい說抔と改まつた文句は吐けないが、たゞ今迄時代に遲れない心掛を常に持つて居てしかも經濟上の中樞地たる大阪市に數年間居たといふ事位で勝手な熱を吹くのであるからそのつもりで御讀みが願ひたいのである。將來の豫言めいた事が悉く事實となつて表れるといふ事はあり得ないことであると假定するならば、將來の建築觀といふものは誰にでも出來得るもので、しかもよくその人間の御砂糖が知れる面白いものでなければならぬと思ふ。この樣な事は一人よりも二人といふ風に數の多い程興味もあるし又豫言的中の可能性も多くなる譯で、多數の人間の熱を寄せ集める程的中の範圍に入るものが多くなるといふのではあるまいか。何も文章が拙いからとて、敎養の程度が低いからとて、社會的地位が不遇であるからとて決して悲觀すべきものではなからうし、又文章が巧いから敎養が高いから社會的地位が偉いからとてその人の將來の豫言が悉く的中するものとは思はれない。御互ひに何の爲に生を享け何時死んで死んだ後はどうなるかもわからない生物であるのだから、その者の吐く熱は豫言として考へれば、誰か烏の雌雄を知らむやといふのが名判決と云ふものではあるまいか。此の雜誌も法人組織になつてから何だか權威が出た樣に思へば思はれんでもないが、目下原稿拂底で大頭痛である爲に已むを得ずこんな手前味噌見たいな原稿も飛び出さざるを得ないことになると考へられる。私は讀者としての希望する原稿をよく〳〵考へて見ると、研究は寔に結構、論說も亦妙、學說も可、報告もよく、飜譯又頗る面白しと思ふが、何にせよ寄合世帶のことであるし、揭載し得る頁數、原稿料の高さ、讀者の範圍、雜誌の表題等から考へて見ると、中途半端な我田引水的な議論よりも、會員の勝手な熱を拜見する方が柄相當で面白いと思はれてならぬのである。その熱の中には昭和時代の建築觀見たいな豫言的なもので、御互ひに烏の雌雄を論ずる樣な責任のないものもあるのだから。

雜誌なんて云ふものはなぜ今迄種々雜多な內容を紙に接ぎ合はせて出來上つたものなんだらうと云ふことを考へさせられる。それが文字通り雜多なんだから同じ雜多でも新聞の三面記事よりも面白くないのは當然であるべきだ。人間の顏が一々異なり性質が違ひおまけに環境、敎養、地位迄も差がついて居るんだから、どんな記事を見たとて各人の御氣に召すものはない譯で、御氣に召さねば讀まれぬのが當然で、實際の所讀むには頭を使ふ、それには頭の中で記事に對する煩雜なる前提批判といふものを思ひ浮べなければならないのだから一寸面倒だ。勿論原稿によつては前提が明瞭で讀者の頭を餘り疲れさせぬ名原稿もありますが、如何に名原稿揃ひでも何等連絡のない表題の集りでは、正直のところ最後迄讀み得ないのが當り前であると思ふ。

そこでいつその事全雜誌の表題を揃へて（前提を前以てつくつて置いて）熱のある同志の記事を集めて並べる方が讀む者も樂ではなからうかとも思はれる。彼奴の課題では書かぬとか、あれが面白くないから書かぬとか云ふ御考へさへ起さねば必らず面白かるべき收穫もあらうと考へられる。

昭和時代と建築依賴者（建築主）

建築依賴者といふものを先づ金持で相當の御年配の御方と考へれば昭和時代の方々は明治の終りか大正生れとなる譯だから、少くとも新思想の持主で相當敎育ある御歷々揃ひとなるだらうから、建築家から一概に云へば御し難き強敵となるであらう。何れの時代にも苦勞人は相當あるから斯の如き人に設計を依賴されるとすれば全く幸ひで豫期以上に話のわかる善良なる御施主となるであらうが、先づ一般の建築主は單にプランに限らずエレベーションより更に進んでデテールに迄干渉したがるやかましい小姑となることであらう。其上「おだて」や「ぺてん」が利かなくなつて、何事も誠實一點張で事實の告白でなければ御取上げにならぬ迄には進むであらう。貴事務所の設計は大體よろしいが、此の點は惡いから此の點は他の事務所へやらせるから左樣心得ろとか云ふ風になるから、背に腹は代へられない設計の切賣といふものが始まり、更に着物の柄見たよに、出來合の仕入れ設計も始まらう。從つて建築事務所でも白紙では依賴者が引懸らないから設計のサンプルでも置いて取引をすると云ふ事にならうから、御閑散な事務所經營者諸君ポケットマネーで辛うじで使用人のサラリーを拂つて、お互ひに「えげつない」思ひをするよりは、私の豫言を尊重して設計サンプルの氣の利いたものをつくり上げ時代に遲れぬ樣心懸けられんことを希望する。その結果甚だ感心しないのは設計料の低下であるが、これは時代の變化で如何とも成し難きものとなるであらう。自分は設計料には全く緣のないもので苦勞は知らぬからこんな馬鹿なことを言ふのだと叱られるかも知れぬが、どうも何歩と云ふ設計料は少しぼろ過ぎやしないかと思はれるから、必らず將來はぼろくなくなるに違ひないと思ふ。何となれば設計そのものが定價入りの設計サンプルと云ふ風に商品化する傾向があるからである。

時代の趨勢斯くの如しとすれば請負業者も亦御多分に漏れずやり難い事になるに違ひない。設計請負といふ寶刀を拔いて大資本を利用して設計事務所を壓倒する勢ひは感ずべきも

やはり請負サンプルを造り定價入りにでもしなければ御施主側で承知しなくなるだらう。實費精算式請負は今後益々盛んにならうが、そんな不徹底な事後承諾的のものでは駄目で、事前承諾的な實費精算式請負となり自然的にサンプル請負となるであらう。又さうしなければこれも請負の切賣が始まつて悪くすると現在のやうな「ぼろい」工事ブローカーを落伍して、單に勞力ブローカーとなり、名物のストライキに青息吐息となつてしまふかも知れない。その上各方面より工事期間を頗る短縮すべく餘儀なくされるだらう。故に前以て何工事にも損をしたと宣傳して、ぼろい所は全く隱してしまはねばならぬから辛い。悪いことは云はぬから前以て現在以上に一般建築主に忠實なる宣傳を開始することだ。これが私の豫言に符合すべき善處の唯一の方法となるかも知れぬ。

昭和時代と建築の形と構造

建築の樣式とでも云ひたい所だがよく考へて見ると樣式と云ふものは、式の字があるから何だか一定の形を云ふ樣な感がするものだから、一寸都合が悪いからたゞ漠然と形として置きたい。形と云ふものには時々流行があつて變つて行くもので全く見當がつかぬものであるが、歐米の直輸入の時代は過ぎ充分日本化されつゝあるのが現在の狀態であるから、昭和時代に於ては全く日本の環境に支配された日本固有のものが將來に於て出來上るであらう。日本固有と云つても洋風と云ふ建物に桝形肘木等を取付ける所謂日本趣味を加味した和洋折衷式といふのではない。ただ昭和の國民性に適したものと云ふ意味であつて、斯の點より考へて見ると先づ洋風建築の大物では外形は極端に簡單になつてデテイルは種々雜多になるが、概して外形に於ては何趣味とか云ふ聲が出なくなる程淡白のものとなつてしまふだらうと思ふ。內部の形に於ても同樣の結果を見るだらう。ただ發達して複雜となる傾向があるのは附帶設備であらうと思ふ。それは昭和時代の國民性なるものが積極的となつて來るから自然に建築にも反影して外觀(形)よりも設備に重きを置く樣になると思ふ。樣式とか藝術的とかと云ふ聲は次第に薄らいで、過去の寢言位にしか思はれん樣になつて、現在御互に建てゝ居る家の氣の利いたものは特別保護建造物にでもしなければおさまらぬ迄變化するであらう。何となれば交通機關の滅法界の發達のため、電車高速度鐵道、自動車、飛行機の異常なる發展のため不衛生にして比較的高價なる生活費を支拂はねばならぬ都市の中心又はその附近に住むよりも遠隔な田園より短時間に通勤する方が氣が利いてゐるてな考から自然夜になると都市の中心は火の消えた樣に寂しくなつて來るから、建物を經營用に使ふ位で、しかもそれも飛行機や地下鐵道自動車の窓から御互に見る位の餘裕しか持たぬ身の上になつた時、誰が阿呆らしい裝飾や形を凝るものがあるであらうか。家へ歸つて氣の利いた植木でも植え方がよいと云ふ事に迄なるだらう。兎に角昭和時代と云ふものは素晴しく業務上には忙しいが、又一面にはそれだけ家へ歸ると呑氣な氣分になると云ふ人間味の出る時代であらうと思ふ。

次に住宅では都市の中心に近き所ではアパートメント式になるがこれは人が喜ばないから、餘り發達せんものと思はれる。單に使用人の合宿所見たいなものになるであらう。氣の

利いた連中は飛行機通ひとなるから郊外は悉く田園都市式となつて自然に親しむことであらう。其の結果アパートメントはやはり簡單な形の洋風建築となつて設備のみ整つたものとなるが、飛行機通の住宅は非常に上等な和洋折衷の昭和式となり、各人業務上事務所建築に廻すべき金を節約して、住むといふ意義のある住宅の方へ振向けるから立派なものが出來る事であらう。茲に於て住宅專門の男女設計家が輩出して大いに設計サンプルを抱へて巧妙に立廻るであらうから、建築樣式なんて云ふ言葉は住宅に就いてやがましく論議されるであらう。次に住宅兼商家といふ一般的の建物はどうなるであらうかと云へば、現在の如き傳統的の日本家は全然影を沒して悉く外見は西洋風に近きものとなるが、內部はやはり御粗末な日本家で我慢する事であらう。此れを稱して東京で復興スタイル大阪で軒切スタイルといふものとなるだらう。所が昭和の終りに近くなるに從つて是等が漸次綜合されて前記の無味乾燥なビルヂング式に變つて行くであらう。

之を要するに昭和時代の建築の形は今より一層西洋風となつて仕舞つて、樣式の外觀のといふ七面倒臭い裝飾的手法が少くなつて乾燥無味なものとなる代りには內部の附帶設備は驚く程發達するに違ひない。

構造方法はやはり何と云つても鐵骨鐵筋コンクリート萬能で昭和の末期頃には都市にては木造家屋は殆んど姿を消す位にはなることであらうが、田園都市にては木造の方が却つて珍重がられ益々發達するに違ひない。住宅のコンクリート化は全々我國にては不可能と思はれる。何となれば肝腎な春秋の良い氣候にコンクリートの家は寒過ぎるのと木造の樣に意匠を凝る餘地がないからである。但し何れの住宅にてもコンクリート建の部分を一部分欲する樣になることはその特長から考へて疑ひないことと思はれる。

意匠とか樣式とか云つたつて藝術的に建築を取扱つての話であつて、何式とか云ふ過去の樣式といふものは自分は見たのではないから解らないが、一般的の家の形を云ふのではないらしく特に大きいとか名建築家の殘したものとかを後日集めたものである樣だから、ゴシック式時代と云ふても住宅迄が尖つて塔やあの樣な形の窓を持つて居たものとも思はれない故に昭和時代だつて樣式が無くなる事はあるまいと思ふ。何れ大きな記念的の建物では相當凝るであらうからそんなのが五つ六つあれば後日何式と名が付く譯だから大して悲觀せんでもよいが、又丁度工合の良い事には一般の建物が單純化されて仕舞ふから、趣味によつて活きる人々は殊更に記念的の少數の大建築物に意匠を凝らすであらうとも考へられ、故に此の方面では單純化されるものとも思はれない。案外立派な昭和式が出來上るかも知れない。而し之は一部分の建築であつて、大勢は歷史の示す通り逐年簡單化されるのがよく眼に見える。勿論逐年工手間も上騰するし人間は口ばかり巧くなつて手が利かなくなるから、一般的に云へば建築物には藝術的の價値は大いに失はれる事であらうと思ふ。

こう考へて見ると我々建築家は實に前途多忙で迎もこのまゝでは昭和時代の建築家と自稱するのも恥かしい樣に思はれてならぬが、變化と云ふものは急激にやつてくるのではない。想像の速度は迎も早いものであるが現實は遲いものである。眞逆一夜の中に電車通ひの人々が全部飛行機通ひとなる樣な

放れ業が實現することもあるまいから、適當に修養しつゝありさへすれば、明治の建築家が大正で幅を氣かした例により大正の建築家も昭和で幅を利かす樣になるかも知れぬが、明治より大正への變化よりも大正より昭和への變化の方がどう考へても素晴らしさうだから、私は大正の建築が昭和で幅を利かし得るや否や頗る前途を疑つて居る一人である。僅か鐵筋コンクリートといふ構造が流行した爲に、新進建築家が追手に帆を揚げ得る機會を得たことを、毎日眼の前で見て居るものだから、昭和にては更にどんな變つた構造が出て來るか一寸見當がつかないが、不安千萬な事と思つて居れば間違ないと思ふ。非常に變つて居て大正建築家には一寸手が出せない樣な構造法が昭和に於て出現する樣なことにでもなればそれこそ由々しき大事として御互ひが考へざるを得なくなり、大いに壽命を縮めなければならぬ破目に至ることも無きしにも非ずと云ふことは忘れられぬ事と思つて筆を擱く。

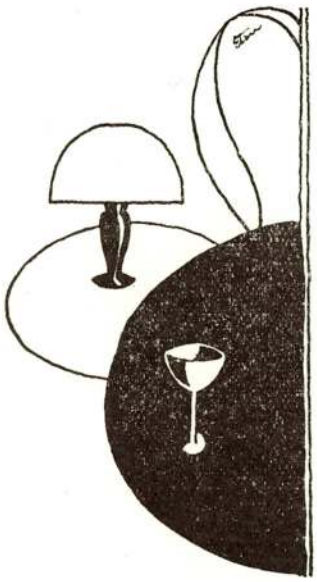
建築界の新材料

パーフェクチン現はる

セメント時代の出現といふ言葉は數年前に叫ばれてゐましたが最早理想から實際の時代に向かつてゐます。耐震耐火の建築上是非必用のセメントにも固有の灰色を有する爲セメント塗其まゝでは如何にも單調無味で、かのビルディングにしても邸宅にしても外塀にしても一見粗野の感をそゝつて殺風景たるを免れない。そこで此補足方法として建築の裝飾上タイル、化粧煉瓦等を張つて美觀を保つてゐますが、勞ひ費用も非常に多額を要する事となり、加ふるに酷暑嚴寒に遇へば龜裂、綻を生じ、剝落する等の缺點ある爲實用に適しない。依つて此の缺點を補ふには矢張、

セメント其物を完全に着色する

必要があります。然るに近來我國に於ても賣出されてゐる英國製セメント着色劑パーフエクチンは、主成分が鑛物性の色素の爲にアルカリー性を防ぎ、其面をより以上に凝固に結合する成分を有し且建築美を增加します。故にモルタル、ストレート或はタイル、漆喰其他一般セメント又は石灰を使用する場合の着色劑としては理想的であります。



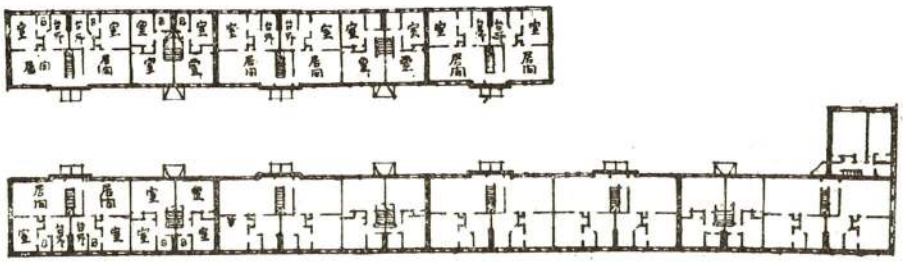
長家建築に就いて

會員 工學士 竹田延朗

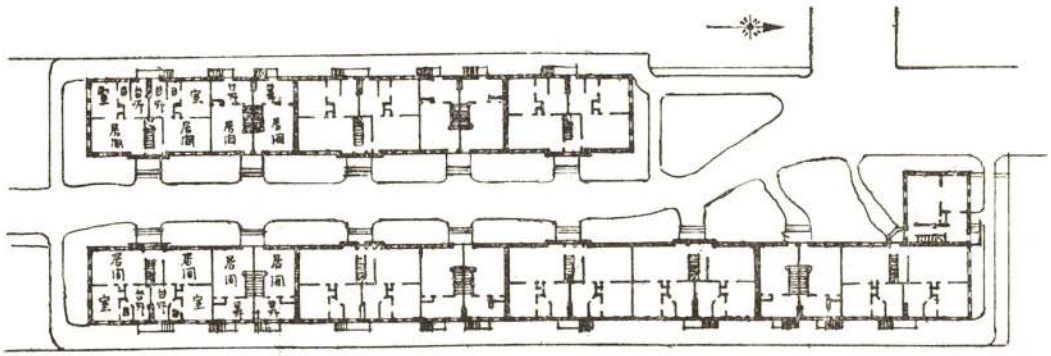
『九尺二間に手鍋さげて』と申しますと可なりローマンチックにも聞こえるが一般に長家住居と云へば余り感じよくは響かないものであります。が、然しながら此長家建築の考究は都市の發展と共に決して忽にすべからざる重大問題と信ずるのであります。否それが進歩發達こそ現在の都市住宅問題の解決の一助として我國民性に比較的一致し得る可能性ある唯一の集合住宅建築ではないかと考へるのであります。

我國の過去數年間に於ける都市の著しき發達は其一般住宅を漸次郊外へと逐ひ各都市共に最近に於ける郊外住宅の發展は非常なもので個人經營は勿論或は公共團體により或は營利會社により盛んに建設さるゝにも關はらず其樣式は依然として舊來の陋習に捉はれ徒に膨大なる地所を占むるにあらずんば徒に低級味を帶び其間甚だ改善のあとを見る事が少ないのであります。凡そ都會人が强ひて其住居を郊外に求むるには種々の理由がある事ではありませうが要するに經濟的立場が主なる原因で郊外住宅を一つの別莊的氣分を以て見る一部人士は別として都會に働き都會に生きる少く共中流以下の勤勞階級に於ては各自相應の住宅が市内或は其附近に求め得らるゝならば、凡ての點より考察して强ひて郊外に居所を定むる必要は毛頭無いと信ずるので而も近來の目醒しき都市の發達は昨の郊外も今日の都市と化し住宅は密集し地價は騰貴し更に郊外へと延んとして止まないのが今日の趨勢であるかの如く考へらるのであります、然しながら其郊外住宅地なるものが無制限に擴張され得るものでない事は明かなる事實でどの程度迄擴張し得る可能性があるかは各都市の情況地勢等によつて自ら多少の差違はあるであらうが何れにしても其都市の中心地から多く共一時間以内で到達し得らるゝ範圍に有るにあらざれば郊外住宅としての價値は極めて薄いものであると云はなければなりませぬ從つて郊外住宅としての價値は交通機關の發達に負ふ處が甚大で歐米の各大都市が之れが發達に及々たるは今更論ずるまでもなく我國に於ても東西二大都市に於て計畫されつゝある高速度鐵道の如きも此等郊外と都市中心地との距離の短縮に外ならないのであります然しながら現在の智識即ち現在の科學の力を以てして其交通機關による距離短縮にも亦限度ある以上郊外住宅としての價値ある土地に限りある事は明かなる事で現在の趨勢を以てしては都市の

第一圖



二階平面圖

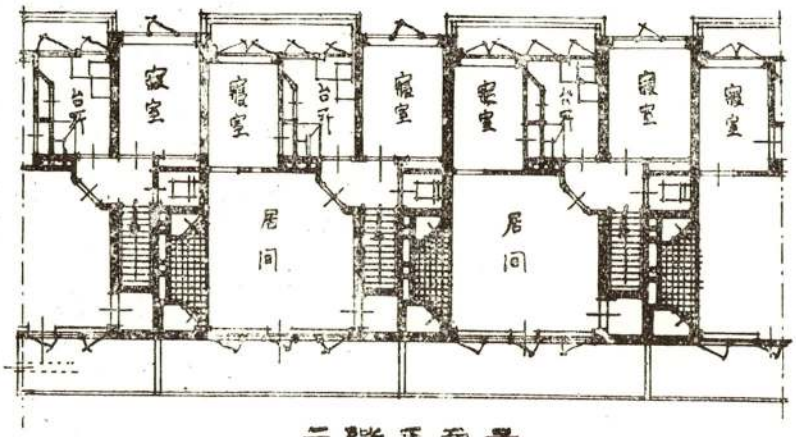


一階平面圖

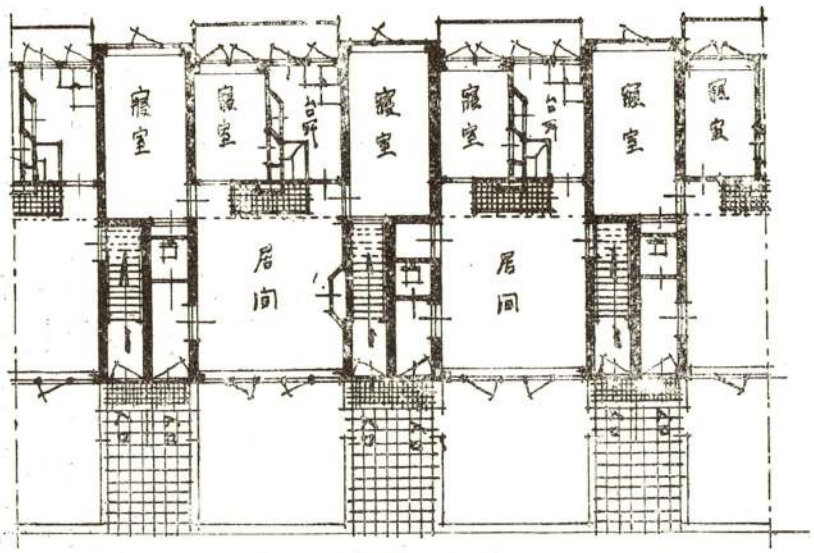
住宅問題として早晩來るべき運命は或る程度迄之れを豫想するに難くないのであります然らず共より近きより便利なる所に其居所を求むる事は都會生活としての能率增進上最も望ましき事で之れが爲めには先づ住宅のみならず凡ての施設に於て徒に平面的に膨大なる從來の都市から出來得る限り組織的に縮少且つ充實したる都市の建築を計るが刻下の急務である事は社會一樣に認むる處で爲めに都市計畫は高唱され區劃整理は行はれ各都市は競つて大ビルデングの建設に餘念なきに關らず獨り此種の住宅のみ未だ舊形を脫し得ないのは如何なる理由か吾人は一般社會人士と共に研究すべき重要なる問題と考へるのであります而も要は地所を空間と共に如何にして最も有利に活用するかと云ふ事でありましてそれが爲めには平面的にも立體的にも極度迄充實せしむる事が肝要で昨今盛んにアパートメントの論ぜらるゝ所以なのであります然しながらアパートメントハウスは譯して蜂窩住宅共唱ふるが如く一つの建物の中に幾組かの家族が共住し得る組織でありまして原則として數家族一玄關主義から成るもので歐米に於ては數百家族から住ひ得る大規模のものもありますが何れにしても其最も特徵とする處は住宅のコンデンスにあつて且つ容易に都市としての必要條件たる耐火構造となし得る事及び入口玄關廊下等の共用は其等に要する面積を其他の居間、臺所、寢室等の主要部に比して驚く可き縮少を成し得る點でありまして此種建築物の實例に見るに其等に要する面積は全面積の七乃至九パーセントにて充分に足り得るのであります、而も尙電話機、昇降機、暖房、及び換氣設備共あらゆる文明の設備の共用により比較的安價に施設し得るのみならず使用人の節

約等經濟能率共に多大の効果を擧げ得るのであります故に二三の缺點は免れぬにしても此種の住宅建築としては現在に於て最も發達したるものと云はなければならぬにも關らず我國に於ては余り其發達を見ないのは未だそれが要に迫られ無いと云ふよりも寧ろ其國民性がかゝる生活樣式に慣れるべく余りに彼等と生活狀態に於て差異がある爲めではないかと思推するのでありますそれは永年歷史的に作り上げられたる國民道德に大いに起因するもので何等か特殊の或共通目的の上に共存し得る家族以外には早急に之が普及の可能性あるか否か判斷に苦しむもので茲に寧ろ長家建築即ち從來の長屋式住宅の改善發達を推奬する謂所であります即ち長屋住宅は一戶一家族主義に近似して比較的に我國民性に一致し易く而もアパートメントの有する特徵をも相當に加味し得てよく耐火建築たり易く尙且つ暖房其他の衞生設備等をも充分に共用し得る可能性があるからであります。然らば如何に此種の建築を最も能率よく最も氣持よく最も經濟的に改善發達せしむるかは我々建築家のみならず一般社會人士の考究に俟つ所が甚だ大で歐米に於ても近來此種の住宅建築が盛んに研究され建設に向ひつゝある傾向が見受けらるゝのでありまして最近の雜誌に散見したる長家住宅の平面を借りて聊か蛇足を添へて此種建築の一助ともと思推する次第であります。即一圖は米國のハーバート大學の結婚せる學生の爲めに設計されたる長家住宅の平面で其所在地カムピレッヂ郊外の人口がカムピレッヂポスト

第二圖



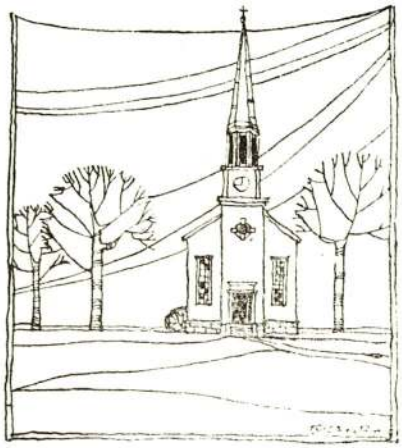
二階平面圖



一階平面圖

ン間の地下鐵道の完成により最近著しく增加したる爲め此等學生の住宅難の補助を目的として特に建られたものでありまして目的は特殊ではあるが參考として相當價値あるものと思ふのであります。即ち全部二階建で其平面は二種の樣式よりなり一つは我長屋式に一家族一玄關主義が採用され簡單なる玄關の外に居間と臺所とを有する一階と二つの寢室とよりなる上下四室を以て單位とし各階に二家族宛都合四家族共住し得るアパートメントの樣式を混用したるものではありますが相當興味ある新しき企であります。

第二圖はオランダの首府ヘーグに於ける長家住宅の一例で住ひの機械と迄評せられたる此種の建築としては可なり細心の注意と苦心とが拂れたる平面でありまして各居間と臺所の外に三つの寢室から成るものと二つの寢室からなるものと及び一つの寢室からなるものとの都合五室單位と四室單位と三室單位との三種類を極めて巧妙に配置したものでやはり二階建でありますが上下各階立派に一戶の形式を備へて各戶獨立の入口を有する點など唯に平面的區劃のみならず立體的にも頗る有効に取り扱はれたる好例で得る所少なからざる平面と考へるのであります。



空中威力の國防並に通商に及ぼす影響と其可能性（下）

陸軍航空本部々員
陸軍航空兵中佐　伊東赳

（五）

次に航空機より投下する爆彈の威力に就いて御話を進めます。爆彈投下の威力は其目標によりて大いに其効果に相違があります。故に之れを二別して小目標に對する場合と大目標に對する場合とに分ちます、歐州大戰役中に於ては爆彈の威力は恐るべきものである事を傳へられて居りましたが、戰後其成績に就いて檢べて見ると餘り大したものでなかつた、巴里の如きは屢々ツエペリンの襲來を受けたのでありますが、其投下せる爆彈が大部分は郊外に落下し損害の程度も比較的微弱であつた事實は寔に意外ではありませんか、蓋し都市の如き大目標に對しては威嚇の功果は認められますが之れを壓倒殲滅することは困難であります又小目標に對しては、爆彈の命中精度は大したものでない、敢て臆るゝに足らぬ樣でありました。

然るに大戰後、米國に於ては海軍當局と航空部との間に爆彈投下の効果につきて議論起り、一九二一年議會の大問題となり爆彈投下の實演をやる事になりました。丁度獨乙から分捕しました。最新式の軍艦を試驗の目標として實行しましたが其成績によると、私共の今迄考へて居た想像を全く裏切つたのでありまして、恐るべき威力を軍艦なる小目標に加へたのでありました、歐州大戰時と異り射中精度が非常な確實性を來した許りでなく爆彈が船體を離れて水中に爆發するときは空中に爆發する時に比し其威力は約四倍位になつて發揮したからであります。之れは水が壓縮性の少ない爲めに爆裂力が增大するのでありまして、其際衝き上げられる水柱は實に偉大なもので其落下の威力も亦恐るべきものがあるのであります。故に軍艦に對して爆擊を實行する際には、其軍艦の長さを直徑とする圓周內に落下せしむるときは必ず其軍艦をして致命的損害を蒙らしむるのであります。即ち此際軍艦其物に命中致しませんでも必ずや其通信機關を破壞したり或は軍艦のリベットを破壞し沈沒せしむるに到るのであります、米

國に於ける投下の試驗の際には獨逸の分捕潛水艦を百八十呎の爆彈二個にて立派に破壞し、驅逐艦に對しては三百呎の爆彈を有する十二機の編隊爆擊にて之を半折しました時間は僅かに二十秒でありました。裝甲巡洋艦に對しては飛行機一臺に付約六百呎の爆彈を有する十二機の編隊爆擊の結果約二〇秒にて胴體眞二つとなりました。

又一九二一年の六月二日の試驗によれば、超弩級戰艦グリーシランド號（曾て北海航行の際、魚雷や機械水雷に觸れたるも二回共完全なる艦底の三重構造のため無事歸航せる程の全く沈沒を知らぬ堅艦と命名せられたものでありますが）の試驗に際しては大型飛行機七臺の編隊爆擊にて三千呎の高さより二千呎の爆彈一ッ宛投下し約三十秒にて擊沈しました。（尤も前回の試驗に於て六百呎の爆彈にて襲擊し二千噸の水を浸水せしめた後でありました）此時は約三千呎の空中より舷側附近に落下し水は數十丈に飜騰し水柱の重量六千噸が甲板に落下して甲板上何者も止めざるに至つたと云ふ恐るべき威力を發揮したのであります。

歐州大戰當時空中威力によりて市街を攻擊すること數十回に上りましたが、多くは郊外地に落下し、命中率甚だ少なく其威力の如何を疑はしめましたが、此報告で見まするに船艦は非常に損害を受くるものと考へられます。

今軍艦又は艦隊に對する爆擊の經過を考へて見まするに先づ驅逐戰鬪機を以て敵の戰鬪機を壓迫しつゝ輕爆擊飛行機を以て敵艦に輕爆彈を投下し或は毒瓦斯彈煙彈を甲板に散布し煙を以て艦船の甲板を覆ひ次で重爆擊飛行機（一千呎の位の爆彈を搭載す）を以て攻擊するのであります、重爆擊機に在りては爆彈の投下命中精度は三千呎位の高度にて其効果著しかるべく、四千乃至六千呎位の高度にてもよく其効果を全し得るものと信じます。

『我陸軍にても數年前F六〇號大型飛行機にて伊良湖の附近にての爆擊試驗の結果によれば二百キロ百キロの爆彈を千米突乃至千五百米突の高度より或る目標に投下した所中心より百米突の圓內に悉く投下されました、則ち其命中率は高度の十分の一以上の半徑以外に出でなかつたのであります』

又米國の試驗に依りますと塩素化合物や燐化合物を軍艦の甲板に落下したる結果軍艦の內部には人間が特別のマスクを用ゆるにあらざれば入る事が出來ぬ位の効果を奏し殊に水中の爆發威力は可なり遠距離に達し、一哩半の圓內に於ける見學の軍艦が其コンデンサーに異常を起し三哩位の速力にて港に歸つた有樣でした。空中の威力は海上の船艦に對しては誠に効果の大なるものがあります。

（六）

大目標に對する爆擊の話に移りますが、市街又は大工場地帶の如き目標に對しては航空機は直接其目標上に飛行して爆彈を投下する許りでなく遠距離より間接に爆彈を送りて其爆擊効果を收むることを得るのであります此の目的に使用するものは空中水雷又は滑空彈であります、空中水雷と稱するものは操縱者を有せざる發動機と調整裝置とより成れる小型の飛行機にして廻轉機に依り方向を指向し燃料の許す限り遠距離（百哩位の距離）に達せしむることを得るのでありまして之れを發明するは地上から空中へ放ち飛行機から無線電波によ

り操縦するのであります。又滑空彈は羽根を有し其推進力として重力を利用し空中滑翔に依り爆撃すべき大目標に到達せしむるものでありまして其到達距離は滑空彈を搭載する飛行機の高度千呎毎に一哩の距離に指向することを得るもので例へば一萬呎の高度の飛行機より投下すれば十哩の距離に達せしむることを得る譯です而して其方向維持は廻轉機又は無線電波に依るのであります。

序で乍ら御參考迄に御話し致しますが爆撃の遣り方は或地上物體例へば長い建物に在りては其長軸に沿ひて一直線に其直上を飛行する事が爆撃の効果を收むる唯一の手段でありまして非常に熟練を要するのであります殊に風が其方向と交叉するときは、最も困難を感ずるのであります。

大目標に對する實驗は實行不可能でありますが、小目標に對する實驗に徴すれば今や歐洲大戰時に比し隔世的の効果が認められます。

（七）

航空機の軍事以外に貢献する威力とも申すべき事柄に就き御話致したいと思ひます。

航空機が他の輸送機關に優る點は其快速力と空中到る所人員貨物を輸送し得るにあると云ふ其特長を採て今日交通々商運輸郵便其他有らゆる事に使用して其力の大なるものあるを認めらるゝに至りました、電信電話鐵道が全く杜絶しました彼の東京震火災の際若し所澤の飛行機が直ちに出動出來ませんでしたら如何でしたでありませうあの時の如きは實に航空機の威力の恐るべきものあるを考へずには居られないのであります。

北は高崎の方面南は伊豆大島より東は千葉、西は箱根を越えて沼津方面に大活動をいたしました、則ち空中寫眞によりて各方面の狀況が半日にして明瞭になりました。空中寫眞は皆樣御存知の事でありませうが、陸軍の地形測量に使用して居ります。これは焦點距離ト高度計により測定したる實際の高度によりて二十萬分の一又は五萬分の一の地形圖に引なほすのであります。此の測量寫眞は千葉下志津の學校で研究して居りますがこれは普通寫眞と異なりまして双眼寫眞に依り影圖を檢査しますと地上の塹濠の深さ迄も判定することも出來るのであります。現今では空中寫眞は撮影後よく三十分以內に仕上げる事が出來るのであります。これを地形圖になほします。從つて陸地の測量は民事に於ても必要なることであります。地形測量を行ふには二百臺の飛行機を使用致しますると往時數十年を要しましたものが數年に完成することが出來るのであります。

昨年四國の大演習に際しまして飛行隊の一部は大地形圖を作成するに一ヶ月の日子で間に合はせました。從つて從來澤山の費用を以て數十年の努力による地形圖は今日にては數年に完成することが出來るのでありまして非常なる威力を感ぜずには居れませぬ其他森林や探海や水路等の遠察に使用致します。耕地整理の如きもかなり短時日に設計を得ることゝなります。米國にては一九一二年森林の巡羅に用ひ、非常に廉く効果を得られた事があります。沿岸の密獵や魚漁や海難其他の狀況を視察するのも應用せられて來ました。

米國の民政省にては飛行機を用ひて空中の水蒸氣に雨を起

さしむるの試驗をやりました、最近の雜誌によると、米國海軍の飛行第一中隊では三三〇〇呎の高度で感電せしめたる砂を旋風器にて放散し雲の濃度を約半分送風機に依り撒布せしめて雲の濃度を半減し得ることを立證し又た或る場合の試驗に於て高度一二〇〇呎に於いて濃霧に襲はれた際砂の飛散に依り飛行進路を明瞭にし無事着陸をなし得たりと云ふ事です、又其應用として飛行機によりて牧草の種子を投下せしめ牧草を生じて家畜の飼養するの方法も將來可能性ありとして研究しありと云ふ事です。一九二四年比島ミンダナオの耕地に於て、イナゴの群を甘藷畠から飛行機によりて追拂つた事實があります。これには砒素其他の藥液を撒布して退治し又は果樹園の虫害を免れた事實があります、綿花等には適當の藥品なき爲成功を見なかつたさうであります。其他荷物の空中輸送や魚軍の偵察や、漸次各國の利用する所となり又民政方面にも威力を現はし來る樣になつて參りました次第であります。

（八）

次に郵便飛行や商業飛行方面の御話をいたします。茲に民間飛行と商業飛行とは判然と區別する必要があります、民間飛行は政府の民政上の必要に依り使用する飛行の謂でありまして他の輸送機關と競爭すべき性質のものではないのであります而して商業飛行は鐵道船舶等經濟上に競爭をなすのを本然とし其發達を計らん爲めには徹底的に經濟的利益を示さなければならないものであります。

斯の如くして歐米郵便飛行は非常なる發達を遂げつゝあります。其最初は白耳義に發達いたしまして漸次に各國に及び今日にては銀行家方面に關係する所が多くなりました。時これ金でありまして殊に利子の問題の如きは其影響する所多大であります。米國の如き大經濟國では紐育のみにても日々の手形取引高約一億弗に上り、輸送時間の短縮は大なる經濟利益を齎らす事となり此方面の飛行が盛になりつゝある次第で從來の飛行が飛行に要する費用と空中輸送を有利とする物品の知られざりしとに依り其發達を阻害せられたる譯でありまして斯の如き事實に言及しましたのは單に經濟上の活動に於ても空中輸送が大に貢獻し得る餘地あるを紹介しましたに外ならぬのであります。今若し亞細亞の中心と歐米の中心との間に空中郵便飛行を設定し四五週間の日數を六〇乃至八〇時間に節約するを得ば其結果果して如何でしょう。昨年八月伯林の『フルーグハーフェン』有限責任會社の貨物輸送狀態によれば、

出發	到着	送量客	小荷物	荷物	郵便物	新聞
九七機	九五機	四、七六三人	三、〇一〇斤	—（ルフトハーク ル——グールハーゲル間）		
一、〇三六機	一、〇三〇機	六三八人	二、二三〇噸	一八噸	五噸	一〇噸
一、五四五機	一、五四三機	五、〇八八人	—（ライプチツヒ——伯林間）	九月中（伯林中央——ライプチツヒ間）	三三噸	三、七〇〇噸

（尙會發着見學の客 三七、〇〇〇人ありたりとの事なり）

商用飛行の運賃の關係に就いて御話をいたしませう。歐洲商業飛行の進歩は最近著しいものがありまして其哩單位に於ける費用は鐵道船舶に依るもの丶三倍ですが大戰前に比すれば現今は三分の一に減少し尙ほ漸次低下の途中にあります、此の事は單に費用の計算の結果ですが飛行の速度大なる所より生じて來る利益は之れを度外視せるものであることを御承

知下さい。

航空船の運賃はこれよりは廉でありますが今統計がありません。それは何と申しても航空船の輸送力の方が飛行機の夫よりも大であることは確であります、獨乙のツエフペリンの如きは戰前二十萬人から輸送致して居ります、速力は汽車の二倍位であります、今日にては、R2の三三號、Rの三四號の如きは共に瓦斯内容積十萬立方米からの大航空船ですが太西洋を航行いたして居ります、米國の論者の書いたものを見るに、紐育とシカゴとの間の兩終點の設備費は二千萬弗あればよろしいそうでありますから、是を鐵道船舶のものに比すれば航空港としては決して高價なものではないでせう紐育を終點とするペンスルバニア停車場は二億弗を要せんことを考へたなら航空港は二十箇所設置し得る譯です。

航空船としての獨乙のツエッペリンは成功せるものであります。ペルサイユの國際會議に於ける航空制限の結果全く頓挫して居りますが、戰前の發達は非常なものでありました、現今各國會社の合同に依るツエペリン會社は大航船の建造に着手してをるとの發表を見て見まするとと容積十八萬立方米、長さ二六〇米突、最大徑四〇米飛動機七臺、三〇〇〇馬力であつて最大速度一四四キロ米突、旅行時速一二〇キロ（七二哩）最大航續能力は一二、八〇〇キロ（七六八〇哩）といふすばらしいものでありまして紐育倫敦間を無着陸で飛行し得られ、其經費は六五〇萬弗との事であります。

航空船の旅行は愉快なものであります、鐵道中船舶の如き不快なる衝動は之を感ぜず飛行機よりも乘心地よく室内廣く設備完全にして一望千里旅客をして、超國家的觀念を旺盛ならしむること他の輸送機關の比でないのです米國に於ては今や航空船を母艦とする飛行機を携行し時速六〇哩の飛行中に於て發着し物品燃料の受授、乘員を乘降せしむるの實驗を經たと云ふ事です此の事實は大に航空船の價値を向上して居ります、由來航空機は發動機の爆音が騒しいので昨年十二月佛國では發動機消音裝置の公式實驗を行ひ優秀の成績を擧げました其發表に依りますと發動機の能率を良くし十パーセント乃至十八パーセントの燃料節約が出來消音の効果は一二〇〇米の高度にて地上から何等音響を聞き得ざる程なりと云ふ事です。

從つて將來小音の航空機は地面よりの注意を免れ行動の自由を得る事になります。以上述べました通り航空力の堅實にして且つ永續的なる發達は之れを健全なる商業飛行の基礎の上に確立すると云ふことが益々痛切に感せらるゝ次第であります。

其他商業飛行の基礎として長途飛行を試みて居るデビネード大佐の如きは日濠伊を連絡せしむるため五五〇〇粁の長途飛行を體驗し『リグノー』大尉は昨年十月二十八日『ルブルジエー』を出發し無着陸直線飛行に依り翌日波斯の『ジアスク』に到着せり其飛行距離五、四二五粁（二、三九〇哩）飛行時間三十三時間なりしと云ふ思ふに地球一週期日の短縮は今や只時の問題となりつゝあるのです、日本に於ては川崎造船所で金屬製ドレニエル式飛行機のパテントを買收し之れに改良を加へて陸軍に供給せるものは實に世界一の評ある大型金屬機であり又最近朝日新聞社に供給することになりましたのは中型の金屬製飛行機で中々優秀な交通用飛行機です。歐洲にては

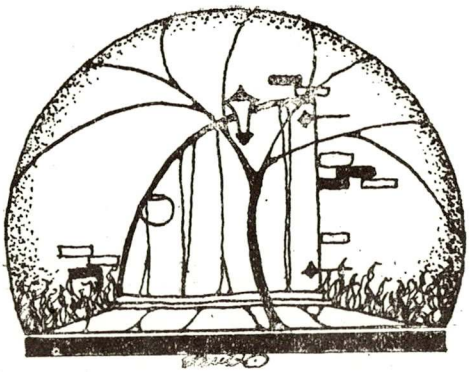
ルンプラーやロバルトバツハ會社は大洋横斷用の飛行機の製作に工夫を凝らして居りますが、ドルニエースペルウヲール型の如きは重量十噸六五〇馬力二臺、人員前部に十三人後に八人を載せるのみならずタンクの油は二〇〇〇粁、（一、二〇〇哩）に達し得る樣な大型機を完成せんとして居るのであります。

結論

上述しました所は空中力は軍事國防のみならず運輸交通上文明の要素であつて飛行は實に最も迅速便利なる交通の手段を提供するものなることを紹介しました積りであります飛行術發達前は水と陸とのみに限られた交通運輸が今日にては水陸兩者を覆へる空氣を利用し得るに至りました即ち私共人類は將來空中力と相離るべからざる因緣が出來て國家永遠の平和幸福は將來空中力に依りて保證せられる事でありませう。

何となれば發達せる空中力は有事の際我上空に來襲せんとする敵空中力を擊破し得るのみならず海洋を横斷して我海岸を脅かさんとする敵艦隊に對しても容易に之を防禦し得るからであります加之空中力は平時に於ても有用なる目的に之を使用し得るを以て此點に於て空中力は常備陸海軍と大に趣きを異にするものにして後者は常に相當の兵力を養ひ之を訓練するを要し經費頗る大なるに拘らず其價値を發揮するは國家危急の場合のみに限らるのであります換言すれば國家の有する空中威力は軍事上經濟上國際競爭に於ても勝利を得るの重要要素でありますからして空中威力の原則としては人員材料及武裝準備の許す限り最大行動半徑を有する空軍を創造することが國防通商上最たるものに歸着するものと信じます。

私の不行屆の講演はこれで終りであります。つまらぬ事又わかりにくい御話を續けまして恐縮です。（完）



統計の上から見たる 若き婦人達と其住宅觀

會員 松本儀八

大阪府下の公私高等女學校の最上級の生徒でこの三月の陽春に學校を巣立せんとする人達の爲に、住宅建築に關する講演をと切なる依頼をうけ、先般來三越の八階を會場として其講演を試みたのであつた。

其砌り現時の年若き婦人達が住宅なるものについて日頃ろ如何なる考へと希望を爲して居るか、其考へと希望の流れの方向を調べてみる事も、必ずや何等かの參考となりはすまいか。

殊に私共の様に豫て住宅建築に携つて居る者にとつては一入、參考の資料ともなるのであろうと云ふ考へから、講演に先つて問題紙を與へ、其空欄へ夫々答へを需める事にした。

集つた女學校は其數公私合せて十八校、生徒數二千二百内外であつたけれど、解答欄に正しい答の記入のないものもあつたために、ほんとの統計の數字として現はれたる人數は二千百四十一名となつて居る。そして其第一問は

『和風住宅と洋風住宅と何れをお好みになりますか』

と云ふのであるが、其答は次の様な數字となつて現はれた。

(一)和風住宅即ち和風趣味の生活を好むもの全員二千百十一名中八百七十七人で全體からみれば四割一分に相當し、つぎは(二)和洋何れも其長所を取入れたい、中には疊の室の量を成る可く、多くし度いと云つた様な希望條項を附け加へたる段に見受けられたが、兎に角和洋兩式を併用し度いと望むものもの其數七百三十三人で、全體の三割四分三厘を算し(三)洋風住宅を好むものは五百三十一人即ち二割四分七厘と云ふ勘定になつて居る。

之に使て之を見るに、和風趣味最も多く、和洋併用、洋風と云ふ順序である。そして和洋併用とても疊の量の多からん事を欲する人達が可成りに多い處をみれば、大勢の趣く處は疊

式に據らんとするの傾向であると云ふ統計の數字をみて寧ろ意外の感を深ふしたのである。

私共が常に架空的に考へさせられて居る事は、現代の年若き婦人達の住宅に對する嗜好は大抵洋風趣味か、さもなければ和洋併用を望む人が恐らく大部分で、和風住宅を好むなどゝ云ふ人達は迚ても問題にならぬ位僅少の數字であらうと云ふ見解であつた。

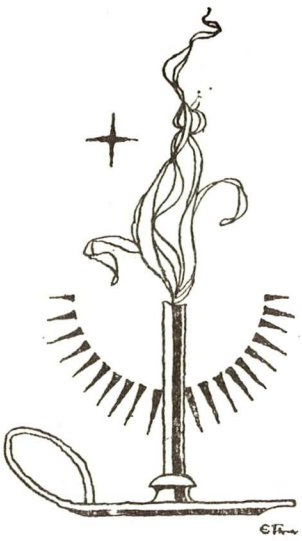
女學生達の服裝にしたところで、約其七割位迄は洋裝のやうに見受けられ、一面世界の風潮からしても日本の様な所謂二重生活の煩をのがれて須らく椅子式生活に馴染まねばならぬなどと、到る處の講演會や研究會の集合などで大きな叫びを耳にするの今日、其反面に斯様に意外の數字の現れをみるのは寔に意外に感ずるのであるが、之は大に玩味すべき實際問題の閃きではあるまいか。

何れ又機會をみて、日本在來の住宅中改良し度いと思ふケ所、住宅の中でどんな室が最も必要であるか、などについての答へも發表する折もあらう。

「カット」圖案當選發表に就いて

豫て懸賞募集せる「カット」圖案の當選者は本月例會にて發表の豫定なりしも、本月は通俗講演會、來月は春季大會につき、來る五月例會まで發表を延期す。

日本建築協會



混凝土施行上の注意

下浦光衛

本編は、客年十月混凝土施工法講習會に於ての講述を、さらに手記されたるもの、僅に限られたる聽講者に向つてなされたるものに過ぎざるも、本編講述の要旨は、單り限られたる講習者にのみ局限さるべきものにあらずして、現下勞働問題の頻りと議せらる折柄、一般に向つて提供さることは、本編講述の要旨にふさはしき事なりとす。故に、編輯者は氏に請ふて此處に掲載することゝせり。（編輯者）

内　容——

1 概　論
2 原因を斷つ事
3 終始一貫せる共同の力を要す
4 コクリート構造の種類
5 運搬裝置の種類
6 鐵筋の種類
7 堰板の檢査及掃除に就て
8 混凝土打ち用具
9 混凝土練方
10 水面以下に於ける基礎混凝土打ち
11 一回打ちと二回打ち仕上げ
12 柱混凝土打ち
13 壁地　同
14 壁梁、窓臺　同
15 柱と梁、大梁と小梁取付の注意
16 梁と束　同
17 階段打ち及漏出混凝土の處分
18 豆板の意義と其處置に就て
19 云ひ易く行ひ難し
20 自己の職業的信念が必要
21 西洋カブレを止めよ

1　概　論

コンクリート施工上の色々細い注意を申し上げる前に、何故に聲を大にして、斯様にコンクリートの施工をやかましく言はねばならぬが、又吾人は如何なる信念を以て、此仕事に從事せなければならぬかと云ふ二つの事柄に就て、御話を申上げねばなりませぬ。

諸君も御承知の通り、我國は世界でも有名な地震國であり

ます、而して之が爲めに國民の蒙むる損害は、精神的にも物質的にも、古今を通じて實に甚大なものであります、殊に十二年九月の關東大震災は、諸君の知らるゝ通り實に酸鼻の極でありました。今更思ひ出すだけでも身の毛が立つ程であります、文化未だ開けざりし昔時に於ては、いたし方もない事でありますが、科學の世の中である現代に建設せられた建物までも、悲慘極まる損害を受ける樣では我々建築屋の責任がどこに盡されてゐると言へますか。斯る悲慘事は勿論設計上の不備にも原因して居りますが、施工上にも一大缺點のあつた事も爭はれない事實であります。それですから設計者は設計を完全にする責任があると同時に、我々施行に從事する者は最も完全な方法で實際施行をやねば社會に申し譯けがないのであります。

歐洲大戰以來我國は年々幾億と云ふ、多額の輸入超過を繼續し、夫れがために極度に國民生活を困難ならしめつゝある今日、更に多額の、鐵材を輸入する事は、國家のため誠に宜しくない事であります、そこで鐵材をウンと、節約の出來る鐵筋コンクリートの發達に向つて、大いに努力を要する次第であります。コンクリートの主要材である、砂利、川砂、セメント原料等は日本では天惠的に豊富であります、何れの河川も浚渫をせねばならぬ狀況にある位ですから此の鐵筋コンクリート構造は一擧兩得と言ふ事になります。

最近一ケ年間の我國建築材料輸入額は約三億五千萬圓と稱されて居る。又輸入超過の全額は十億に達せんとする狀況にあります。故に私は輸入防止國産奬勵の意味に於て、鐵骨構造よりか、經濟的で理想的耐震耐火である、鐵筋　ンクリート構造が圓滿なる發展を遂げん事を切望しその爲めにその施工を重要視するのが之第一の理由といたします。

乍然鐵筋コンクリート構造は、木造、鐵骨等の如く或一定の强度を有せる材料を、單に組合すのとは、大いに趣を異にして、鐵筋、砂利、セメント等を、設備の不完全な現場で、型に入れて調合製造しなければならぬのでありますから若し不注意にして、外面は勿論であるが、特に內面に缺點、即ち弱い不統一な所が出來たとすれば、恐るべき結果を招來するのであります。

大震災以來、地震の力を計算に加へた爲めに、鐵筋の量が非常に增加しました、之は計算上當然の結果ではありますが一般設計者の頭に、コンクリートと云ふものは、到底ウマクやれないものと見切りか諦めかを付けた結果丈夫にさへして置けばよいと云ふ樣な考へを起こさしたのではあるまいかと私共は想像する節もあるので御座ゐます。何でも近來鐵筋量が漸次增加してまゐりまして、以前コンクリート立坪に對し〇、五乃至。六七噸であつたのが、段々增加して〇、八噸から一噸乃至。一噸二三分もあると云ふ狀況にあります。又コンクリート量も床面坪二合七八勺から漸次增加して三合四合と云う樣になつてまゐりました、鐵筋量の多くなる事は施工が益々むつかしくなる事を意味するのであります、然して鐵筋が多いからと云つて必ずしも構造が丈夫なとは云ひ得ないのであります。之に對して吾人は、最深の研究と注意を拂つて『コンクリートは完全に施工し得る』と云ふ事實を設計者に提供して、安心して鐵筋量もコンクリート量も減じ施工も容易にし工費を低下せしむる大責任があるので御座ゐます。要

するにコンクリート構造は誠に興味ある仕事でありますが、右に述べた様に製造工場兼組立場であるために施工を重要視せねばならぬ、之れ第二の理由であります。

鐵骨や木材は個々に強度の試驗をする事が出來ますがコンクリート構造に於いては夫れが出來ないのであります。尤も床や梁の如きは荷重試驗が出來ますが、地震に對する構造各部の強度各接手の完不完等は全く不可能なのであります、之が鐵骨なればリベットを完全にすれば殆んど計算に近い強度を得られるのであります。即ち此點がコンクリート構造の一つの缺點でありますが施工の如何により、之を除去するのは左程困難な事ではないと信じますがその施工を重要視する第三の理由は之であります。

東洋の最大都市を以て誇として居た大東京が震災のために全滅したあの事實に鑑て、將來都市の建設は耐震耐火であるコンクリート構造に依らねばならぬ事は申すまでもない事であります。燒けも毀れさへせなければ、都人の生命財產の安全を確保し經濟力の基礎も强固になります。從つて國力も充實します。都市は一國の大動脈であります。斯樣に考へて見ると吾人の仕事も頗る重大な責任があるのであつて單に職業であるから止むを得ずするんだと云ふ考へ方は餘りに人間味がなさすぎはせぬであろうか。斯かる大切な問題に就て此所に再び諸君と共に今明日二晩に亘つて、研究する機會を得た事は、私の最も光榮とする所であります。私の如き淺學にして極めて研究の範圍のせまい者まで諸君の前に立たねばならぬのも、此問題が國家的に重大なるために外ならないのであります。

2 原因を斷たねばならぬ

既に申述べた樣にコンクリート構造は誠に大切にして理想的なのでありますが、割合に出來上りが惡いのであります。之を此構造の缺點としてアキラメねばならぬものであろうか否決して私はそんなものでないと思ふ。何故と云ふに今日の如く此構造の盛んでなかつた十年も前に出來た工事が、現今出來たものよりも寧ろ良い事を考へると。多くの經驗を得た結果、慢心したと云ふのが、慣れすぎた爲め注意がたりなくなつたのであると思ひます。丁度自轉車の稽古をして居る時代に大怪我がなくて上手になつた頃に怪我をするのと同じである。之は深甚の注意を拂ふ事に依つて殆んど完全と云ふ域に達し得る事を私は確信するのであります。

然らば如何にすれば完全に、施工し得られるかと云ふに、源清からざれば下流水清まずで先づ一番に原因を斷たねばならぬと思ふ。

コンクリートが色々な材料を混ぜ合せて拵へるのでむつかしい樣に、原因も亦澤山あつて之が改善には少なからぬ努力を要するのであります、即ち左に原因を揭げますと。

一、工事費が安い事
二、無暗に急ぐ事
三、セメントの少なき事
四、砂利、砂の不良な事
五、水加減の惡い事
六、打ち込み方の不注意又は無智なる事
七、鐵筋配列の不良又は過多なる事

八、堰板架設の不良なる事
九、養生の不行屆の事
十、堰板取外し上の不注意な事

等數へ來ればいくらもありますが、大體右十個の原因に就てかいつまんで御話を申上げて本問題に入り度いと思ひます

一、工事費が安い事

近來我建築界も不況のため、大變に競走がはげしくなつてまゐりました。經濟學上、競走をさし又する事は當然な事でありませうが、此競走が合理的に工費を安くするの程度を越して極端な無謀な競爭を誘致し、やがて工事の墮落を招いて來つゝあります。昔から安者買ひの鼻落しと云ふ諺があるのは誠に名言であります。如何に努力をしたからと云つても神ならぬ人間である限り安くてよいものが原則として出來る筈はないのであります。此一の原因は以下二から十までの原因を支配する最大原因である事を忘れてはならぬ。如何に立派にやろうと思つてもない袖は振るにも振れない。

此大原因を斷つ事は一つに賢明なる識者の覺醒に依らねばならぬ事で、吾人には何等責任はないのであります。

二、無暗に急ぐ事

工事を早く仕上げる事は、國家としても資本家としても無理からぬ必要條件であります。故に吾人は合理的に早く仕上げる方法を極力研究するの責任を有しますが、然し我國都市の如く機械に交通路に設備の未だ全からざるに、米國式急施工を眞似る事は構造上極めて危險千萬と云はねばならぬ、殊に夜業などは大禁物であります。

整然たる設備と秩序を以つてする工事に於ても此構造は一定限度を越へる事は出來ないのでありますが、近來は可成大膽に取扱はれてゐます。之は大いに考へねばならぬ事であります。私は特に構造の期間だけはゆつくり入念にやる事を出張いたすのであります、斯くする事に依つて好結果を納め得るのであります。

三、セメントの少なき事

昔から値段の高低に拘らず、少ないとか多いとかで問題になるのはセメントであります。實際十樽が九樽でも一寸わからないから、間違が起り安く、近來施工者に信用がなくなつて、直營だ支給だと云ふ事が流行いたします。セメント支給は施工者に信用が置けない意味であり、且つセメントを正確に使用し度いと云ふ意味であります。實際セメントは此構造の主體でありますからセメントを拔きまして此構造は論じられないのであります。故に調合の際は正確を保ち、小雨等にて時にセメント桝がぬれる事があつて內部に幾分づゝ喰つ着いて實際量を減ずる事がありますから注意すべきであります若し袋に依りカタマリ等のある場合は、取り去るべきであります。セメントの撰擇は設計者の意志にある事ですから吾人は、常に調合の比を知り、正當なる調合なりや否やを調べる位いの責任はあるのであります、只桝があるから仕事をすると云ふ無意識な事では完全を期する事はむつかしいのであります。

四、砂利、砂の不良な事

砂利、川砂の大小の程度又は清淨ならざる爲めに、意外なる不結果を來たします。材料に土氣のない事は勿論でありますが、例へ仕樣書に指定されてあるにしても、打ち込む場所に依り特種の材料を使用するだけの親切がなくてはならぬ、俗に云ふ豆板は打ち込み方に依つて出來るのですが材料の如何にも大關係がありますから、コンクリートの入る可き容積の大小に依り考慮すべき事であります、又骨材たる砂利、砂の分量も常に正確にして定量より多くならない樣に注意すべきである、常に材料の淸淨をたもつために注意を拂ふ事も大切であります。

五、水加減の惡い事

之は別に値段の高下に關係するのでなく全く不注意に依るのでありますから餘程頭を働かす必要がある大切な事であります。從來此水加減はいつも現場で問題になるむつかしい仕事であります、學者の理論から行けば試驗室でやつた成績を標準として主張するが實際に於ては注文通りの堅さでは到底塡充し得られるものでなく、と云つて現場で樂に出來るからと云ふ樣な程度ではやはらかすぎる、實にむつかしい問題なのであります。或る所で堅練りでやつたが恐ろしい程惡かつて、矢張幾分柔かいので打つた方が成績がよかつた、其時堅練主張の監督者曰く僕のやつた所は外見は惡いが內部がよいと主張したと云ふ話であるが斯樣な頑迷な者が居ては決して立派な作業は出來るものでないのであります、ですから此水加減は理窟でなく實際に出來得る程度に研究し常に調節宜しきを得ねばなりません。

六、打ち込み方の不注意

機械でよく練り合せたコンクリートを型枠の內に打ち込む事即ち此『打つ』と云ふ言葉に重大な意義が含まれて居る、然るに近來は口には打つと云つて居るが、實はコンクリート流しをして居る、然らざれば移し込んで居る、之も賃金の關係と、不注意と無智の結果に外ならないのである、故に吾人は極力此缺點を改めなければならぬのであります。

七、鐵筋配列の不良又は鐵筋過多

鐵筋の位置の不正確のために構造上に影響を及ぼす事は極めて明白な事でありますから、正確に配列をせねばならない既に申上げた樣に近來鐵筋量が著しく增加いたしました、圖面で見ると頗る簡單でありますが接手とか持送りとかを實際に組み立てた場合に、スターラップさへ入れる餘地すらない場合が屢々あるので御座ゐます、或は梁の下に於ける壁地の筋と筋違の如き、施工の任に當たる者をして戰慄せしめる樣なのもあるので御座ゐます、之等は設計者の實際を見て一考を煩はす事に依つて幾分の調和を見る事が出來ると思ひます

八、堰板架構の不良な事

堰板はコンクリートの鑄型であります、ですから堰板の架設の巧拙と正不正確とは直ちに出來たコンクリート即ち構造に非常な影響を及ぼすのであります、要は無用の釘を少なく

し取外しを容易にし材料の破損を防ぎ、柱梁壁床等歪なく正確に寸法を保たしめ、左官、造作等の仕上げに當つても斫る塗る等の無駄を生じない樣にするにあるのである、勿論工費の點に於て充分の施工が出來ぬ場合も近來は多々ありませうが、苟も其仕事を引受けてやる以上は支柱が倒れるとか板が開くとかの不都合がない樣にやらねばならぬ、單にコンクリートモブレの板を打ち付けると云ふ考へでなく柱梁の仕口をするのだと云ふ事を念頭に入れなければいつまでしても進歩は出來ないのであります、一見アラケない仕事の如く見えてコンクリートの結果に密接な關係がありますから注意を要するのであります。

九、養生の不行屆の事

如何にコンクリートの施工を理想的にと願つても、又理想通に打つても、冬季職工が寒風のために充分の活動が出來なかつたり、寒さの爲めに凍さしたり、夏季急激な乾燥をさしたり乃至充分の濕氣を與へなかつたりすると、大變強度を弱める事になります、一寸目には見えないが硬化が充分でない處に振動を與へる事は確かに弱める事になる、然し之も費用の關係で完全な養生は到底出來ない場合があります。米國の如きは我國より幾分寒い關係もあろうが、冬季材料をスチームで溫めるとか混合中に熱氣を送り施工後は天幕を張り廻して晝夜溫度を掛けて居るなど、急げば急ぐ樣に夫れ相等の方法を取つて居る、之が誠の養生だと思ひます、御互のやつて居る冬場のコンクリートなどは米國のそれに較べると華族と平民の差以上であります。若し米國の眞似をするなら此等の事も眞似度いものであります、我等は其仕事場で許す限り入念の養生をする事を忘れてはならんのであります。

十、堰板取外し上の不注意

堰板取外しの時日は係員の指圖に依つてするのではあるが不注意からして日數の少ない場所を取外す事があります、又仕事の都合で惡いと知りつゝ大丈夫だろう位いの考へで束を取外し意外な失敗を招いた事は隨分例が多いのであります、幸ひ落ちるとか目に見える程の割れでも出來れば取り替へもするが一寸と氣のつかぬ程度に構材に傷を付ける事は、充分硬化した梁に荷重して割れが來たよりも非常に弱いのでありますから堰板外しは相當智慧のある者に限らねばなりません

以上述べ來つた十ケ條の原因を根絶するには第一戰に立つ吾人の責任は勿論重大ではあるが、吾人は意氣と正直と親切と職務に對する誠意の外身に一物の持ち合せもないのだから此上は物質的實權を握つて居られる施主、設計者、請負者、監督者等の一大覺醒に依らねばならぬ事を私は切言いたすのであります。私は又此大覺醒が近き將來に實現する事を信ずるのであります。

去りながら當事と越中褌は向ふからと云ふ諺の如く萬が一にも識者の覺醒が實現せない事があろうとも、吾人の責任と進むべき道は何等變る事はないのである。

現今の如き極端な競走時代に、現在の制度の下に若し吾人に結果の責任を問ふならば、丁度赤燈をもあたえずして危險信號番に立たしめられたと同じ樣なものである、然しながら吾人は意氣と正直と親切誠意と云ふ尊い物を持つて居

る手前、赤燈赤旗を持つた時の使用法と又何物をも持たなくとも、非常時に遭遇しては婦女子の赤い襦袢を取つても危險の信號をするだけの知慧に就いて充分の研究をせねばならぬと思ひます。

斯の如き觀念を信條として此の構造の進歩發達に努力される諸君に對し之より愈々本題である施工上の注意を申し上げたいと思ひます。

3　終始一貫せる共同一致の努力

工事の有終の美を發揮する事は監督者、現場員、親方、世話役から一職工に至るまで終始一貫せる共同一致の努力が最も必要であります。然るに多くの人の中には、最初工事の範圍が狹い間はミキサーが一秒ぢーした松杭の末口が二分とか三分小さいとか或は甚だしいのになると杭がコワレた尺數だけ差引くとか、全く末尾の問題に囚われて、大極をあやまる傾きがある、又之等僅少の問題のために意志の疎通を害して結果を惡くする事になる、故に現場に立つ者は此點を考慮せねばならぬ、地下室一階位いがよくて二階以上が惡いと云ふのは實際よくある事であります、之等は終始一貫せる注意がたりないためである、始めに神經質にやかましく云ふのはきつと終りを全ふしないものである。古人の歌にも

世の中は貧ぢや有憂ぢや苦ぢや樂ぢや
何んぢやかんぢやで末は無茶苦茶

どーぞ此歌の樣にならずに始めから終りまで同じ調子でやつて貰いたいものです特にコンクリートに於てであります、然し平凡に終始一貫は禁物であります。

4　コンクリート構造の種類

コンクリート構造にも鐵骨鐵筋コンリリートと鐵筋コンクリートの二通りあります。又鐵骨構造の內にも、鐵骨本位でコンクリートは單に火災の養生位いに考へて居るものと、鐵筋コンクリートを合せて計算せられたものゝ二種あります。前者は別に問題にする程の事はないと思ひますが、後者は鐵を相當節約してあるから、鐵骨本位のものよりも大切であります、私の御話を申上げんとするのは鐵筋コンクリートに就てであります、此施工さへ心得て居れば他は容易に了解出來るものであります。

5　コンクリート運搬機の種類

(一)シュート式と(二)ホキリング式であります。兩者共一長一短で何れが優劣を定める事は使用する人の考へ方に依つて異なるので要は運用の如何にあるのであります、鐵骨の場合はホキリング最も適當であろーと思ふ、其他敷地の都合にて材料の配給或は建物の位置に依つてホキストが限定せられる場合にも適當すべきものである、シュート式は小さき建物或は相當大きな建物には至極よい方法だと思ひます、ホキストを要所に配置せるため施工が頗る順序よく出來る事は此式の特點であります、只スラップを除く外は絶對に樋から直接投入せず一度受け箱に受け之を少しづゝ徐々に投入する事を忘れてはならぬ、何れも二切半以上を投入する事は宜しくないと思ひます右二式共選擇の權は設計者或は請負者にあるので吾人は何れの場合も運用をあやまたぬ樣注意さへすればよいのである。(末完)



石山城に就いて

大阪市民博物館長　堀居左五郎

本編は、建築そのものに就いて或は參考とはならないかも知れぬ、けれども、大大阪部市の發祥ともいふべき石山城は、大阪の歷史的回顧として建築家にも何かの暗示を寄與するであらう。されば、筆者に乞ふて此處に掲載する所以である。（編輯者）

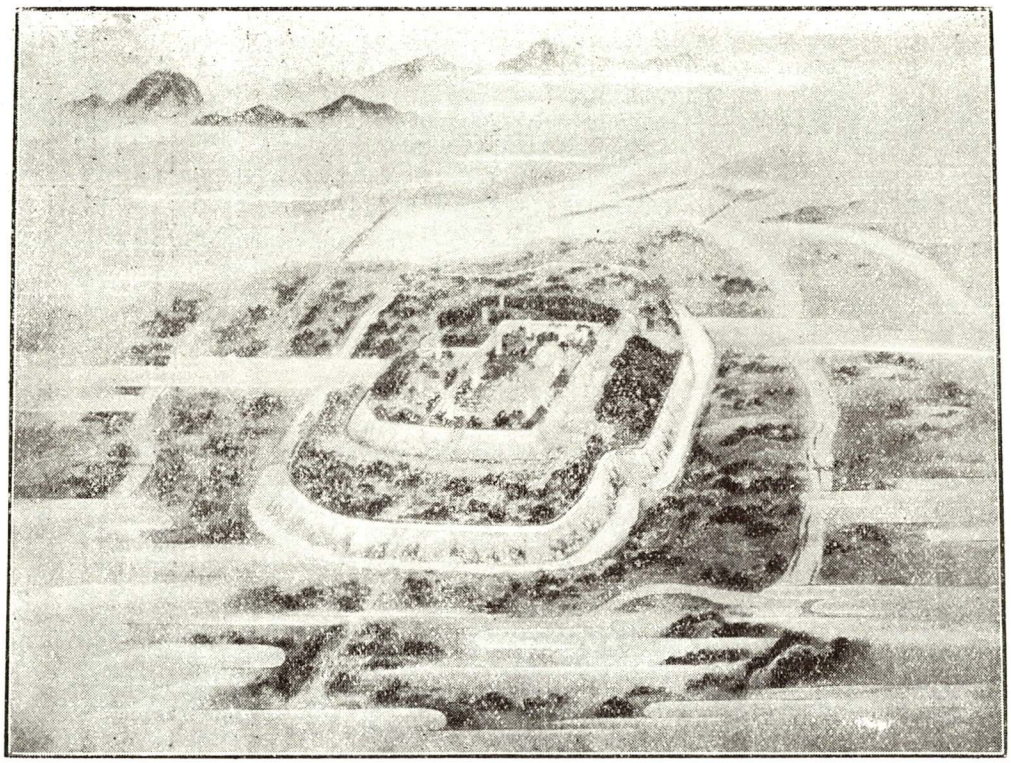
石山本願寺考

石山本願寺は近世大阪發展の素因に重大なる關係を有するものなれば、可成當時の眞相を顯はすべき形勢圖を作り、以て我大阪の古を偲ばんとするにあり

されば本論の主要點は專ら地域の狀勢、堂宇並に坊舍の配置、附近市井の有樣等を地圖古文書等に依り構成を試みたるに過ぎず、從つて往々想像及び誤謬なきを保せず、諸者幸に之を諒せられよ

由來現今存在する當時の記錄は多く戰爭の狀況を記載せるものにして、建築其他設備の模樣を表はせるもの殆んど見當らざるを以て、之が正確を求むること難し、左に參考書類名を列記せん

一　石山古城圖
一　石山對陣之圖
一　大阪舊城之圖
一　大阪屋敷割之圖
一　大谷本願寺由緒記
一　大谷寺誌
一　大谷本願寺通紀
一　本願寺誌要
一　天文日記
一　私心記
一　石山要錄
一　金城聞見錄
一　大阪籠城記
一　金諭記
一　津村別院誌



一　蓮如上人傳の研究
一　蓮如上人法語集
一　顯如上人貝塚御座所日記
一　石山靖難記
一　攝陽落穗集
一　浪花百事談
一　戰國時代の本願寺
一　國花分明集

石山本願寺

自今約四百三十年前に於て現在の大阪城は本願寺の御堂ありて大阪の御坊と稱せり、即ち人皇百二代後土御門天皇の御代（足利將軍義澄）明應五年八月本願寺第八世蓮如上人泉州堺へ下向に際し、偶生玉の庄内石山の地を相し一宇を建立し、石山の御坊と云へり、之れ石山本願寺の濫觴なり爾來約八十五年間佛法修驗道場たり、今其間に於ける大要を研究せん爲め、之を二期に分ち、初め三十六年間（自明應五年至享祿四年）を草創時代とし、後四十九年間（自天文元年至天正八年）を本山時代とし、更に草創時代を二分して蓮如上人草坊建立當時と上人遷化以後石山御坊とするを便宜とす

先は最初に蓮如上人石山相地以前の狀況を說かん

此時代を說く目的は最初上人が當地に至りし時の模樣を究むる前提とするに過ぎず、然るに上人の行動を知るべき記錄には上人一期記、法語集、空善聞書等あれども、其當時石山の模樣を詳しく知るに足るべき記錄少なきが爲め、或

は明確を保つ能はざるを遺憾とす

今一二の記錄に基き其當時を推究せんに

拾塵記に曰く

著者は實悟尊老即ち蓮如上人の十男（或は直弟とも記載せり）にして現在河内の門眞村願得寺の開祖たり（諸書には古橋の願得寺とせり）

『上人此地を御覽せられたるとき虎狼のすみかにして家の一もなく島ばかりなりし所なり』

本願寺由緒記には

正德五年發行去今約二百三十年

『石山より四五丁南に松柏繁りたる大きなる森あり、之に續きたる民家一千餘軒皆森町と云ふ、然るに天正年中に諸方に移りて今は東の端數に三十餘軒殘りて森と云ふ』

惟ふに此記錄は石山全盛時代を顯はしたるものならんも今の玉造附近には蓮如相地以前に既に寺院民家等ありて必ずしも虎狼のすみかと云ふに非らずして單に狐狸のすみかと形容すべき寂寞の地なりしならん

抑此石山附近の地は上古より難波の都の關係深く、平安京以來頓に衰頽に歸したるは事實ならんも、鎌倉足利時代を通じて難波の浦は畿內中國九州等交通の要路に當りたれば尙相當の人家ありたるは疑ふべからず、且つ蓮如相地當時此石山には生玉明神並に其別當職法案寺其他坊舍のありたること諸書に見ゆ

生玉神社々記

神武天皇即位紀元前戊午の年東征して難波津に着し給ひし時、高津の丘に生國魂大神咲國魂大神を祀り玉ひしもの當社鎭座の初めなりと云ふ

垂仁天皇二十七年神地東西八町南北十二町と定められ神境は杉檜の巨木森林をなし號して難波杜と稱せしが、孝德天皇元年其神木を伐りて長柄豊崎宮を營み給ひしが樹木絕へたりとなん』

明應五年蓮如此地に坊舍を造立し正親町天皇永祿元年勅して社殿を造營あらせ玉ふ、然るに天正年中本願寺の信長と戰ふに際し兵燹に罹りて社殿悉く燒盡し同十一年纔に殘れる神璽を奉じて此地に遷座し一小祠を營みしが、同十三年秀吉正親町天皇の勅を奉じて其臣片桐且元を奉行として新たに社殿を造營せしめたるなり、此兵燹に罹りたるは永祿七年本山炎上の時なるか或は天正八年八月の兵燹を云ふにや詳かならず

次に法案寺の事を叙せん

難波別院由緒記法案寺傳　大正二年四月編

『人皇三十三代推古天皇の御宇難波大郡（今の大阪城跡）に生玉明神の社頭並に數宇の伽藍を建立して法案寺と名づく、爾後幾多の星霜を經るに從ひ伽藍荒廢し漸く生玉明神の神祠の外に藥師如來の小堂一宇のみ殘れり、足利將軍義持の時即ち應永二十四年僧正意之を再興し、金堂講堂多寶塔食堂僧房（乘願坊、松林坊、圓覺坊、持寶坊等）鐘樓等を建て又樓門の前に一宇を建立し一光三尊の彌陀如來を安置し攝取院と名け念佛の常行堂となせり、然るに此山は高からざれども禿にあらず、樹木蒼々として果實多く南は天王寺に接し北は八幡山崎勝尾寺に打ち向ひ、淀川の水は滔々として樓閣の岸に流れ東は闇峠飯盛山其麓に漂々たる深野池あり、西

は蒼海にして兵庫の岬淡路島の沖合等一目に見へ渡り特に龜ヶ池の靈水は澹々として清く且つ此地は大石疊累して風光に富む、僧正意は此靈地に如上幾多の堂宇を建てゝ之に住し生玉明神の別當職となる、之を同寺中興第一世となす第三世正敎の時即ち明應五年七月二十一日蓮如上人山科より堺へ越え給ふとて法案寺に立ち寄り休憩し給ふ云々』

此明應五年は應永三十四年より七十五六年後なり

大阪府全誌

『法案寺南坊は大和町にあり志宜山と號し眞言宗高野派寶性院末なりしが大正二年七月二十三日寶壽院末となる藥師如來を本尊とす、官幣大社生國魂神社の舊別當職たりし寺なり、推古天皇の朝上宮太子明神の應現奇瑞を感信せられ社殿を構へて天照住吉の兩大神を左右に安じ奉り傍らに精舍を創立し以て五藏經論を披覽して佛法の弘通を公案し給へり依て法案寺と號し勅願の寺門と定む』

以上の記錄に依れば蓮如相地の當時には社寺及び相當の人家ありたるものならん　而して蓮如は建寺のため法案寺の地域の一部を借りたるものゝ如し、之れ年々本願寺より地子銀を拂ひたることにて明かなり

尙此附近には相當村落ありたるものゝ如し、即ち南は堺との間に阿倍野街道ありて住吉天王寺等の名蹟あり、東には猪飼野本庄森中濱守口枚荘等の村落あり北には渡邊天滿野田福島海老江西には難波木津等の在所名見ゆ

（一）蓮如上人草坊建立の當時

石山御坊建立以前蓮如と大阪との關係は文明七年、即ち上人六十一歲の時越前吉崎より小濱に舟を寄せ丹波傳ひに攝津に入り出口の草坊に、三年在住其間に堺に遊化し二十年間程は山科、出口、富田、堺の間を往來せるものゝ如し、而して二十年程後　卽ち明應五年に石山の地を相したるなり

而して其創立は明應五年九月二十四日石山の地を相し、二十九日工を始め十月八日坊舍成る（蓮如上人法語集編入の空善聞書、空善は蓮如の弟子）とあり果して斯く短日月間に成りたるものなるや之れ或は地均し礎石の配置用材の木組等は既に成り只だ柱立てをなしたることを云ふならん

蓮如の御文章に

『抑此在所大阪に於ていかなる往昔の宿緣ありてか既に去ぬる明應第五の秋の頃よりかりそめながらかたの如く一宇の坊舍を建立せしめ又當年明應六年の仲冬下旬の冬に至りかづ〳〵周備滿足の爲體誠に法力のいたりか』

とあるに鑑みれば明應五年九月二十八日鍬初以來一ヶ年にして周備滿足せしならん、而して蓮如は明應五年十月より同八年二月十八日迄足掛け四年此地に住し三月二十五日山科にて遷化せらる

斯く草坊は短時日に建立せられ且つ蓮如在住甚だ短かゝりしが爲め極く粗末なる一坊舍に過ぎざりしならん、殊に宗主は後來を豫期して偏執の輩ありて六ヶ敷題目なれど出來せば速に執心を離れ退出すべきを嚴誡せられたる程なれば多くの伽藍を供へたるには非らずして只だ阿彌陀堂祖師堂を兼ねたる本堂其他二三の坊舍を建立せしならん

上人一期に記に宗主の言を出して曰く

一家を作らば頭だにぬれずはと思ふべし、たとひ過分なる事を御嫌ひありしなり、衣裳等に至る迄も好物を着んと思はゞ淺間敷ことなり冥加を思はゞ如何樣の物を着しても佛法に心をかけ信心を決定すべしと思ふべしと仰ける』

又坊舍建立の財源は宗主名號書寫の禮の積りて成れるものなること拾塵記に蓮能禪尼(蓮如最後の室)の仰せとして曰く

『蓮如上人御往生の後大阪御坊に或女性の夢に御坊中に南無阿彌陀佛の名號をかけらるゝ事充滿して幾千萬ともなく侍ると見て明けて之を蓮能禪尼へかたり申さるゝ時禪尼の仰けるは此夢げにもと知られたり蓮如上人の御物語ありしは自餘の坊は總門徒の志にて作らるゝに此大阪の坊は蓮如名號を申さるゝ人の禮のつもりしを以て御建立の御坊なり、然ば今の夢ことはりなりとぞ仰ける』

要するに初め蓮如此地を相し堺より時々來りて工事を閲覽し、生玉の別當法案寺の地域を借り受け草坊建立に着手し諸方の信徒爰に集り山頂を拓き麓を均らし、礎石、瓦、井水等思ふ儘に出來したるものゝ如し、之を奇端として諸書に見ゆ果して事實なりしや

現今大阪城内に殘れる蓮如袈裟懸松及び蓮如井等に就ては之を考證すべきものなりと雖も、金城聞見錄(文化年中大阪城勤番者の記錄)に松は現今の本丸の中にありしと云へり、又現在陸軍刑務所内にある蓮如井は或は其當時の一ならんか

(二)蓮如遷化以後大阪本願寺となる迄

明應八年より天文元年迄三十三年間大阪御坊は蓮如に遷化より見る影もなき、荒涼の原野と化し、去りたることゝ想像すべきも、事實は必ずしも然らざるが如し、宗主坊舍創立後間もなく集合の門徒等永く住居を此の地に定めたるが如し

而して蓮如在世の當時より此草坊を其子實如の隱居所と定めたるが如し

拾塵記に曰く

『攝州東成郡生玉庄内大阪御坊は(中略)仍實如上人可レ爲二御隱居所一之由御再興後被二御定一畢』

とあり、然れども實如が大阪に隱居せること據るべきものなし、只だ蓮如の後室蓮能が其子實賢と共に暫く此地にありしこと反故裏書(永祿十一年の記事にして實如の子顯誓のものせるもの)に見ゆ

かるが故に此間に於ては堂宇坊舍の建立見るべきものなかりしも僧房並に民家は漸次多きを加へたるが如し。即ち大永五年二月實如上人六十八歳にて山科に於て入寂せられたるとき大阪の方より多數の人が山科に行きたること中陰錄に大阪殿講中、大阪殿寺内衆大阪殿坊主衆の名見へたりされば此間に天文日記(證如上人日乘)に見へたる六町の住民ありて與力の坊主衆石山及び其附近に住して坊舍護持に努力せしことならん、六町とは即ち北町、清水、南町、北町屋、新屋敷、西町なり

而して此間に於ける坊舍の眞相を明確に知るべき記錄なきも按ずるに蓮如草創の本堂を中心としたる小規模のものにして生玉社及び法案寺等と境を接して一御坊に過ぎざりしなり、尙此時代には阿彌陀堂はなかりし事天文日記に依り

明かなり、即ち天文元年證如山科より大阪の御坊に入り二旬の後遷座爾來坊舍を以て影堂に擬すと雖も阿彌陀堂を缺くを以て之が造立に志し漸く天文十一年建立す

(三)石山本山時代

本山時代とは天文元年證如上人山科より祖像を奉じて大阪の地に移りてより天正八年信長との和平に至る迄約五十年間を云ふ

即ち本願寺第十世の宗主證如上人(蓮如の孫)天文元年八月廿四日江州觀音寺城主佐々木定頼及び京都日蓮宗徒の爲めに山科の本山を燒かれ祖像を奉じて石山御坊に來り其子顯如と共に益々淨土眞宗の弘法に努力したりしかば本山の隆盛其極に達せり、而して此時代は所謂群雄割據の戰國時代にして宗教家も亦其渦中に投じ宗徒の一掻其勢ひ侮るべからず、斯かる次第にて本願寺も四圍の關係上餘儀なく其防備を嚴にし自然城廓をなせるものならん、而して此時代を顯はせる資料は悉く戰記にして寺院建築狀態及び地域の形狀等を認むるものなし

按ずるに證如來坊以來地域を擴め坊舍の改築、增設を圖り壕並に土居塀等を築造し、漸次城構となし一大伽藍を現出したるものゝ如し

即ち天文八年十二月に境地の一部を買得阿彌陀堂建立を企てたり天文日記に

『法案寺東堀より其下の峰迄合二買得一候仍七十貫に申定今日渡ゝ之賣主野口小法師也、取次上野也、祐光寺成二其扱一也』

祐光寺は法案寺の再興者僧正意が應永二十四年攝州東成郡生玉庄森村に興立し第三世正敎蓮如に歸依して寺號を許さる後大阪本願寺の中に坊舍を構ふ

又當時伽藍の模樣を描寫せる信長公記に

『加賀國より城作りを召寄せ方八町に相構へ眞中に高き地形あり、爰に一派水上の御堂をコウ〳〵と建立し、前には湛二池水一蓮托生の蓮を生じ後には誓の舟を浮べ佛前には輝二光明一利劍即是名號者煩惱賊之治二怨敵一佛法繁昌の靈地に在家を立莚を並べ繼ゝ軒福祐之煙厚く遍此法を尊み遠國波島より日夜朝暮佛詣之輩道に絕す』

之れ信長と本山との平和前の坊舍境域を叙せる唯一の記事なり

是より更に堂宇の模樣と城構の大要を記述せん

此時代は堂宇は略山科御堂に則とりたるものゝ如し、即ち上人遺德記(蓮如の遺子兼緣蓮悟と號し本泉寺の祖)に曰く

『文明十二年十月檜皮葺の御堂造事す、五間四面同十三年四月阿彌陀堂上棟三間四面と云ふ』

此外寢殿、大方殿、北殿(天文日記に十七年礎を作るとあり)鐘樓、鼓樓其他の坊舍も之に準じ諸門又供へられたるものゝ如し

私心記(蓮如十三男實從の記錄にして牧方順興寺の祖なり)に

『唐門不開南門計開也』『又天文十四年六月寢殿の門建立』

の事出づ

天文十五年四月阿彌陀堂の前に四足門を立つ(天文日記)而して本堂及び影堂は東面にして蓮如草坊の時代もかくあらんと想像せらる、即ち此東面に就き津村別院誌には左の二

項を引用せり

天文日記

『森三ヶ庄より申して正教上野して今日於二法案寺一神事候然間東の門あけ候てと申』

森三ヶ庄の人々が法案寺へ到るには本山東門を入りて通行すと見へたり

私心記　天文十一年七月二十六日阿彌陀堂上棟の記事に

『二十六日今朝勤はやし四時棟上也、阿彌陀堂東の門の脇に御樓敷はられ候』

予は更に尚一項を引用しで東面なりし證せん

永祿四年宗祖三百年忌記事に

『十一月祖忌、略爲二三日夜一始設二散華式一內陣有二北座南座之列一北座顯證　敎行　慈敬、常樂　光敬、五寺南座、淨照坊、法專坊敎明、明覺寺乘賢、敎宗也』

（本願寺通記）

とあり、按ずるに此北座に列する面々は皆格式上位の人々顯證は蓮如の六男蓮淳、敎行は八男蓮藝、光敎は四男蓮誓）にして若し本願寺座席順位を向つて右を尊ぶとすれば當然東面なりしを知るに足るなり

尚以上の堂宇は永祿七年に悉く燒失し、更に翌八年再建にかゝり多くの堂宇を備へ以後十五六年間即ち天正八年八月信長と和成り石山退城の夜南堂始め諸建築物灰燼となりたる迄は城構と共に所謂一派水上の御堂を現出せしものならん、

因に永祿七年に燒失したる御影堂は蓮如宗主の造立にして六十九年目阿彌陀堂は天文の新造にして廿三年目なり本願寺堂宇以外に就いては

攝陽落穗集に

『抑大阪の錦城は攝州東生郡荏崎樫山と號す、此所は生玉大明神の社、一向宗の本願寺御堂、生玉の社僧南坊を始め曼陀羅院、櫻本坊、眞言院、持寶院、遍照院、器寶院、觀音院、匡王院以上十ヶ所彼地に住居せり』とあり參考とせん

城構の大要及び附近の狀勢

按ずるに石山本願寺の所在は現在大阪城の本丸の內にありしは疑ふべからず、信長公記の方八町とあるより見て城構は今の二の丸に該當するものゝ如し總構に至りては今直ちに之を斷ずべからざるも諸書並に古圖に揭ぐるところにては秀吉築城の三の丸の境域の不完全なるものならんか

大阪編誌

抑此城構は證如が山科より石山別院に逃れ來りて本山となし、細川晴元木澤長政日蓮宗徒の連合軍の攻擊を防禦する時に及びて總構を起したるものなるが如し、此總構は此城の周圍を繞る所の上古の堀江及び他の河川との天嶮を利用せるものにて大概東は凡そ今の猫間川、南は凡そ今の桃谷西は凡そ今の東橫堀の邊にある所の堀に臨み北は淀川其他の大河を帶びたる要害なるに似たり　而して顯如更に又曲輪をも設けたるものゝ如し

此重修の功成るに及び此城の要害益堅固となりたり、即ち信長との交戰中本願寺は更に出城を五十一ヶ所に聯設し守備を張り寄手は攝河泉の要地十餘ヶ所に城砦を築設し大阪海には大艦七隻を配置し以て陸海より圍み攻めたるなり』

總構に就ては上述の如く南は大抵空堀通りとなし九之助橋

邊に於て東横堀に通ずるを事實と推定するを普通とすれども石山要錄(享保年間定番の記錄)に記する一節は稍研究するの價値あれば玆に參考のため摘出せん

『慶長の頃惣堀は東は猫間川南は猫間川に續いて西は八丁目札の辻へ堀此所にて堀留水堀也今堀の外と云ふ是より南へ堀谷町筋寺町南十願寺の下より高津宮鳥居の内より西松屋町へ堀東横堀へつゞく也「之レハ東横堀ヲ云フテ光佐上人ノ時ノ古堀也大阪陣ノ頃迄殘リタリ」』

(備考)

慶長十七年頃の大阪屋敷割の圖には之を記載せり

又陰德太平記に

『石山の城には柵逆茂木を五重に付其内に經り五間許の隍を深く穿ち其後又惣堀あり樓々に鐵砲を配り諸所の門塀重役所々々を不外兵卒を增て置く』

以上より推考すれば石山の城構は大概現今の大阪城の地域に等しく彼の證如の設けたる内曲輪は即ち今の本丸に相當し更に二の丸には塀を築き隅々に矢倉を設け武備を張りたるものならん

而して内曲輪今の本丸の内には本願寺の諸堂宇並に生玉明神の社等ありたるものゝ如し、即ち金城聞見錄に本願寺舊地の事として

『錦城之御内廓御庭に御數寄屋跡と云ふ處有往昔本願寺の時數寄屋ありしゆえども千の利休の作自然石の手水鉢は今に有よし一名一の谷とも又は八十島とも呼べり』

攝陽落穗集に

『生玉の神木は錦城の内御成廓の御中庭にある老樹の松一本を生玉の神木なりと云ひ傳ふとぞ』

次に城構の中に寺内町及び門前町の一部のありたることを述べんに前述の如く寺内六町は主として二の丸の南西北の三方に僧房及び信徒の邸宅建て並べられたるならん』

天文日記に

『寺内町六ケ町ありて六町の構と云ひ此町の一部は淀川に近き京橋附近の低い土地であつた事は分る、即ち六町の内三ケ町が水に浸されたることが記載せり』

此浸水は高所より流れ來るはき口に於ける事柄にして六町の内新屋敷等の水落が北町屋へ落つるため常に物議を生じたること天文日記に見ゆ

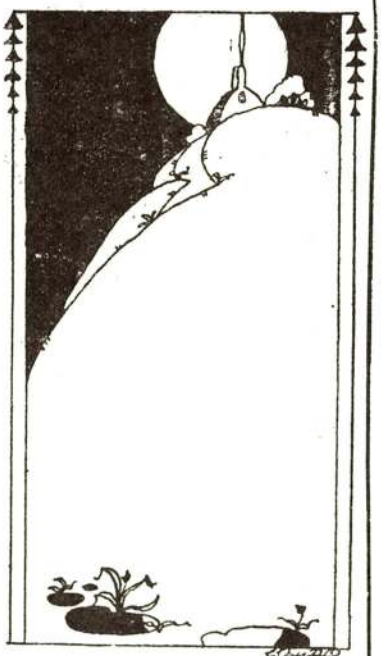
城構内に於ける門前町は現今大阪城の東北方雁木坂より青屋口に至る間龜が池の附近にありたるものゝ如し

石山要錄に

『古老曰石山御房在寺之時此邊に市居多別て池の邊に有之針屋諸國に名高し諸國の門徒石山參詣之時求之者多し呼で池側の針と云ふ其後石山破壞故針屋も大津へ引徙る古名を殘して今池側針と云ふ』

尙城構の外總構の内には所謂門前町ありて店舖軒を連ね交通亦相當に開け善男善女蝟集せるならん

殊に東北方青屋口と稱する方面より京橋附近迄には食料品店多かりしものゝ如し之れ現今天滿青物市場の濫觴なり。



『十三』

K・T

かつぐと言ふ事は日本ばかりではない、西洋にも却々かつぐ事が多い様である。マッチを擦りて煙草を點火てやるとき、一本のマッチで二人迄はよいが三人へは點火てやるものではない、若し三人迄やると共三人目の人と仲が悪くなると言ふ。汽車の中で大に能率を發揮した積りで三人目へ持つて行つたとき、隣人より注意されて面喰つた事がある十三と言ふ數字は西洋人は非常に嫌ふ。十三日出帆する船には乗らないとか。十三號の室は塞からぬとてホテルでは番號を脱してある。我々には何の感じもない否寧ろ十三夜の宵待月とか、十三七つのお月さまなぞ可成詩的の聯想を持つ程である。

尤も詩は必ずしも好い感じのみでない、苦痛もときに詩となる事がある。隨て西洋の十三も時には詩となるであらう

冬の日が西の空らに傾き、彼のモンマルトの丘の白の寺院のドームが、ピンク色に變る頃巴里の南、マルセーユ行の汽車は今しリオン驛の後方無蓋のホームに出發の合圖を待つて居る。何國も同じ停車場の光景大きなトランクなよちノ\かつぐ赤帽。忙く行交ふ制帽の驛員。キロキロと客車を見て廻る旅の紳士。而も目色毛色の替つた東洋人。漸く自分の事を見出し、車掌に助けられて自室に納まり、やれノ\とする。

言葉も解らぬ佛國より更に伊太利、ウインにも廻らうと言ふ一人旅、少々心細き限りである。周圍を見廻して一人も黄色い人は居ない。寂しい夕暮の出立が倍々寂く感ぜらるる。其處へヌーと丈の高いでつぷり肥つた白人が這入て來る早速名刺を出して自分を紹介する先方も名刺を呉れる（四

に自分は旅行中、同乗した人には必ず名刺を出して、名乗なする事に極めて居る。知らない同志が對い合て無言の行を續けると言ふ事は寔に堪へ難き苦痛である。名刺を示して互に其國籍を又其職業を明かにすれば幾分か相方が了解するし、了解すれば其處に心安すさが生まれる、自分は此筆法で旅行中可成便利を得た在外の友人は言ふ矢鱈に名刺を出すと變な所に持つて行かれると。或はまれには其人なき心得者もあるかも知れない。併し其れが爲に苦が虫を噛み潰したやうな思ひをして、不愉快な旅行をするのも馬鹿げた咄しである。咄しな元へ歸す。呉れた名刺を見ると米國紐育の某大學の教授である。此教授さん、流石米國成金の國とて日本の先生と違ひ、却々富有な様である。素的の鞄を三つも持つて居る。態度も

頗る平民的である。自分が日本人と解ると直に排日の言ひ譯をする。それは一部分の人の仕事で、決して米國全體の意志ではないと言ふ。

自分は其時此教授の辯解を本當と思つたが、其後米國を通過して此辯解が眞であり又偽りである事を知つた。米國の東部に居る日本人は重に役人か大商店の事務員である。其他の者も日本人對手の小商人に過ぎない。而して全體から言へば素質もそう悪くはなく又數も極めて少なく、米國に取りては内政的には何等問題にならない程度の者である。問題にならないから、語を替へて言へば邪魔にならぬから排日の必要はないのである。是の排日は米人の意志ではないと言ふ教授の言葉は眞の部分である。

加州に到つては全く異つて居る。沙漠の様な不毛の原野は日本人の手に依て年々綠園と化しつゝある。人員も十萬以上に上りそして年々其れが何倍かに増加し、着々として米國の市民權を携得して行く。米國人と競爭して行く。米國人の邪魔になる。そして其上に此地方の米國人は歐洲よりの移民である。又は近き其子孫である。其移民地を東洋人に奪はれる。是は彼等の堪へ難き苦痛である。邪魔な日本人である。是を排斥する。其れを米國人の意志でないと言ふのは偽りである。米國では黒人でも高等教育をする歸化日人も同様である。併ながら彼れ等に職業を與へない。否、職業を與へる。併し其は高等教育則ち大學卒業者には不釣合の、電車の車掌とか、給仕とか、赤帽とかの仕事である。決して米國全體の意志ではないと言ふ。

自分は其時此教授の辯解を本當と思つたが、其後米國を通過して此辯解が眞であり又偽りである事を知つた。米國の東部に居る日本人は重に役人か大商店の事務員である。其他の者も日本人對手の小商人に過ぎない。而して全體から言へば素質もそう悪くはなく又數も極めて少なく、米國に取りては内政的には何等問題にならない程度の者である。問題にならないから、語を替へて言へば邪魔にならぬから排日の必要はないのである。是の排日は米人の意志ではないと言ふ教授の言葉は眞の部分である。

加州に到つては全く異つて居る。沙漠の様な不毛の原野は日本人の手に依て年々綠園と化しつゝある。人員も十萬以上に上りそして年々其れが何倍かに増加し、着々として米國の市民權を携得して行く。米國人と競爭して行く。米國人の邪魔になる。そして其上に此地方の米國人は歐洲よりの移民である。又は近き其子孫である。其移民地を東洋人に奪はれる。是は彼等の堪へ難き苦痛である。邪魔な日本人である。是を排斥する。其れを米國人の意志でないと言ふのは偽りである。米國では黒人でも高等教育をする歸化日人も同様である。併ながら彼れ等に職業を與へる。併し其は高等教育則ち大學卒業者には不釣合の、電車の車掌とか、給仕とか、赤帽とかの仕事である。決して米國全體の意志ではないと言ふ。

自分は其時此教授の辯解を本當と思つたが、其後米國を通過して此辯解が眞であり又偽りである事を知つた。米國の東部に居る日本人は重に役人か大商店の事務員である。其他の者も日本人對手の小商人に過ぎない。而して全體から言へば素質もそう悪くはなく又數も極めて少なく、米國に取りては内政的には何等問題にならない程度の者である。問題にならないから、語を替へて言へば邪魔にならぬから排日の必要はないのである。是の排日は米人の意志ではないと言ふ教授の言葉は眞の部分である。

加州に到つては全く異つて居る。沙漠の様な不毛の原野は日本人の手に依て年々綠園と化しつゝある。人員も十萬以上に上りそして年々其れが何倍かに増加し、着々として米國の市民權を携得して行く。米國人と競爭して行く。米國人の邪魔になる。そして其上に此地方の米國人は歐洲よりの移民である。又は近き其子孫である。其移民地を東洋人に奪はれる。是は彼等の堪へ難き苦痛である。邪魔な日本人である。是を排斥する。其れを米國人の意志でないと言ふのは偽りである。米國では黒人でも高等教育をする歸化日人も同様である。併ながら彼れ等に職業を與へ



南紀の古建築
長保寺と淨妙寺

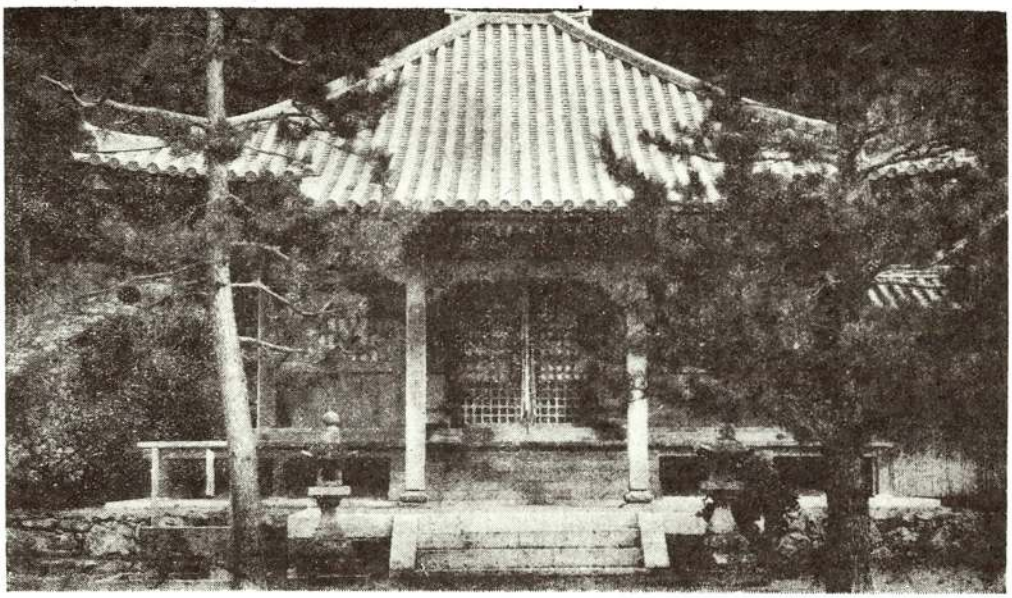
會員　池田谷久吉

汽車が和歌山市驛から次の和歌山驛を出たところから、南へ走つて行く　伊勢と紀伊との二つの國を連絡する鐵道線路がこれである漸くにして藤並といふところまで開通してゐるがこれから先はなか〳〵難工事のケ所もたくさんあるからまあまあ貫通して終ふのはいつのことか知れたものでない。しかし來年度には御坊まで開通するそうだから追々に便利になつて來ることはうれしい殊に紀伊の國は南國情調の豊かなところであり詩の國、歌の國である。

傳説とローマンスの美しい繪巻物が到るところに繰り擴げられ密柑畑と除虫菊の花とは自然の寵兒の如くに微笑んでゐる。墨江、日方を過ぎると長汀曲浦に沿つて南へ南へと走つてゐる、磯邊と隧道、斷崖と漁村とを幾つも幾つも繰り返すといつの間にか箕島へ着いた。

驛の附近は全くの新開地で新らしい二階建の家が軒を並べてゐて笑き當ると有田川の堤防である、少し北へ行くと舊い街の入口に大きな橋が架つてゐて淨妙寺はこの川の向側の山の麓にある、箕島は何といつてもこの邊の樞要の街であり橋の中程から見ると細長く建ち並んだ家がずつと港まで續いてゐて廣重の五十三次の繪でも見てゐる樣である。川を渡つて堤から下りる坂道を行くとすぐ眼の前の小山の綠の中に多寶塔の九輪がそゝり立つてゐる。

小さい部落の中央から南へ少し上ると淨妙寺の庫裏である思つてゐたよりも貧弱で汚なくて憧憬の幻想が破壞されてつくづく現實の悲哀を味はせられた、我々は幸にも南都七大寺の七堂伽藍の輪奐の美を心ゆくまで眺めつくすだけの時間を常に惠まれてゐた果報者である、そうした者の前には淨妙寺は餘りに小さかつた、庫裏に引き續いて本堂があり其の前の鐘樓の中には棺臺が無造作に放り散らかされて枯れた花束は見るからに宗教の職業化を物語るものであり不愉快なものである。その東の小高いところに多寶塔がある。



（淨妙寺本堂）

庫裏の玄關に來意を告げると早速と僧侶が出て來て心よく歡待して呉れた、そして本堂から順に惜しみなく丁寧に親切に案内されたのは第一の惡い印象に引き換へ愉快である。

現在は禪宗臨濟、京都の妙心寺派に屬してゐるが創建を聞くとなかなか古い

淨妙寺緣起　　寫

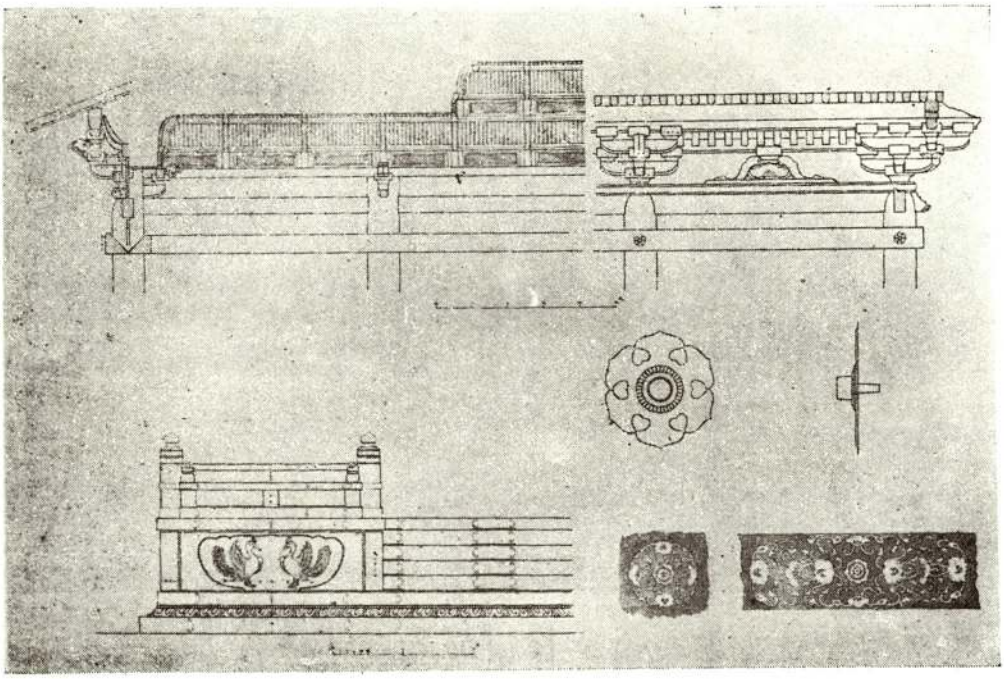
紀州在田郷淨妙寺者大同元年平城皇帝之國母創建矣于時國中感子時疾醫巫萬方皆無效驗而入死地者不可勝計爲加之水旱矢時年穀不登而民無食色國母惻怛已其欲救之而無術爲意萠非佛力則不能矣因茲發弘願曰夫佛法慈悲之廣大也不啻啓愚解惑能極懸倒之災厄今因朕之大願能除斯衆生之厲病朕又欲建寺慶幣以報爲其信動佛神靈貶如響雨時疾立瘳風雨忽順五穀豊稔四國題治國母感歡不少則欲營一寺以賽之而未得勝地持念願求及至一七夜忽夢勝地便物色之以普探國中遂得之於紀州在田郷小豆嶋之山中卜之佛法繁榮之地而雖彼祇陁靈園又惡若之耶國母歡喜已太便道衆工經營布金一塲漁輪既成而寺名淨妙山號醫王乃安醫王善逝脇士十二神將日月二菩薩四天王像致唐僧如寶爲開山寄附資田若干（別具契券）以行禪觀開律教矣於是萬國傾德不遠千里雲至霞起探漬索隱勉々不怠夜以繼日而以每歲正五九月上八日轉讀般若及藥師經以國祚長久及民人豊饒而爲之水年常式矣厥后國母御幸熊野山時御幸當山加之累代之帝王尊武行幸數有之如今也文獻不足故紀年難詳之唯因古老之口舌而已

右之緣起者洞雲座元企來都望之且投草案閱之而祝國祚長久看佛陀之冥感豈仰乎不顧梼散之禿筆猥書之太恥外見而已

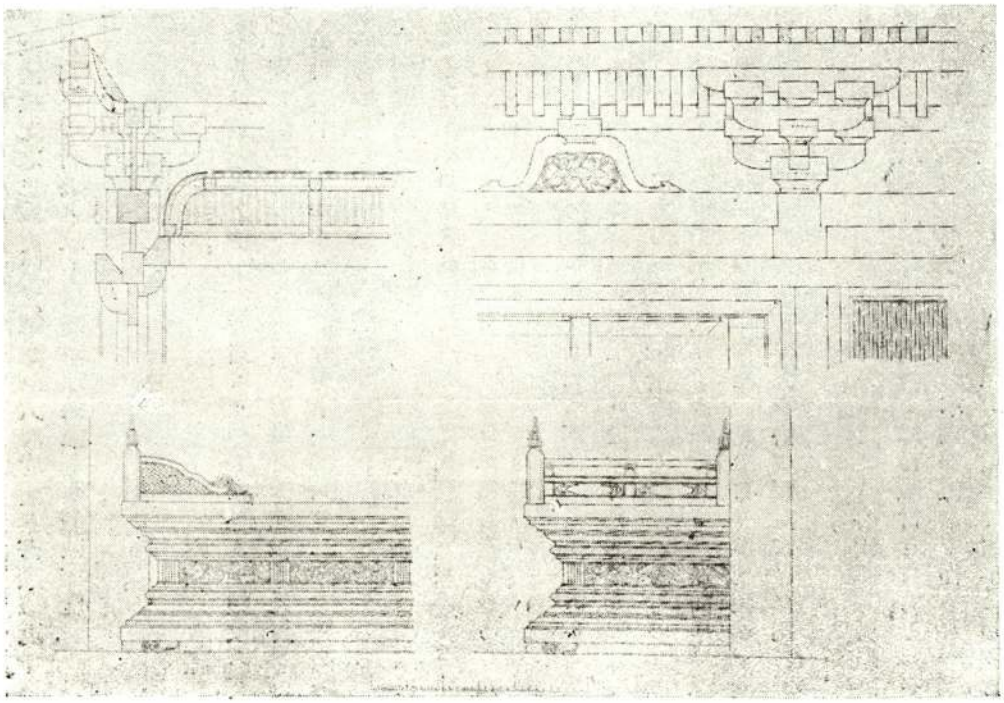
天和二年十一月十五日

權大納言兼民部卿藤方長

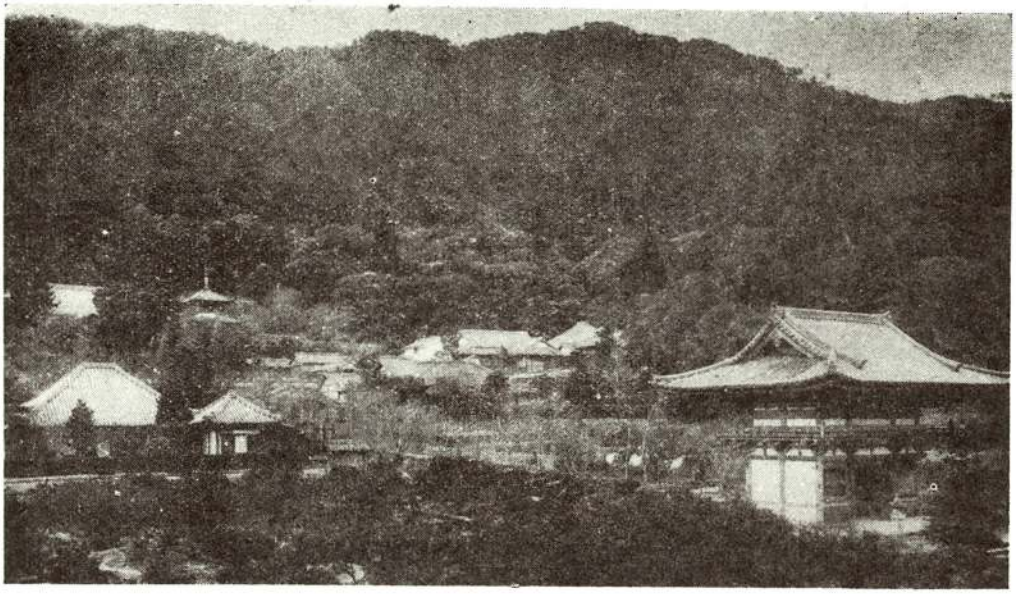
抑當寺之緣起前人之述既脩矣然中古衰淺權守兵革之日爲仙石氏之兵卒所奪掠矣當住洞雲座元痛恨緣起之泯滅而旁探廣募翌年茲爲遂目河召之古寺



(圖細詳堂本寺妙淨)



(圖細詳壇獺須及物組塔寶多寺妙淨)



（長保寺全景）

面得之閲其爲書恐有所漏脫故來子京師就廿露寺權大納言方長卿求考之記之矣方長卿不得山而温故記之也洞雲座元第恐衆人展卷而其書殘破就予望別筆之座元者雖緇素異元與予同姓也故不得固辭遂染禿毫謇其望而已

天和二年歳次壬戌冬十一月

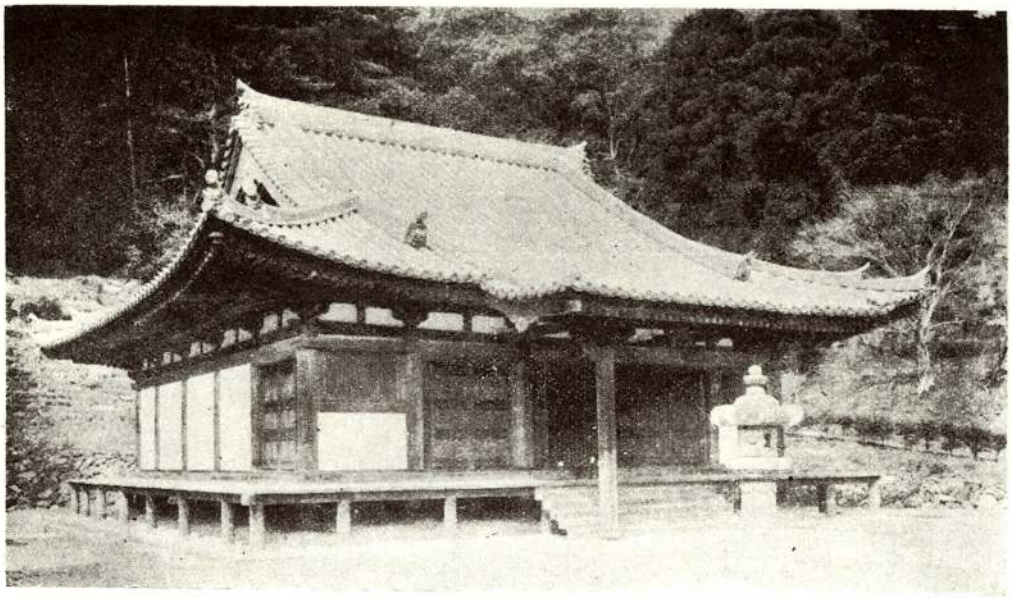
應神天皇十七世之苗裔諫議大夫三善清行雲孫

作和良宣謹書

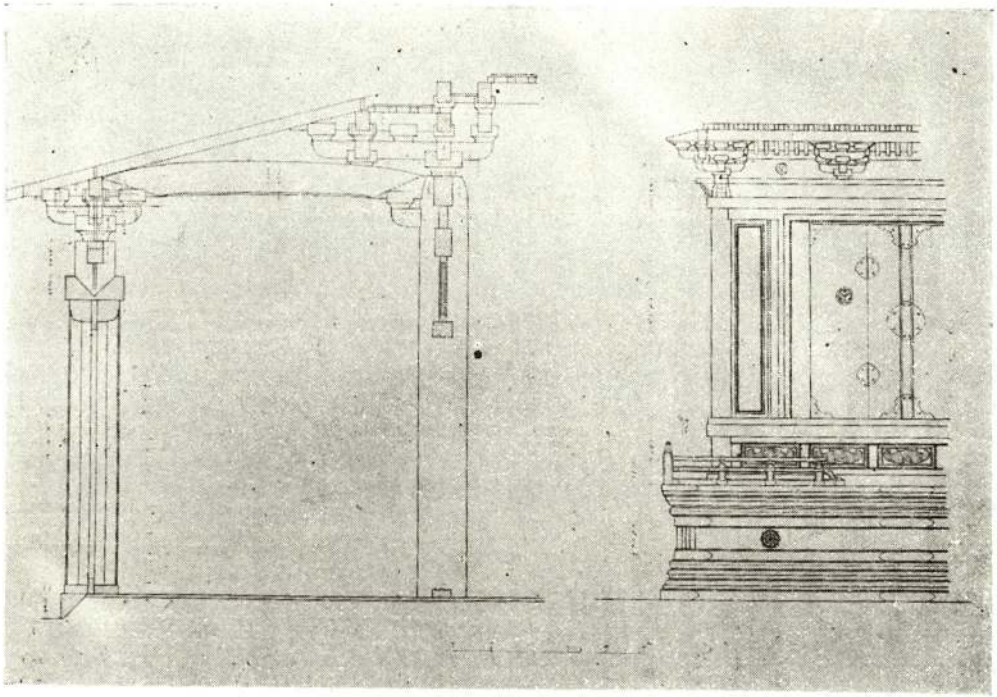
本堂は藥師堂とも云ひ最近天沼博士の指圖に依つて修理され屋根の瓦などもすつかり見違へる樣に出來上つてゐる方三間の單層四注の本瓦葺で桁行二十三尺五寸三分、梁間二十二尺六寸三分、軒高十一尺九寸二分、棟高二十五尺六寸、鎌倉初期のものらしいが後世の修補がたくさんかゝつてゐる。軒は二軒の繁垂で斗組が和樣三ツ斗の豪壯なもの左右に火燈窓を設け周圍に椽を廻らし内部天井は二重打上小組格天非ざし内部床は拭板張正面には一間の向拜を設けてゐるが拙劣なもので江戸時代邊に附加されたものであろう殊に蟇股などは見られたものでない堂全體のプロポーションはなか〳〵よいがこれだけでは大したものでもない。だが外陣の蟇股は鎌倉の名作である。

内陣には傳春日佛師の作十二神將、四天王・日光、月光佛を安置してゐるこの寺で先づ見逃してならぬものであり美術的にも價値あるものは内部の佛壇である、これは鎌倉塗といつて頗る立派なものである、正面には五級の木階をつけ、葛、及地覆、寶珠、柱、勾欄等凡て見事なる螺旋裝飾を施し、要所要所には飾金具を取付け須彌壇下左右習板の格狹間内には金銅打出の孔雀を裝飾に用ひてゐる。

こうした格狹間内の裝飾として孔雀を用ひかけたのは前代即ち藤原時代に陸中の中尊寺金堂のものが最も古く當代に到つて餘程流行したらしい奈良法隆寺の舍利殿の格狹間にも孔雀を用ひてゐるが木製の漆箔で作られ一羽づゝであるがこの寺の樣に向き合つたものを用ひ然かも金銅で出來てゐるものは珍らしいのみならず其の技巧の優秀な點に於て一寸他に類例がない。



（堂本寺保長）



（圖細詳壇彌須"及"堂本寺保長）

本堂から少し小高いところに多寶塔があるが本堂よりもこの方がよいものゝ様に思はれる方三間本瓦葺で飛驒工の遺構と傳へられ、桁行が十四尺二寸五分高さが四十二尺七寸といふ小ぢんまりしたものである。

様式は和様を用ひ斗組、初層は三ツ斗の出組上層は四斗先軒は初層上層共二軒の本繁垂で屋根の反轉なども緩かに出來當代のものとしてはデリケートであつて前代の遺風をよく繼承したものである柱は圓柱を用ひ欞子窓を設け四方には廻り椽に勾欄寶珠柱等なか〳〵完備してゐて正面には石の階段を設け、内部中央には須彌壇を設け天井折上小組格天井、四周の板壁には釋迦八相の壁畫が描かれてゐるもとは極彩色の莊嚴なものであつたらしいが現在では惜しいかな淡くなつてゐて充分にわからない。何でも住職の話しによると近世の住僧に到つて附近の善男善女が禮拜のために群集するのが厄介なのでこれを嫌つてわざ〳〵洗つて終つたのだそうである實に馬鹿げたことであるが最早取り返しの着かぬことが何とも殘念至極である。



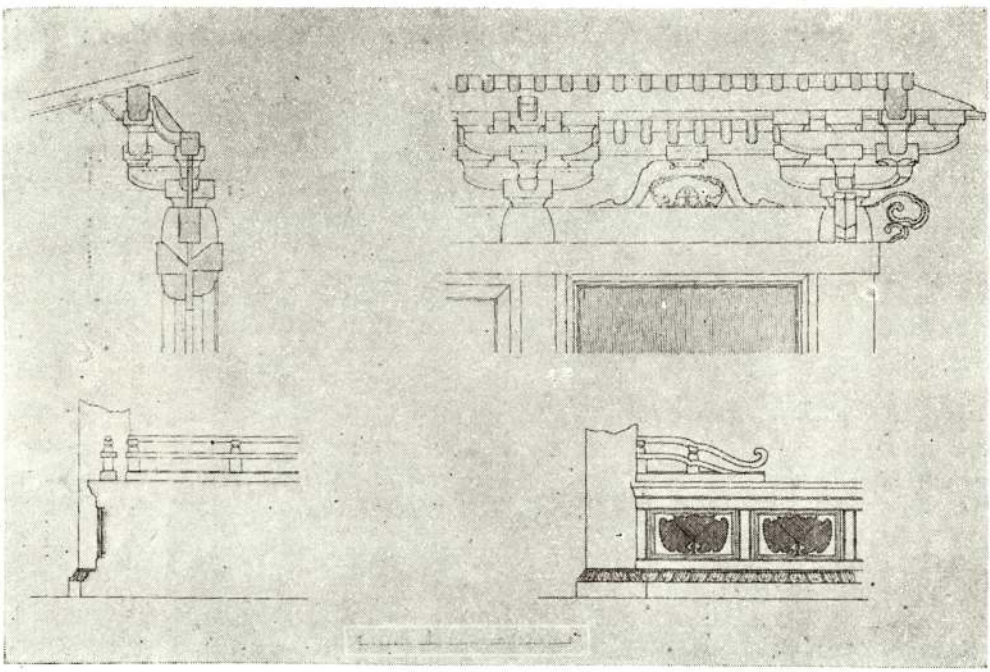
（塔寶多寺保長）

内陣の五智如來は春日佛師の作と傳へられ餘り大きなものでないが佳作である、火災に罹つたので取出したために面相及手足等が破損したがそのまゝ修理もせずに今日に及んでゐるらしい、すると最初はこの塔のものでなかつたらしくどこから移されたものであらう、この邊の眞僞は判然としてゐない。

この塔は裝飾といふ點に就ては作者がかなり苦心したもので外部の丹塗は先づ普通として内部の四天柱及須彌壇、長押廻り天井等はすべて漆塗りで餘程凝つたものである。

初層外部に使つてゐる蟇股は本堂内の須彌壇と共に當鎌倉期に於ける代表的のものではなかろうかと思はれるほどの優秀なものである。

寺の規模としては見るかげもなき廢寺に等しいほどのものであるがこれだけの小さいながちよいものを持つてゐるのには驚かされる。



(長保寺多寶塔初層組物同須彌壇詳細圖)

一巡見終つて庫裏へ返ると住職はいろ〳〵の世間話しを次から次へと話題を代へて話しかけたが是非共今日の内に今一つ長保寺を見る豫定があるのですぐさま席を辭した。

× × ×

箕島の驛から汽車に乘つて和歌山の方へ戻ると次は下津驛である。下津は港のあるところで景色もなか〳〵よい。灣になつてゐて山が迫り水深も相當あるので相當の船も入るらしい。

長保寺はこの驛前を右へよく摩けた道を汽車の踏切を渡つて細長い村を越して驛から約二十町も來たと思ふ頃山の麓に流れの茂みの中に大きな堂塔のいらかが隱見してゐる。細い河水川があつて橋が架つてゐてすぐに樓門がある、單層三間二面の入母屋本瓦葺でどつしりとしてゐる室町初期のものらしく和樣と唐樣との折衷で傳として應永二年の建立になつてゐるが優雅な風致を持つてゐる。

金剛力士を安置し正面の大きな門額には慶德山長保寺とあつて慶永二十四年六月一日妙法院宮筆とある。斗組は三手先で隅尾棰三間には手挾を用ひこれに彫刻を施し先づ樓門としては佳い方だろう、これを通り越すと道かたん〳〵とつま先登りになつてゐて兩側に櫻樹が列をなし左右には塔中の寺院が二三各生垣を繞らして散在してゐる。先きの淨妙寺と比べて規模の大なることはとても比較にならぬほど立派である。

春三月花見の頃は近郊近在から花見に集ふ多くの人々でさぞかし賑はうだろう。

靜寂と古佳との織りなした自然の妙技ほど美しいものはない。櫻樹の並木の道をつき登ると廣い境內になつてゐて正面

には本堂があり右に多寶塔左に鎭守堂、護摩堂、食堂、鐘樓等が配置され背後に山を負つてゐる。配置整然として立派なものである。

此の寺の緣起を探るに

長保年間一條天皇の勅願寺として創建されたものでその名も長保寺と呼んだのである、應永年間に眞言宗に改め七堂伽藍の整美を備へて子院十二ヶ所を作るなど盛んであつたが其の後漸次衰運に傾き子院等も大半は廢絶するに到り綸旨、院宣等の重寶物も次第に紛失し寛文六年に到つて更に天臺宗に復歸した、當時恰かも和歌山城主德川賴宣薨去するに及んで當寺に塋域を定めて以來藩主累代の墓所となつてゐる、近くは賴倫侯の墓も營造されてゐる。



（鎭　守　堂）

先づ本堂から見ることにする釋迦如來を本尊とせるため一名釋迦堂とも云ひ鎌倉時代のもので河內の觀心寺の本堂と大變よく似てゐる。プランは方五間一間の向拜を設け屋根單層入母屋造本瓦葺周圍に廻緣を設け正面には木の階段を附け外觀頗る雄大にして比較的大建築である。延慶四年（紀元一九七一年）の建築にかゝり同年五月五日棟上大工藤原有次といふ古文書が殘つてゐる。

細部は和樣と唐樣との兩樣を巧妙に混用し所謂前述の觀心寺樣に屬するものである即ち外陣の柱は三ツ斗組にて和樣であるが入側の柱は唐樣で粽があり三ツ斗も唐樣に出來てゐる。

又外陣の組物の間には天竺樣の大瓶束を用ひてゐるかと思ふと內陣には唐樣の詰組になつてゐるまた向拜桁鼻隱しには彫刻を用ひるなど種々の樣式を自由に用ひてゐる內部の佛壇は後世の出來であるが厨子は本堂と同一時代のもので唐樣である。腰には唐草の彫刻を施し勾欄には逆蓮頭がついてゐる。

この堂は坤の方茶所のあたりから眺めた姿は何とも云へない落ち付と靜けさとを感じさせられる。

多寶塔も本堂同樣鎌倉時代のもので方三間十五尺三寸二層本瓦葺構造手法は和樣新派にして三ツ斗を用ひ外部支輪を設

け初層の蟇股は極めて美しい透彫の蓮花を配し立派なものである。入口には唐戸を嵌め左右櫺子窓を設けてゐる。

目下頽廢甚しく殊に九輪などは隱分ひどくなつてゐるから今の間に早く修理の道を講じたいものである。

內部は折上小組天井にて內部須彌壇(高二尺一寸)は純然たる唐樣にて腰には精巧なる模樣あり柱は逆蓮頭をつけ勾欄の間及地覆等にも立派な裝飾が施されてゐる。

多寶塔から艮の方背後の山の中は墓所になつてゐて途中に鎭守堂がある、これは小さい一間社流造で屋根本瓦葺のものである。矢張り延慶四年の創建の儘今日に殘つてゐる特別保護建造物にるつてゐながら何分小さい點に於て日本一と云はれてゐる、これから廟所を經て本坊へ歸ると多寶塔に引き替へ本坊の立派なことに氣がつく德川氏の勢力の偉大さには今更ながら驚嘆の外はない。

此の寺の國寶絹本着色佛涅槃圖は立派なものであるが住職が不在のために拜見出來なかつたことは何よりも殘念である

一日の內に淨妙寺とこゝとを見ると一寸無理である、餘程疲勞を覺えて來た。

陽は西の山に沈みかけると夕かすみが山の尾に棚引いて寺の鐘が遠く餘韻を殘して響き渡つた。

寺を辭去して驛へ出るとしきりと足の疲れが覺えかけて汽車に乘るとすぐに居眠り初めた。(二、二、二八記)



J·O·B·K の建物に就いて

會員 工學士 大倉三郎

放送局の建物に就いて何か書けとの御依頼を受けたがさてペンを取つて見ると無雜作に引受けて又後悔したなと思ふ。捕捉すべき何物をも一向に見付からない。が兎に角思ひ浮ぶまゝ前後もなく書き綴つて見やう。

放送局が三越からの移轉とその敷地問題で府廳、市廳、それから大藏省と、色々の方面から板挟みとなつて都下の新聞に喧ましく書き立てられたのは、忘れもしない昨年の夏であつた。その行詰りの苦境からやつと脫け出して、嚴しい移轉期日の御達しに追はれ乍らまことに窮鼠の勢で敷地を決定し設計と施工を兎にも角にも仕遂げたのが今の大阪中央放送局の建物である。小さい機械室を除く外は唯のバラックに過ぎない假建物である。

バラックとは戰場の假兵舍であると聞いてゐるが全く戰爭の樣なあわたゞしさの中から出來上つた文字通りのバラックである。

あんなみすぼらしいバラック建でラヂオの放送が出來るんですかと聞いた人があつた。無理もない。ある人は村役場の樣だと云ひ田舍の小學校だと云ふ。建物の外觀は問題ではないが心配したのは放送室の設備である。

尤も今のバラックは一年間と云ふ豫定で近き將來には相當の本建築が出來る筈であるから所謂ラヂオファン諸君は村役場でも何でもしばらく之を諒としてもらひたい。

問題はこの木造バラックの二階でどの程度まで音響に對する設備をなし得るかと云ふことである。之は最初から頭痛に病んだ疑問であつた。殊に期間と工費とに無理やりに限定されて相當の成績を擧げ樣と云ふのだからむづかしい。

寡聞乍ら自分の調べて見た範圍では木造に相當の音響的設備を施したものは外國に二三の小實驗室を除く外あまりないらしい。

放送室として必要な音響的設備。之はラヂオの專門家でな

い自分にはつきつめた意見もないが要は普通の建築音響としての三方面即ち外部からの音響の遮斷。內部に於ける無用音の防止。及び內部に於ける音響狀態の調節との外に出でないものである。

放送中に外部から雜音が侵入して來る、例へば電車の音自動車の響き、雨風の騷音之は勿論如何なることがあつても遮斷しなければならない。放送中に內部で必要以外の音、例へば室內の足音がマイクロフォンに入る之も云ふまでもなく絶滅さす必要がある。最後の音の調節に付ては時と場合に應じて適當な取捨を要するから問題は仲々複雜となる。專門家に依つても色々意見が違ふ樣である。ある人に依れば直接音以外の一度壁なり天井なりに反射された音はマイクロフォンに入らないがよいと云ふ。自分にはその意味がよく解からないのだが、やはり人間の耳に聞えて一番よい音をマイクロフォンに入れるのがよくないかと思はれる。壁に吸音材料を多量に使用して反射を極度に減少すれば室內に於ける音のエネルギー密度は吸音量に反比例する定則から、音量は非常に減じて所謂籠つた音となつてしまう。しかし又一方ラヂオの器械そのものが經驗に慣らされた人間の聽覺程銳敏に働かない勢もあるから、微妙な反響を全部一樣に取入れることは明瞭を缺く憂ひもある。

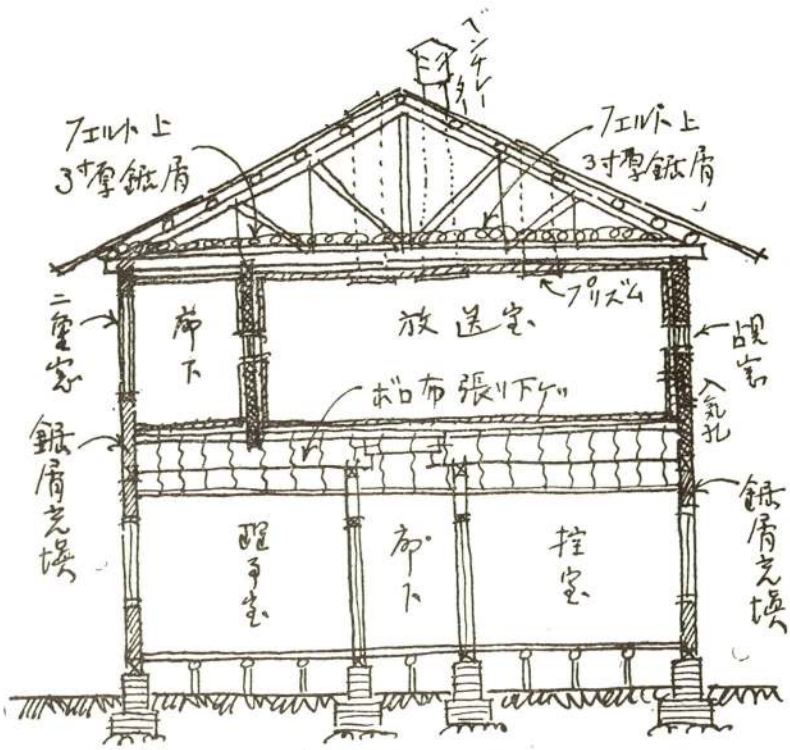
マイクロフォンから器械を通る電流の感度と人間の耳から聽覺を起す神經の感度の差違、それはまづその專門家に一任するとして、とにかく放送室としては人の話聲も放送すれば音樂も放送する日本音樂もあればオーケストラもある。それぞれその必要とする反響の差違からすべてに對して適當な調節に應ずると云ふ事は仲々困難な問題である。

例へば話聲にしても豐滿な聲の持主もあれば、かすれ聲の持主もあり一樣でない理窟であつて、それでこそ放送者の聲咳に直接接する樣に聞えるではないか、と云へば別論だがとにかく普通の聽衆堂でも厄介な問題をこゝは更に器械を相手であるから一層困難な問題が伴つてくる。放送局でも一部種々の工夫を凝らして居られる樣であるが未だその適確な數字的結果を得られないのは遺憾である。

そこでJ.O.B.K.の問題に歸る。元來木造はそれ自身質量が小さく幾分彈性にも豐み、第一、架構そのものが軟弱であるから外からの振動に影響され易く、それに依つて音響を傳ふるに充分である。

即ち柱、梁、壁、床、等構造そのものが振動の傳導體となつて音響を傳へる種類のもので、空氣を傳達する振動との識別は餘程困難であるが微か乍ら認識し得られないとはない。鐵道線路に近い家屋が列車の振動をうける等は明かな一例であるが、放送局でも前面を通る電車の轟音や階下の一室で扉の開閉のひどい場合、明かにこの種の振動が音となるのを認め得るのである。

尤も之は木造に限つたことではなく鐵材の如き彈率に豐む材料は可成大きい樣である。之が防止は甚だ至難の事に屬する。イリノイ大學のワットソン氏に依れば構造體の連續を破る目的を以て柱、梁等の繼手仕口にフエルト、布又は砂等の挿入を提唱してゐるが、之は餘程徹底的にやらねば効果がなく、是くすれば又構造の危機を孕むことになり特殊の場合の外、先づ出來ぬ相談に近いと思はれる。



放送室断面圖

先づ構造を彈性に乏しい材料で重且つ剛にして、外振動に對して容易に影響され難い構造とするより外道はないと思ふこの點から云つて木造は甚だ仕末の悪い材料である。

次に木造には無用の空間が多い。天井裏、屋根裏、床下、又大壁であれば柱間等いくらでもある。此等が立派にサウンドボックスとして働き音響を增大擴散することも考へられる。

中間に空間があれば二重壁の作用で却つて音の傳透を防止する樣にも思はれるが、又事實多少の効果はあるに違ひないが、かゝる場合には完全に獨立した空間を必要とするので、間柱、小屋組、又は釣木等の類で二つの隔てが連絡されてゐる場合には音響はそれ等を傳つてゆく方が多く結局二重壁の作用はむづかしい事になる。

傳響板と云ふものがある。音の强大を助ける爲め早くから建築音響上に使用されてゐるものだが、之も空間のある爲めに起る作用で、例へば木造腰羽目が傳響板の作用をするのもその裏の空間が之を助けるのであるから之を閉塞すればある程度に消滅するに違ひないと思はれる。

事實放送局の建物でもこの種の反響に惱まされたので追加工事として空間の閉塞を試みた。即ち外壁中に全部鋸屑を充塡して一體となし、二階の床下は縱横三尺間高さ一つばいにフランネルのボロ布を垂れこの空間の空氣の振動を局限するに備へたのである。屋根裏は比較的この作用が尠いと思はれる爲めに特に空間はこのまゝに置き、小屋組下端に防水フエルト一枚敷の上鋸屑三寸厚に敷きつめ一層を作るに止めてある。

實際も少し徹底的にやる爲めには壁は獨立した二重壁としその中間を初め、床下、天井裏、屋根裏等全部鋸屑なり砂なりで充塡するに如くはない。事實かうした實驗室が米國にある。

次は放送室の隔壁の問題である。

ある材料を通して音の傳透するのは音波の粗密がその表面

に衝突してその彈性波を材料の分子から分子へと傳達し、更に反對側の表面から空氣中に傳達するものと考えられる。

故にその傳透度は分子の密度及彈性に關係あることは明かである。外國で行はれた各種材料の實驗値の紹介は他日に讓ることゝしてこゝでは建築に際し大阪放送局技術部で行はれた簡單な實驗の結果を特に擧げて見やう。

之は一寸二分角の檜材で二尺角高さ二尺の箱枠を作り、その外面に試驗材を張り付け、箱内にスピーチオンリーマイクロフォンを入れて密封し、箱前面一尺の位置にてベルを鳴らし、之の音が内部のマイクロフォンに感ずる度は外部にアンプリファイアー、それから受話器及可聽計を接續して比較測定したのである。

その試驗成績表

	材料の種別	可聽率		
		試驗者A	試驗者B	平均
1	厚さ1吋壓搾コルク板	7.0	8.5	8
2	厚さ½吋壓搾コルク板	8.5	14	11
3	側面½吋厚壓搾コルク板 正面及背面3分厚ガラス板	14	18	16
4	側面1吋厚壓搾コルク板 正面及背面2分厚ガラス板	18	29	24
5	側面1吋厚壓搾コルク板 正面及背面1分厚ガラス板	22	36	29
6	厚さ½吋ファイバー板	18	22	20
7	側面⅝吋厚コルク板正面及背面¼吋厚獸毛フエルト	36	58	47
8	側面½吋厚コルク板正面及背面1吋厚獸毛フエルト	46	53	52
9	側面⅝吋厚コルク板正面及背面¾吋厚獸毛フエルト	74	94	84
10	厚さ½吋セロテックス板	—	—	22

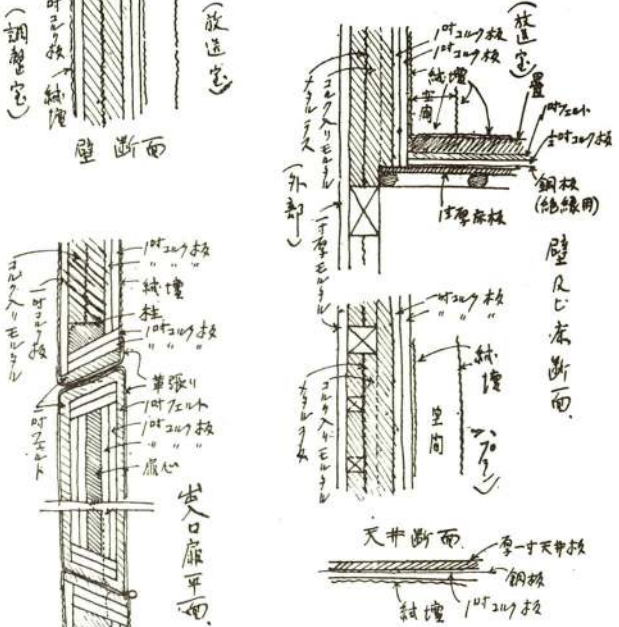
コルク板は反射度大きく傳透度尠なく、フエルトは反射度尠なく傳透度が大きいことは他の各種の實驗と一致するところである。

音の傳透に付て材料の性質以外にも一つ考慮す可きことは隔壁そのものゝ振動である。音波の振幅は非常に小さいものであるからある物體の極く微少なる振動に依つても充分發音し得る事は明かである。しかし之は微細な空氣の分子の衝突に依るものであるから物體の質量と剛度、又は慣性が相當大きければ問題とはならないが、試驗材の大さ、厚さ、質量等によつてその自然振動の週期が音波のそれと近ずく時に相當大なる影響あることを忘れてはならない。

實際に輕い間仕切等の場合にもこの種の作用が可成あることは種々の實驗に依つて證明されてゐるところである。

今日建築音響に關する科學は未だ〳〵研究の途中にあり、聽衆堂の音響調節の問題は稍々その體系をなして來た樣であるが、音の傳透及絶滅に關する問題は僅かに初歩を踏み出しただけの狀態であつて適確なる理論的應用を爲し得る迄には未だ〳〵距離がある。放送局の防音設備にしてもおざり〳〵の狀態であることを附言して置く。

放送室の隔壁材としては種々詮衡の結果圖に示すものを使用してゐる。



放送室覗窓は巾三尺、高さ一尺すべて三分厚ガラス二枚（約三寸の空間を開けて）張りの上ゴム及フエルトにて密閉す最も困難なものは放送室の換氣設備である。空氣は充分に通すが音波は遮斷せうと云ふのだから事面倒である。それも放送室専用に獨立した機械室を設けて特殊の防音設備を施すなれば問題はないが木造の假建築である。到底完全を期し得ない。

そこで姑息ではあるが止むを得ずロバートソンベンチレーターを屋上に設け、その導管内部には一吋フエルトを張りつめることにした。入氣孔は側壁に小孔を設け同じく内部に一吋フエルトを張りつけてある。案の上多少の雜音が入つて來る。そこで放送中は蓋をして密閉し、放送間は開口して換氣することになつてゐる。防音と換氣に付ては外國でも色々面白い工夫が出來てゐる樣であるが之は他日に讓ることにせうその他二階廊下には全部疊敷きの上敷物とし、その窓は全部二重窓としてゐる。又階上階下各室出入口扉框にはラシャ布れを張り付け開閉の騒音を防ぐことゝする。

防音としては未だ〳〵完全の域には遠く、放送室に入つて靜止するとそれとなく音とも知れず、響とも知れず極く微かな振動が入つて來る樣であるがマイクロフオンに感じない程度であるから放送するには決して差支へない理である。

人間の神經に映る完全に無音の狀態と云ふものは自分には考られないが、たとへ耳の鼓膜は靜止しても心臟が靜止しない限り尙、人はある種の感覺で音を感じ得るだろうと思はれる。それが聽覺には感じ得られない音波が尙物理の世界にある、それであるか、どうかは解らないが、それ以上は神秘の國に屬する樣な氣がして下らない想像を逞しふし乍ら放送室を出たことである。

放送局の建物には尙この外に機械室及放電塔二基を含む。これは何れも永久的の本建築であつて前者は鐵筋コンクリート造一部二階建て、後者は鐵骨造高さ二百六尺、アンテナ線を張り渡し、その中央から眞下の機械室に連結してゐる。機械室は唯コンクリートの鑄物に外部にモルタル内部にドロマイトを塗つたに過ぎない一つの箱である。

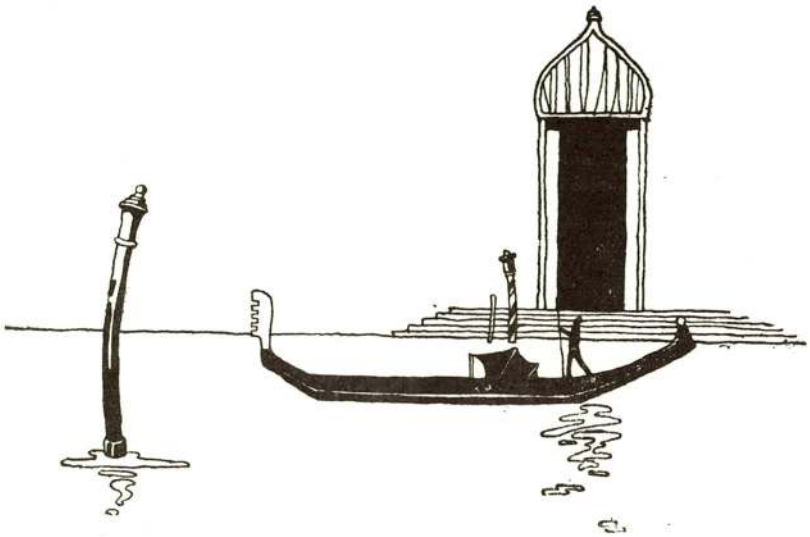
建築と機械。最近の新しい提唱に依つて建築と機械とはその距離を近めつゝある。其理論的根據は別問題として自分は直前に建築と機械との交叉を見せつけられて呆然としたもの

である。コンクリートを打つと同時にたくさんのモーターが運び込まれる、スチールサッシを嵌め込むと同時に無數のコンヂットチューブが縦横に設置される、流動する力の感じに迫まられる。避雷裝置の美しい形、放電器の不思儀な魅力機械の美しい線と面と立體の交錯。これこそ自分が探してゐた機械室の建築であると云ふ意識に打たれる。それと同時に之と切り離れた建物の醜さに思はず冷汗を流したことである。

美しい機械、美しい建築、そこにどんな溝がありどんな連結があるか自分にはよく解らない。唯この機械室が機械の前に醜い形を曝してゐることを悔み乍らも肯定しなければならないのである。

久しくラヂオを聞いた事がないが、誰れでもが初めてラヂオを聞く時に經驗する聞えゝと云ふ不思儀、機械に對する下思儀な魅力を思ひ出す度に、機械と建築、機械と機械室の感を深くするのである。

最後に鐵塔の設計に當つては京都大學助教授坂靜雄氏の御指導に負ふ處大なりしを深謝して擱筆する。



大阪城虎の傳説の内

（一）

虎と犬の闘ひ

齋藤悳太郎

大阪城に關係ある口碑傳説はかなり數多くあつて、而もいろいろな種類にわたつてゐる、その中に、虎に關するものが三つあるから、こゝに夫を記してみる、尤もこゝに記す『虎と犬の闘ひ』の一場の物語は、古く物の本などに、事實あつたことのやうに記してあるけれども、私の見るところでは、やはりこれも一の傳説といふもので、事實には幾分遠いものと思はれる、その理由は、物語の中にある人の名、犬の名、地名などが區々であるからだ、ここに記したのは、その中の一つである。

その頃太閤殿下は、大阪の城中に一頭の猛虎を養ひおかれた。名を假りに一漢と名せられてあつた。

この虎は、大明渡來のものであつた、身の丈け六尺ばかり毛色は飽まで黄ろく、背から腹にかけて、黒い斑ら毛が波を打つて模樣を描いてゐた。

何んな者が近づかうと、誰にも馴れつかうとはしなかつた番人が竹の先に生肉を附けて檻の中にさしこんでやると、猛虎は直ぐに飛びついて、引つたくるやうにして取つて食つたしかし、生肉のみではいけないので、毎日兎、猫、犬、雞などを生きてゐるまゝで投げこんで喰はした。

虎は、日一日髯を逆立てて咆哮つづけてゐた。番人も恐ろしいので、檻の錠前を何んべんでものぞいて檢べてみるので

あつた。もしか虎がその檻を破つて飛び出しでもしたら何うすればよいか、と考へなくてもいゝことまで考へてびく〳〵もので日を送つてゐた。

むやみに氣が大きくなつて、何んでも人の膽を奪ふことのみが仕事のやうになつてゐる太閤殿下は、人の爲ない猛虎を飼つてゐるといふ事その事が、すでに快よくてたまらなかつたのである。

殿下は、番人が今犬や兎や、鷄などを生きたまゝ檻の中になげこんで、虎がそれを強い太い前脚でシカと押へて、しばらく眺めてから一と口に啖ふのを見て、無聊を慰さめてゐたのである。

けれども殿下は、間もなくそれに飽きてしまつた、それは何故かといふと、投げこまれた犬や兎や鷄は、もう、何んの苦もなく虎の餌食になつてしまふからであつた、そこで殿下は、ある日近臣に斯う云つた。

『何うも興が薄い、もつともつと何か強いやつを投げこめ、虎のために一と撲にされて、すぐ食はれてしまふやうなものでなく、少しは虎に歯向つて見るやうなものはないか、馬でも牛でも、熊でも猪でも投けこめ』

しかし、そんな體の大きなものをこの檻の中に投げこむことは、非常に危險であつた、投げこまうとする機會に、却つて虎の方が飛び出すかもしれなかつた。

『それなら、せめてもつともつと強い猛犬を投げこんで見せろ』

そこで、大阪はいふに及ばず、泉州から河内、近畿一帶にかけて、その猛犬の詮議が嚴しくなつた、町人百姓で強い犬を飼つてゐる程のものは、この由をきくと同時に皆な犬を隱してしまつた、虎の餌食にさせるのが可哀想だからだつた。

ところが茲に、河内のある在の奥に彌惣といふ獵師が住んでゐた、年はもう六十ばかりで、妻は五十四五になつてゐたが、二人とも正直者であつた。

この老いた夫婦は、一疋の猛犬を飼つてゐた、この犬は全身茶と黒のすばらしい大きな犬で、足長く胴細く、口が狼のやうに尖り、眼光するどく、而も肉しまり骨太く、恐ろしいほど逞ましいものであつた。

名を黒丸といつた。

彌惣が山に獵に行く時は、無論一しよに出かけた、性質が機敏であり、動作がすばしこくて、よく鳥獸を追ひ出して主人彌惣に手柄をさした、まるで彌惣の心をいつも讀んでゐるやうに、手足の如くになつて働くので、夫婦は我子のやうに可愛がつてゐたのはいふまでもない、實際、夫婦の生活にとつては替へ難い大切の犬であつた。

黒丸の強猛なことは、いふまでもなく近郷近在にその比がなかつたので、その名は誰にも知られてゐた。

ところが、右の詮索である、この夫婦は驚いてその犬を隱してゐた。

しかし、こゝにこの夫婦と猛犬黒丸にとつて、堪へられない不幸な事ができた、それは、この彌惣は、何かの事から村の長を勤めてゐる某しに常に憎まれてゐた事であつた。

そこへ太閤殿下の役人が出張してきて、この近在に猛犬がゐないかと嚴しい詮索をした、無論まづ村の主立つたものを五六人呼出してきいて見るのであつた。

『殿下の嚴しい御命令だ、猛犬を養ひおくものがあらば、隱さず申立てるがいゝ、もしか隱し立てなどをすると、後日その方たちも不爲めであるから』

しかし誰も彌惣の黑丸の事をいふものは一人もなかつた、それは彌惣といふものは至つての正直者で、誰にも氣に入つてゐたので、その飼犬の事をいふのは可哀想であり、氣の毒であるからであつた、しかしその中の、彌惣を憎んでゐる村の長某しはこれこそ彼奴をいぢめてやるのはいゝ機會だと思つたので、

『申上げます、無類の猛犬が一ぴきをります』

と云つた、役人は、

『その猛犬は、どこに居る』

『當村に住つてをります彌惣と申すものが飼つてをります犬で、名を黑丸といひます、これは逞ましい猛犬で、近鄕近在、とてもこれに敵ふやうな犬はをりません、こいつを檻にぶちこんだら少々は殿下のお慰みになるやうな働きを御覽に入れることが出來るかと存じます』

『それはよい事をいつてくれた』

役人はそれから五六人で、彌惣の家に出向いていつた。

老夫婦は驚いて泣いて黑丸の一命を助けてくれるやう頼んだ、しかし役人達は決して聞入れなかつた。

『殿下の御命令は重い』

有無を云はさず黑丸を大阪城に引立てゝ行く事になつた。

夫婦は自分の生みの子が、虎に喰はれに行くやうに悲しんだ、しかし、殿下の嚴命は何うすることも出來ない事になつて、もう黑丸の命も茲にきはまつてしまつた。

そこで夫婦は、黑丸に向つて、我子に物をいふやうに云つてきかせた。

『前世の定業とあきらめて行つてくれ、出來ることなら夫婦の中の一人がお前に代つて行つてやりたいと思ふが、それも出來ないといふ仰せだ、何うかこの夫婦を恨んでくれるな』

さういつて食事をさして、泣く〳〵役人の手に犬を渡したが、夫婦はそのまゝそれをやるのが悲しいので、二人一しよにあとについて大阪まで見おくつてきて、犬が役人に曳かれて、城の中に入るのを見きはめてから、天王寺にお詣りをして、犬の後世を弔らつて泣く〳〵河內の故鄕へ歸つて行つた。

一方犬は太閤殿下の御前に曳かれた、殿下は猛犬來るとの臣下からの報せによつて、端近に出てみると、なるほど世にも稀な逞ましい犬であつたから、ひどく興を催して、

『なるほどこれは珍らしい猛犬だ、早速予の眼前において、これを虎の檻の中に放りこめ、これは面白からう、これならば少しば虎と爭ふかもしれない』

そこで下役人たちは、黑丸を檻の方へ引立てた、黑丸はもう觀念をしてゐたやうに、少しもわるびれる事はなかつた、役人たちがするやうにしてゐた、やがて黑丸は虎の檻の中へ投りこまれた。

すると、黑丸は檻の隅のところを背にして、眼を光らしながら、暫らく虎の樣子を窺つてゐた、虎は、直ぐにこの犬に飛びつかうとしたが、どうもいつもの犬とは餘ほど樣子が違ふので、少し考へてゐたやうであつた、彼はウウウ、ウと太

く強い物凄い唸りを立てながら、じり〳〵と犬の方へ詰め寄つた、黒丸はしかしびくとも身動きもしなかつた、白い牙をむき出して一生懸命狙ひを定めてゐたが、ウヮッと吼ゐるかと思ふと、電光石火のす早やさでもつて、猛虎の咽喉へ一と口に喰ひついてしまつた、そのす早やさは實際目にもとまらない早業だつた、殿下を初め近臣達は、あつと思ふひまもなかつた、猛虎は、黒丸に先手を打たれて、驚きと痛みとに堪ねかねて、流石は猛虎だ、咆哮一聲、兩手の爪を張つて黒丸のからだを引つ掻くと、犬は二つに裂けて血がさつと走つた、また掻いた、三度掻いた、犬のからだはずだ〳〵に裂けてしまつたが、黒丸は最後まで虎の喉から離れなかつた。

斯うして黒丸は無慘な最期を遂げてしまつたが、その代り猛虎もまた喉笛を噛み切られて其場に命を殪してしまつた。

この闘爭は瞬間だつたが、實に見る者の眼を驚かし膚を冷した、かくて殿下は金銀に替へがたい大事の大事の猛虎を失なつたが、その咎を誰にぬりつける事も出來なかつた。

（此項完）

吾家を建てるには

（3）

（一）場所と廣さ
（二）洋風か和風か
（三）二階建か平家建か鐵筋か木造か
（四）坪數と間數
（五）書齋客間應接間は洋風か和風かその分量
（六）臺所と便所の設備
（七）室内の色彩
（八）天井の高さ
（九）住宅は趣味か實用か
（十）家相を信ずるか否か

建築家　田中豊輔

一　山間ニシテ少クトモ二百坪
二　和洋折衷
三　大部分平家一部二階建、木造
四　六十坪位ニシテ六間以上
五　和洋折衷ニシテ椅子テーブルヲ用ユ
六　洋式ヲ加味シタルモノ
七　一部分ヲ和室トシ椅子式ノ室ハ過半洋風ヲ加味シタシ
八　室ノ大小ニ應ジ成ルヘク高ク致シタル
九　實用ヲ旨トシ一部分ニ趣味ヲ施シタシ
十　重ナル室ヲ東西南ニ向ケ家相ノ取ルベキモノハ信ズ

教育家　小川幸三

一　敷地百坪地勢ニ變化アル海濱
二　洋風
三　鐵筋混凝土二階建
四　延坪五十五坪間數八
五　書齋應接間客間ハ洋式其他和式
六　簡單ニ申上ラレマセンガ何レモ洋式ヲ加味セルモノ
七　明キ色ニシテ淡キモノヲ好ム
八　八尺ヨリ十尺マデ室ニ應ジテ變化アリ
九　實用六分、趣味四分
十　家相ハ知リマセヌガ知ラヌガ佛デス、人間ノ弱點トシテ

建築家　明石一夫

一　海濱、二百坪内外
二　洋風ニ三分ノ和風
三　二階建木造、炊事場及浴室ハ鐵筋
四　七間位五十坪位
五　書齋、應接室ハ折衷式洋七、和三、客間ハ和式
六　臺所電化、便所淨化裝置
七　洋室ハシックリト落付ノアル「ブラウン」系統ノ色彩
八　洋室ハ九尺和室ハ七尺五寸位
九　趣味トシテ見ル
十　信ゼズ

建築家　小川清次郎

一　山腹ニシテ海ノ見ヘル處敷地ハ一千坪以上
二　洋風、即チ當代ノ文化建築
三　木造、二階建、一部平家ノ事
四　先ヅ七十坪以上間數ハ十間位
五　書齋、洋式、客間和風及洋風、應接間、洋風、クツノマ、上リ得ルモノヲ望ム
六　臺所、文化流シ、電氣應用、便所淨化裝置、洗濯式
七　種々ノ好ミアリ
八　室ノ大サニ依リ案配スベシ（成可高ク）
九　是非兩樣ヲ一致セシモノ
十　人ノ忌ムモノヲ無理ニ實行モ致サズ、併シ衛生ト外觀トヲ含ミテノ家相上ノ注意ハ必要トス

教育家　田代長吉

一　成可クハ海濱ナレドモ風烈シカラザル所
百坪位
二　和風
三　木造平家建（但シ客室書齋ハ二階ニテモ可）
四　三十坪アラバ可六間位ヲ要ス
五　洋式ヲ望ムモ客室ハ兩樣必要ナラズ
六　殊ニ臭氣、虫類及鼠ヲ防グ爲充分周壁ヲ嚴ニス
七　明ルキ色彩ヲ好ム併シ白壁ハ不可、從來ノ黃大津位
八　九尺位アリタキト思フ之ガ適當ナラン
九　實用第一趣味第二
十　鬼門位ノ所ハ家相ニ從フ

教育家　橋元喜藏

一　海濱ニ遠カラザル山間
二　百坪位ニ和風ニ洋風ヲ加味シタルモノ
三　平家建ヲ主トシ一部二階建トシ木造トナス
四　二十五坪乃至卅坪臺所ヲ除キ七室位トス
五　應接間ダケ洋式トシ寬ギウル設備ヲ要ス
六　臺所ハ床張トシ立ツテ調理シウルヤウ、寬ギウル設備ヲ要ス、便所ハ今ノ我々ノ程度ニテハ大正式位ニ止メタシ
七　明イ淡イ色ヲ可トス但シ寒サウナ色ハ嫌デアリマス
八　從來ノ日本風ノモノヨリ少シ高キ方ヲ望ム
九　實用ノ中ニ趣味、趣味ノ中ニ實用ヲ感ズルヤウニシタシ
十　合理的家相ヲ信ジマス所謂的ヲ信ジマセヌ、要スルニ一ツノ參考ニ供スル考デアリマス

教育家　綾井熊太郎

一　海濱ニシテ二百坪内外
二　和風
三　木造平家建ニシテ一部分二階建
四　三十坪内外ニシテ間數ハ十間位
五　洋風
六　臺所ハコンクリート叩キヲ主トシ一部分板間便所ハ上下兩便ヲ要ス
七　綠色
八　九尺内外
九　實用ヲ主トシ趣味モ等閑ニ附スベカラズ
十　稍々信ゼザルベカラザル點アリ

筆築家　八木幸次郎

一　金ト位置トノ相談デ何レデモ可
二　多少洋風ヲ加味シタル和風
三　木造二階建
四　金ト地位トノ問題デ出來心ニヨル
五　洋式ヲ好ム
六　多少洋式トシ金ノカヽラヌ完全ナモノヲ好ム
七　建テル時ノ出來心
八　高キ方可
九　勿論實用（但シ金アレバ趣味モ可）
十　或ル程度迄信ジタイ

建築家　廣岡峰太郎

一　山間、約一丁歩位
二　洋風
三　平家建鐵筋
四　三十坪位、七間位
五　洋式
六　臺所洗練サレタル和風便所洋風
七　深綠、銀、白色
八　八尺五寸
九　趣味的ナル實用的
十　科學ニ根據ヲオク家相ヲ信ジル

建築家　足立兼次郎

一　山間建坪ノ三倍位ノ廣サ
二　和風ヲ主トシテ洋風ヲ加味セル物
三　二階建（主要部鐵筋）
四　二十坪以上三十坪迄一階三間乃至四間、二階二間
五　洋式
六　臺所、耐火構造、タイル張リ電熱、便所水洗式
七　落付イタ色、薄イクリームオレンヂ青味ガカツタネズミ色
八　八尺五寸位
九　實用トシテ見ル
十　信ズル

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

（每月壹回一日發行）

昭和二年二月廿八日印刷
昭和二年三月一日發行

大阪市東淀川區中津町一九八番地
發行兼編輯人 江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
兼印刷人 江村恒一

印刷所 大阪活版所
大阪市北區中之島二丁目二十五番地江商ビルヂング

發行所 社團法人 日本建築協會
電話本局四一九二番
振替口座大阪三九九七五

特約販賣店 大阪市西區京町堀羽子板橋北 柳々堂書店
電話（土佐堀四四〇番）
振替口座二一〇八四番



故會員松下甚三郎氏之照肖

會員松下甚三郎氏昭和二年一月二日卒然疾を以て逝く洵に哀悼に堪へず茲に略歴と照肖とを掲げ謹で弔意を表す

氏は明治二十五年相州小田原に生れ青森中學校を經て早稻田大學に入り大正五年七月理工學部建築學科を卒業し直に遞信省營繕課に奉職大正九年竹中工務店設計部に轉ず氏資性温順事に當りて精勵恪勤責任感念強く用意亦周密なり最近氏の關係せし大阪朝日會館の如き最後の力作として氏を忍ぶ好個のものなり又目下建築中の大同生命病院工事は氏が心血をそゝぎつゝありしが未だ竣成に至らず病を得て一月二日逝去せらる享年三十六歳



故終身賛助員　山本辰五郎氏之照肖

終身賛助員山本辰五郎氏昭和二年一月十五日疾を以て逝く寔に哀悼に禁へず茲に畧歴と照肖とを掲げ謹で弔意を表す

氏は明治元年五月十日千葉縣海上郡舟木村高田に生る、夙に建築界に志し明治二十二年上京、二十五年より建築請負業に携はる、明治二十八年大阪に出で西成鐵道建設工事を請負ふ、同三十二年福岡縣廳に奉職し在る事一年、同三十三年轉じて横濱に出でTコンドル博士に師事し斯業の研鑽を積む、同三十七年辭して再び大阪に出で請負業に從事す、以後合同紡績神崎工場及小松島工場、岸和田煉瓦綿業株式會社工場、日本郵船株式會社富島倉庫其の他、住友、近江、三十四、十五、鴻池の諸銀行、日本郵船、大阪商船、三共、大阪ガス等諸會社、片岡直溫氏邸、小山健三氏邸、山邑太左衛門氏邸、右近權左衛門氏邸住友家須磨別莊外各方面に於て故人の手に成れる優秀の建築物尠なからず。

大正十二年八月一日關東大震火災あるや先んじて東京に支店を設け復興建築に從事す、西園寺公邸、阿久津病院、內閣書庫、住友銀行麹町支店、銚子公正會館濱口坦氏邸を初め復興途上に故人の遺跡亦尠なからずかの淺草公園電氣館の如きは其の最後を飾る遺物たり。

尙大阪土木建築業組合常任評議員東京土木建築業組合第四部評議員、日本土木建築請負業者聯合會役員等の職にありて向後大いに爲すあるの志を懷きつゝも不幸病を得て昭和二年一月十五日大阪に於て突如病に罹り逝去せらる享年六十歲。

會報

一、委員會規程制定の件

二月十四日開會の常務會に於て委員會規程を左の通制定致しました

舊協會に於て設置致しました各種の委員會は社團法人組織となりましたと同時に自然消滅となりましたので新に委員會を設置する筈であります

委員會規程

第一章　委員會の組織

第一條　本會各般の事項を調査研究の爲委員會を置く

第二條　委員會は常設及臨時の二種とす

第三條　常設委員會は左の四部に分ち各所管の事項を調査す但し必要あるときは各部に分科を置く

第一部　法制

第二部　敎化

第三部　資料

第四部　災害

法制部に於ては建築に關する法規の調査研究をなす敎化部に於ては建築に關する一般的及藝術的智識の普及の爲め其の方法を審議す

資料部に於ては建築材料及建築に關聯する機械、電氣其の他の附帶施設に就き調査研究をなす

災害部に於ては建築物の震災、火災其の他の災害の調査をなし其の對策を研究す

以上の他必要ありと認めたる案件に對しては臨時委員會を設け隨時審議す

第二章　委員の選定

第四條　委員は常務會に於て選定し會長之を囑托す

第五條　委員の任期は一ケ年とす

第六條　委員の數は各部に十名以内とす但し分科を設けたるときは此の限りにあらず

第七條　委員中より委員長一名幹事若干名を互選す

第八條　臨時委員は用務の終了と共に任期を終りたるものとす

第九條　委員缺員を生じたる場合は直ちに補任す

第三章　委員會

第十條　委員會は毎月一回以上之を開く

第十一條　委員會は其の決議により會員外より臨時委員の囑托を要求することを得

第十二條　前項の要求は常務會之を決定し委員は會長之を囑托す

第十三條　委員其の擔當事項に關し出張を要するときは委員長を經て會長に請求することを得

委員の出張旅費は總て役員の例に據る

會合

○常務會

△日　時　二月十日(木)午後五時―九時

△會　場　本協會々議室

△出席者　常務　坪井誠一、松室重光、德政金吾、谷民藏、波江悌夫

野呂昌四郎、八木幸次郎

監事　橫濱勉

△記　事

一、本夕は各理事病氣及事故に依り缺席に付懇談會に變更し主記起草に係る處務細則、常務會内規及委員會規程に付て逐條的に審議修正をなし閉會を告げたり

○常務會

△日　時　二月十四日(月)午後五時―九時三十分

△會　場　本協會々議室

△出席者　理事　片岡安、宗兵藏、日高胖

常務　坪井誠一、松室重光、德政金吾、谷民藏、野呂長四郎、八木幸次郎

監事　橫濱勉

△報　告　一月分會計報告

△議　事

一、左記諸件に付協議決定せり

1 委員會規程に關する件

2 常務會内規に關する件

3 處務細則に關する件

4 二月例會に關する件

5 佐藤四郎氏照會に係る特許權侵害に關する回答の件

6 工業品規格統一調査會より照會に係る石材規格案に關する回答の件

7 會誌交換に關する件

8 集會室使用に關し使用料支出の件

9 電熱器使用に關する件

10 會計囑託依頼に關する件

11 資産管理に關し評議員會開催の件

12 會費未納者に關する件

13 本年度雜誌發行計畫に關する件

14 雜誌廣告料金改正の件

二、會員詮衡

○常務會

△日　時　二月二十一日(月)午後四時三十分―五時三十分

△會　場　江商ビルヂング大湖食堂別室

△出席者　理事　片岡安、宗兵藏

常務　坪井誠一、松室重光、阪口芳三郎、德政金吾、吉井長七、谷民藏、池田谷久吉、野呂長四郎

△議　事

一、各部委員會詮衡の件

委員會規程により各部の委員を詮衡し左の諸氏に依囑することに決定せり

第一部　法制委員(一〇名)

池田　實氏

石本喜久治氏

小川安一郎氏

橫濱　勉氏

竹中　景一氏

津田　齡雄氏

野呂長四郎氏

古塚　正治氏
宮本　長治氏
久留　弘文氏

第二部　教化委員（一〇）

井上　新二氏
伊藤　正文氏
池田谷久吉氏
小笠原　鋤氏
安井　武雄氏
松本　儀八氏
古宇田　實氏
酒井勇三郎氏
澁谷　五郎氏
姫野　武氏

第三部　資料委員（一〇名）

今林彦太郎氏
大倉　三郎氏
岡部　顯則氏
渡邊　珍久氏
谷　民藏氏
松室　重光氏
佐藤正次郎氏
光安梶之助氏
三木　來三氏
下浦　光衛氏

第四部　災害委員（一〇名）

池田　宮彦氏
置塩　章氏
落藤　藤吉氏
渡邊　圭吾氏
永澤　毅一氏
波江　悌夫氏
中島　智喜氏
黒田　茂氏
八木幸次郎氏
增田　清氏

二、各部委員會開催の件

各部委員決定に付來る三月二日（水）午後五時江商ビルヂング二階集會室に於て全部の委員の會合を願ひ委員長及幹事の互選を行ふことに決定

三、會員詮衡

○評議員會

△日　時　二月二十一日（月）午後五時三十分ー六時

△會　場　江商ビルヂング大湖食堂別室

△出席者　評議員　池田谷久吉、今林彦太郎、德政金吾、大原芳知、渡部○吾、片岡安、吉井長七、高田利一郎、谷民藏、宗兵藏、坪井誠一、長田岩次郎、野呂長四郎、松室重光、藤枝眞一、小西一眞、兒玉廣太郎、阪口芳三郎、酒井勇三郎、木村寛一、三木來三、平島末吉、須川廉太郎

△報　告

一、委員會規程制定の件報告

二、委員會設置の件報告

三、委員會委員氏名報告

四、本協會財産狀態報告

△議　事　本協會資産管理の方法の件

片岡會長議長となり定款第二十六條第二項により本會資産管理の方法に付て議決せられたき旨を述べ德政評議員より從來舊協會に於て資産管理方法に付て說明をなし協議の結果理事に一任することに決議せり

右終つて議長より前揭諸件の報告ありて閉會せり

○例　會

△日　時　二月二十一日（月）午後六時ー九時

△會　場　江商ビルヂング二階集會室

△出席者　平島末吉、大原芳知、木村寛一、小西一眞、須川廉太郎、渡部圭吾、酒井勇三郎、增田直一、芝原二郎、今林彦太郎、兒玉廣太郎、小川久市、高麗建城、高田利一郎、三木來三、長田岩次郎、松田由藏、森篤次郎、三浦白峰、加藤善吉、吉井長七、宗兵藏、坪井誠一、坂口芳三郎、德政金吾、野呂長四郎、松室重光、森本藤吉、阪井米吉、片岡安、谷民藏、藤枝眞一、岡本新次郎、池田谷久吉

△記　事

一、宗副會長開會を宣し之れより講演を始むる旨を述べ講演者大坪德一氏を紹介して着席

一、講演者大坪德一氏は『育兒上より見たる住宅』の演題の下に二時間餘の長講演に熱辨を振はれ聽者に滿足を與へられたる後質問に入り是亦一時間餘の熱誠ある應答ありて講演を了る宗副會長は一同を代表して謝辭を述べ會員亦拍手を以て之に和し謝意を表す

一、次いて坪井常務より會務報告ありて散會せり

○新入會者

會　員

角田　吉章君　此花區上福島北二丁目阪口館内

森　義弘君　府下三島郡島本村大日本紡績工場社宅八號

佐々木久次郎君　東成區今福町一七六

前島　浩一君　港區鶴町四ノ一八八

八尾　眞藏君　西成區東皿池町八二八ノ二石川方

中島　二郎君　府下豐能郡箕面紅葉通

竹田　延期君　府下三島郡千里山六八號ノ一

岡崎半兵衛君　此花區上福島北一ノ二二

小野　茂雄君　住吉區天王寺町一三三九

濱田　理一君　港區南八幡屋町二ノ五五ノ一

高井　久治君　府下中河内郡英田村吉田二六九

橋高　壽君　福山市西町五八

鳥山喜三郎君　臺北市東門町一六一

普通贊助員

波多野文治君　東京府豐多摩郡中野町三

田口　清君　港區船町農林省建築係出張所內

伊木　憲一君　尼崎市大物村五五一ノ四二松井方

渡邊辰之助君　神戸市北野町三ノ一五

森本　文章君　尼崎市別所村八三七渡邊方

○退會者

會員

小幡正治君、武藤英右衛門君、和田光次郎君、豊田清次君

普通贊助員

石井久雄君、中西徹君、石田曾次君、松岡誠一君、尼崎恒人君

○改姓

會員

山上　富君　舊姓森田富君、

○轉勤、轉居

會員

田中　光治君　北區澤上江町五ノ四二

曾柳和貴男君　西區西道頓堀通一丁目住友ビル內池田建築事務所

鈴木　末尾君　兵庫縣川邊郡小田村東長洲丸田三〇

中村吉太郎君　神戸市旗塚通一ノ七三

德永　義治君　東淀川區十三南町七四五

堀井方

福永　收三君　名古屋市東區東矢物町一七

野村　理一君　住吉區阿部野町一〇九

馬野　七登君　府下三島郡吹田町濱田町二七七〇

中村源太郎君　兵庫郡川邊郡小田村杭瀨寺島六ノ一

大澤　幸平君　東區農人橋詰大阪橋本組

森脇　圭三君　橫濱市新濱町稅關構內東神倉庫建築場大林組出張所

篠原　太郎君　東淀川區三國町高須八三一

北垣熊之介君　東區北濱關西土地株式會社

前田　武正君　港區市岡町六一四ノ四

村田　哲男君　港區市岡町八三六

安藤伊右衛門君　此花區西野田吉野一丁目安藤方

特別贊助員

山口半兵衛君　東區瓦町二山口ビル四階東洋リノリユーム株式會社營業所

武安　笑吾君　東京府下西巢鴨宮仲二三八八

普通贊助員

田平　宗美君　京都市上京區東竹屋町熊野道西入片岡方

江木　佐君　東京市神田區淡路町二ノ一三

林　健雄君　臺北市千歲町三ノ一

高濱　利道君　東京市神田區駿河臺鈴木町六

鹽田　福藏君　尼ケ崎市別所村廣小路

中津　定吉君　堺市翁橋町一〇九六

井上　利男君　府下豊能郡岡町伊丹通一丁目

廣田　弘文君　西成區千本通一ノ三八谷本方

辰己　常治君　兵庫縣高砂町魚町二八

清永　倉八君　名古屋市中區南伊勢町株式取引所新築場大林組出張所

阪本　佳明君　東成區森小路町六八六

田中卯三郎君　北區曾根崎上一ノ四九

細川　正君　京都市堺町通御池通南入大林組出張所

高松　秀行君　神戸市會下山町三ノ二八

齋藤小三郎君　京都市堺町通御池下ル大林組支店

橋本　秀齋君　兵庫縣兵庫郡今津町ノ內大箇大林組出張所

遠藤　誠君　橫濱市本町一丁目縣廳舍建築場大林組出張所

白石　竹松君　農林省農務局經理課建築係

上野　逢郎君　東京府豊多摩郡千駄谷青山アパートメント六號館三階七七

○住所不明者

左記人々の現住所御存知の方は乍御面倒協會宛御通知を願ひます

會員　石井　宏瀰君

贊助　大野　喜作君

役員

會長　理事　片岡　安

副會長　理事　宗　兵藏

副會長　理事　日高　胖

監事　橫濱　勉

監事　松本禹象

主記　常務　坪井誠一

同　常務　松室重光

同　常務　阪口芳三郎

主計　常務　德政金吾

同　常務　吉井長七

同　常務　谷　民藏

編輯　常務　池田谷久吉

同　常務　波江悌夫

同　常務　野呂長四郎

同　常務　八木幸次郎